

日本特殊教育学会 第60回大会 (2022理事会) プログラム集

The 60th Conference of the Japanese Association of Special Education in Tsukuba

開催形式 つくば国際会議場＋WEB配信

テーマ 実証性と創造的な対話を通じた
Special Educationの進展へ

会期 2022年9月17日(土)～19日(月・祝)



博報賞

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、
財団創立とともにつくられました。
「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、
日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の
「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。
また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行なっています。

活動領域

- 国語教育
- 日本語教育
- 特別支援教育
- 日本文化・ふるさと共創教育
- 国際文化・多文化共生教育
- 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動

賞の内容

正賞：賞状 副賞：博報賞100万円
功労賞 50万円
奨励賞 30万円

年間スケジュール

4～6月末 応募受付
7～9月 審査会
10月 受賞者発表
11月 贈呈式

審査委員

※五十音順(審査委員長除く)/敬称略

森山 卓郎 (審査委員長/早稲田大学 教授)

伊藤 亜希子(福岡大学 准教授)

岩瀧 大樹 (立教大学 教授)

東風 安生 (横浜商科大学 教授)

佐久間 亜紀(慶應義塾大学 教授)

滝川 国芳 (京都女子大学 教授)

田村 学 (國學院大學 教授)

成田 信子 (國學院大學 副学長・教授)

山元 隆春 (広島大学 教授)

渡部 匡隆 (横浜国立大学 教授)

※応募には、推薦資格を有する第三者の推薦が必須です。詳細は、3月下旬公開の「応募要項」をご覧ください。

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/>

【お問合せ先】公益財団法人 博報堂教育財団「博報賞」担当

博報賞

検索



〒100-0011

東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL:03-6206-6266(平日9:30~17:30) Mail:hakuhoushou@hakuhodo.co.jp

主催 公益財団法人 博報堂教育財団 後援 文部科学省

一般社団法人

日本特殊教育学会

第60回大会（2022理事会）
プログラム

2022年9月17日（土）～19日（月・祝）

つくば国際会議場＋WEB配信

The 60th Conference of
The Japanese Association of Special Education
TSUKUBA, Japan

理事会

日本特殊教育学会

日本特殊教育学会

第60回大会(2022理事会)プログラム

目次

| | |
|-------------------------------|-------|
| 第60回大会 開催のご挨拶 | (5) |
| 会場アクセス | (6) |
| 大会会場 | (8) |
| 大会参加者へのご案内 | (9) |
| 発表関係者へのご案内 | (15) |
| 発表に際してのお願い (アクセシビリティ関連) | (18) |
| 会場別大会日程 | (20) |
| 準備委員会企画 | (23) |
| 学会企画 | (35) |
| 自主シンポジウム | (43) |
| 口頭発表 | (71) |
| ポスター発表 | (77) |
| 索引 | (107) |
| 賛助団体御芳名 | (116) |
| 大会準備委員会名簿 | (117) |

ご挨拶

日本特殊教育学会第60回大会開催のご挨拶

日本特殊教育学会第60回大会準備委員会
委員長 野呂 文行（学会理事長）

日本特殊教育学会第60回大会の開催に際して、準備委員会を代表してご挨拶をさせていただきます。今回の大会は、2022年9月17日（土）、18日（日）、19日（月・祝）にかけて、つくば国際会議場（つくば市）で開催をさせていただきます。過去2回の大会（福岡教育大学・筑波大学）は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、いずれもオンデマンド・オンラインによるWEB開催となりました。2020年から始まり、2年以上に渡って続いているコロナ禍での生活は、すでに私たちの様々な活動に大きな影響を与えています。オンラインやオンデマンドを活用した学術活動は、もはや日常化しているといっても過言ではありません。その点も踏まえて、第60回大会は対面での実施に加えて、オンデマンドとオンラインを組み合わせたハイブリッドでの大会開催とさせていただきました。オンラインでの学会参加は、会場に足を運ぶことが難しい会員の大会参加の可能性を高めるという点で、コロナの感染状況に関わらず、今後も実施が望まれるものと予想されます。学会企画シンポジウム、自主シンポジウム、教育講演などについては、あらかじめオンデマンド形式により話題提供の準備をしていただいております。対面参加が難しい会員に対しても、オンデマンド録画による話題提供等を通じて、最新の学術情報に触れる機会を提供できるものと考えております。

一方で、今回の大会では、研究発表（ポスター形式・口頭発表形式）については、やはり発表者と参加者の対面でのディスカッションを重視し、すべて対面実施とさせていただきました。またシンポジウムにおいても、一部の自主シンポジウムを除いては、ディスカッションについては対面での実施とさせていただきました。

ハイブリッド形式での大会開催は初めての試みであり、参加者の皆様にはご不便をおかけすることもあるかと思えます。参加者の皆様も含めて新しい形式での大会開催へのチャレンジであると捉えていただき、ご理解とご協力をいただければと存じます。

なお、現時点（8月初旬）でも、新型コロナウイルス感染症は拡大の状況を見せしております。対面参加をしていただける参加者の皆様に対しては、大会ホームページ等を通じて、感染状況に合わせた対策等の情報をお知らせしていきます。その点についてもご理解をいただければと思います。

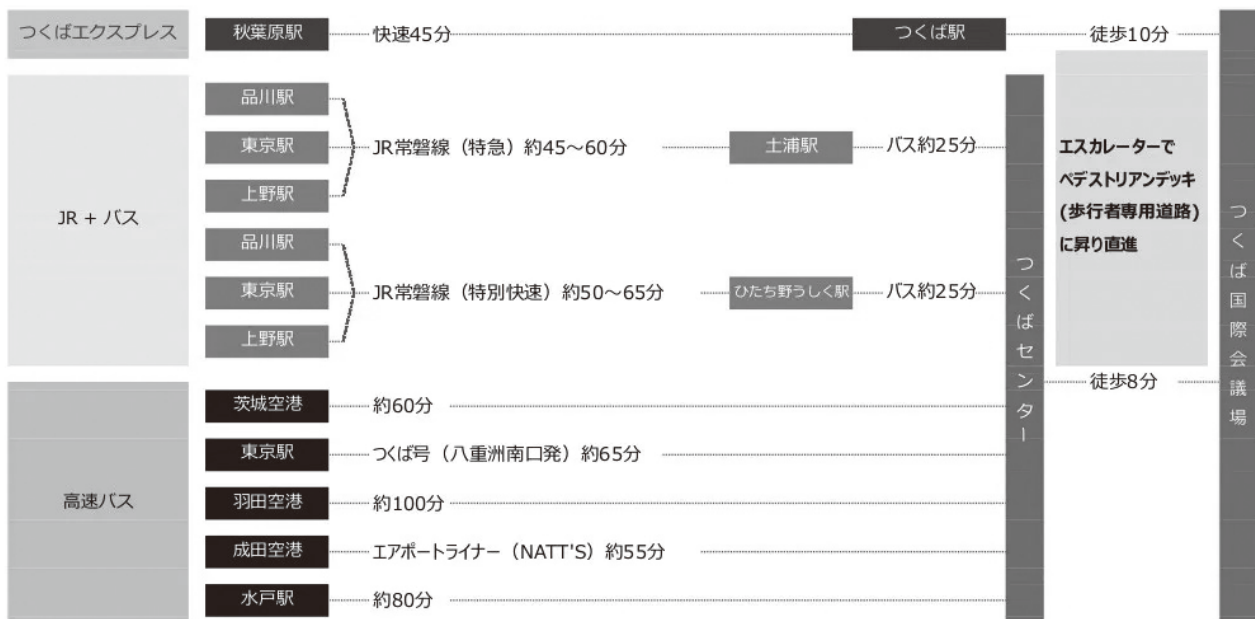
それでは9月17日に多くの会員の皆様はつくばにお迎えすることを楽しみにしております。

会場アクセス

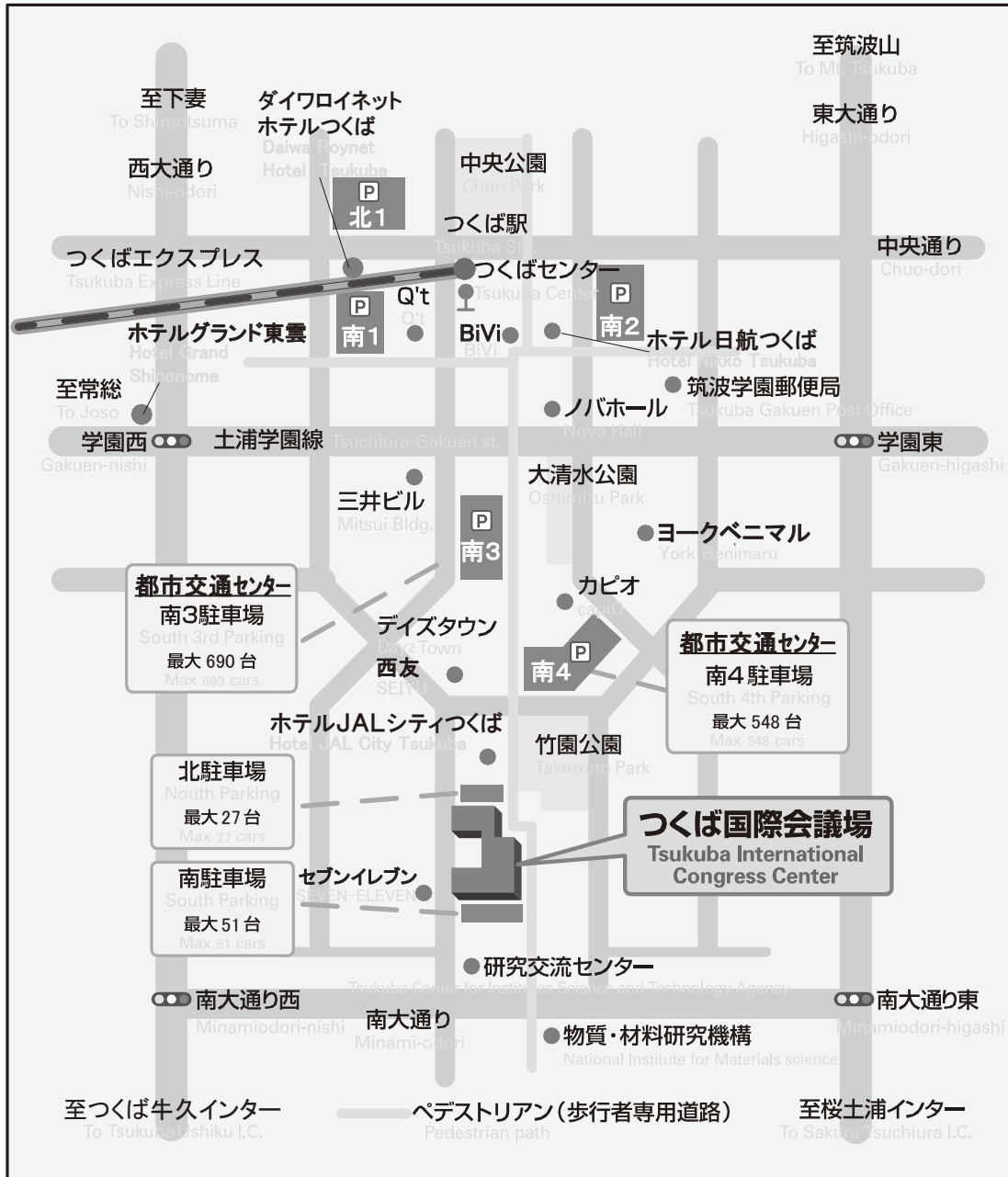
つくば国際会議場

〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3

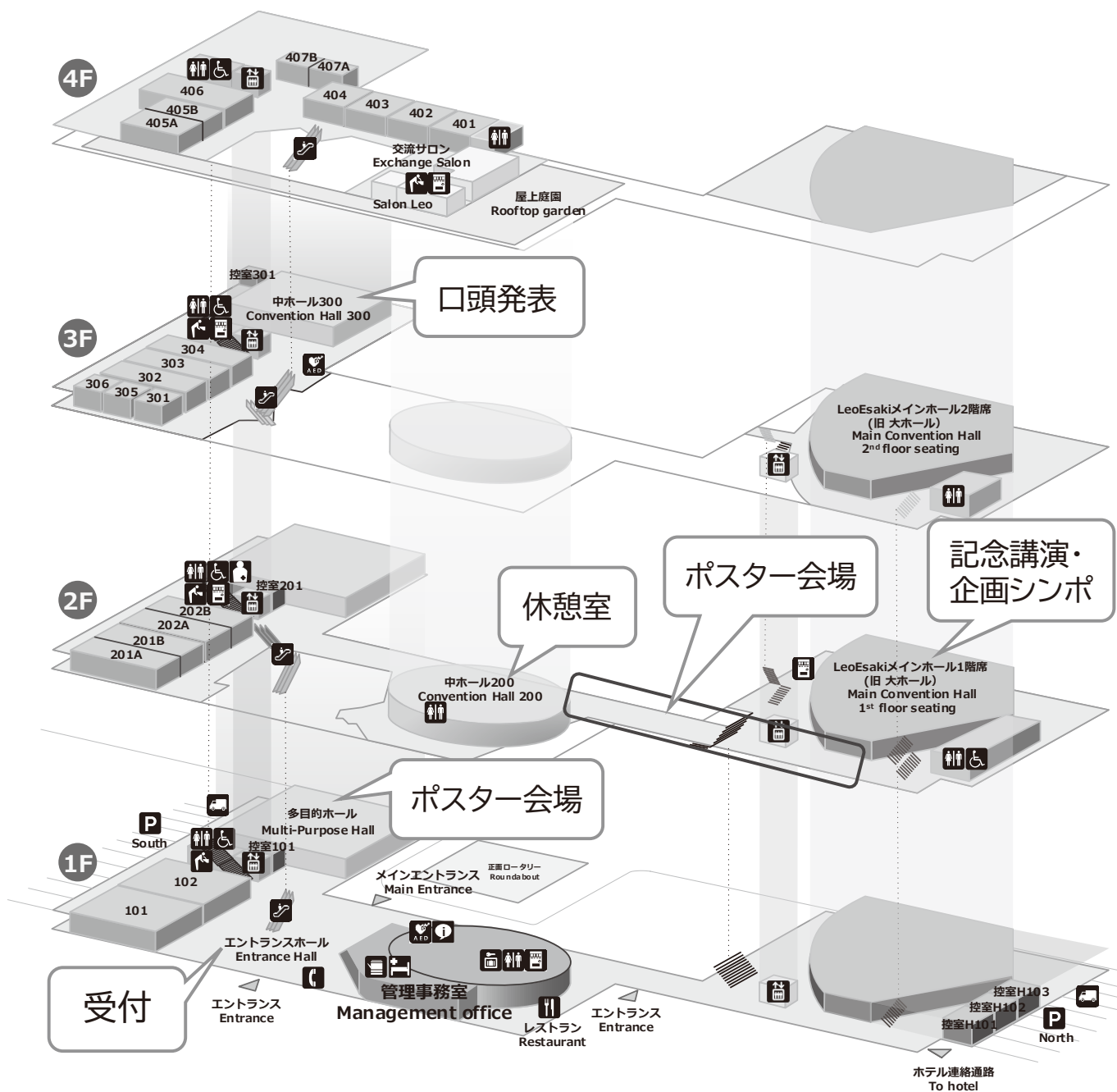
会場までのアクセス →



会場周辺図



大会会場



1F

- ◆ エントランスホール…………… 総合受付
- ◆ 多目的ホール…………… ポスター会場
- ◆ 大会議室 101 / 102 …… 自主シンポジウム

2F

- ◆ Leo Esaki メインホール …… 記念講演/学会企画シンポジウム/会員のつどい
- ◆ 2階コンコース …… ポスター会場
- ◆ 中会議室 201 / 202 …… 自主シンポジウム
- ◆ 中ホール…………… 休憩室

3F

- ◆ 中ホール…………… 口頭発表
- ◆ 小会議室 303 / 304 …… 自主シンポジウム

4F

- ◆ 小会議室 405 / 406 …… 自主シンポジウム

大会参加者へのご案内

1. 開催形式ごとの日程について

| 開催形式・日程 | 企画 |
|---|--|
| 9/9（金）～10/20（木） オンデマンド配信 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 学会企画シンポジウム（話題提供 / 質問フォームあり） ■ 国際シンポジウム（日本語字幕あり） ■ 教育講演（字幕あり） ■ 自主シンポジウム I（話題提供） ■ 自主シンポジウム II（話題提供 / 質問フォームあり） |
| 9/17（土）～9/19（月・祝） 対面開催 （つくば国際会議場） | <ul style="list-style-type: none"> ■ ポスター発表 ■ 口頭発表 ■ 自主シンポジウム I（質疑・ディスカッション） |
| 9/18（日） 対面開催（つくば国際会議場）・ リアルタイムオンライン配信 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 記念講演 ■ 学会企画シンポジウム（質疑・ディスカッション） |

- オンデマンド・リアルタイムオンラインの視聴方法
大会参加申込を行っている方に、配信開始3日前に、メールにて視聴方法のご案内をお送りいたします。大会ホームページからログインして、視聴ページにお入りください。

2. 諸費用

| | | | | |
|---------------|--------------|---------|-----------------|---|
| 参加 A | 正会員 | 会員 | 5,000 円 | 全ての企画に参加可能 ※発表論文集（CD-R）とプログラム（PDF）を含みます。 ※学部生は発表関与者に該当しません。 |
| | 大学院生・研究生・専攻科 | 会員・非会員 | 3,000 円 | |
| | 臨時会員 | 非会員 | 10,000 円 | |
| | 学部生 | | 無料 （参加申込 必要） | |
| 参加 B | 正会員 | 会員 | 2,000 円 | 実施スタイルが「リアルタイムオンライン」と「オンデマンド」の企画に参加可能（「対面@つくば国際会議場」の企画には参加できません） ※プログラム（PDF）は含みます。 ※発表論文集（CD-R）は含みません。必要に応じて別途購入してください。 |
| | 大学院生・専攻科 | 会員・非会員 | 1,000 円 | |
| | 臨時会員 | 非会員 | 5,000 円 | |
| | 学部生 | | 無料 （参加申込 必要） | |
| プログラム（冊子体） | | 1,500 円 | | 希望者のみ |
| 発表論文集（CD-ROM） | | 2,000 円 | | 数に限りがございますのでご注意ください。 |

※大会参加は、すべて事前登録となっております（申込受付終了）。

大会当日の参加受付は行っておりませんので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

3. 参加Aでお申し込みの皆様へ

- 上記、リアルタイムオンラインおよびオンデマンド配信、対面（つくば国際会議場）を含め、すべての企画に参加可能です。

今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況にともない変更の可能性もあります。

- 1) 対面実施日時：9月17日（土） 13：00～18：00
9月18日（日） 9：00～18：30
9月19日（月・祝）9：00～14：00

場 所：つくば国際会議場（〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3）

<https://www.epochal.or.jp/ja/>

（詳しくは、会場マップをご覧ください）

2) 会場入場の手続き

- 会場に入場する前に、健康状態確認書を提出してください。（健康状態確認書：大会 HP より入手可）

※「発熱、倦怠感、息苦しさ等」の症状がある方の入館をお断りすることがございますので、ご了承ください（今後の状況により、変更が生じる場合があります）。

- エントランスホールの受付にて、「ネームカード」「発表論文集（CD-ROM）」等をお受け取りください。

受付時間：9月17日（土） 12：00～17：00

9月18日（日） 8：00～16：00

9月19日（月・祝）8：00～12：00

※大会期間中の感染対策については、茨城県およびつくば国際会議場の要請にもとづき実施します。情報は、大会 HP に随時更新しますので、ご確認ください。

※ネームカードは、大会期間中必ずご着用ください。

- 受付ではプログラムや発表論文集（CD-ROM）の追加販売は行いません。
- 名誉・終身会員の方は、『名誉・終身会員受付』にお越しください。

3) 会場でのインターネット接続について

つくば国際会議場内の会場で、無線 LAN がお使いいただけます（オンデマンド企画およびリアルタイムオンライン企画にも参加いただけます）。

4. 参加Bでお申し込みの皆様へ

- つくば国際会議場 現地での大会参加はできません。つくば国際会議場へのご来場はご遠慮ください。

- 「リアルタイムオンライン（9月18日）」の企画には、オンラインで、ご参加いただけます（記念講演、大会企画シンポジウム）。大会ホームページからご参加ください。

- オンデマンド企画（9月9日～10月20日）に、ご参加いただけます。大会ホームページからご参加ください。

- つくば国際会議場における対面企画には、参加できません（口頭発表、ポスター発表、自主シンポジウムⅠの質疑応答）。

1) リアルタイムオンライン

記念講演 9月18日（日）14：30～15：30

学会企画シンポジウムⅠ（質疑応答）9月18日（日）9：00～10：00

学会企画シンポジウムⅡ（質疑応答）9月18日（日）10：30～11：30

学会企画シンポジウムⅢ（質疑応答）9月18日（日）12：00～13：00

※オンデマンド配信動画の話題提供を受けて、リアルタイムオンラインの質疑応答を行います。オンデマンド配信動画に質問フォームが設定されていますので、ご活用ください。

2) オンデマンド配信

配信期間：9月9日（金）13：00～10月20日（木）23：59

- ・学会企画シンポジウムⅠ～Ⅲ（話題提供）
- ・国際シンポジウム
- ・教育講演
- ・自主シンポジウムⅠ（話題提供と一部指定討論）
- ・自主シンポジウムⅡ（話題提供から指定討論まで / 質問フォーム）

5. 学術行事等

- 1) 本大会での学術行事は、「記念講演」、「学会企画シンポジウム（3演題）」、「国際シンポジウム（1演題）」、「教育講演（受賞者講演、ワークショップを含む17演題）」、「ポスター発表（378演題）」、「口頭発表（30演題）」、「自主シンポジウム（90演題、自主シンポジウムⅠ50演題、自主シンポジウムⅡ40演題）」からなっております。
- 2) 会場で実施する講演関係者、シンポジウム関係者、及び発表関係者は、それぞれ「講演関係者へのご案内」「シンポジウム関係者へのご案内」「自主シンポジウム関係者へのご案内」「口頭およびポスター発表関係者へのご案内」を必ずお読みください。

6. 会員のつどい

日時：9月18日（日）17：30～18：30

場所：つくば国際会議場 Leo Esaki メインホール（大ホール）

リアルタイムオンラインでの配信も予定しております。

7. 書籍・機器の展示、販売

今大会では書籍・機器の展示、販売はございません。

8. 昼食のご案内

感染対策により、大会期間中のお弁当等の販売は行いません。なお、つくば国際会議場内のレストランもご利用できませんので、近隣の飲食店の利用をお願いいたします（ランチマップを準備する予定です）。

また、会場内で、昼食をとっていただくことは可能です。スクール形式（前向き）と黙食にご協力ください（今後の状況により、変更が生じる場合があります）。

9. 学会事務局、大会本部

学会事務局、大会本部：つくば国際会議場 3階小会議室 301

10. シンポジウム等各種打ち合わせ・休憩場所

つくば国際会議場 中ホール 200 を、常時打ち合わせ場所、休憩室として開放いたします（ネットワーク接続については各自で機器をご用意ください）。

9月18日（日）の学会企画シンポジウムⅠ～Ⅲおよび記念講演の時間は、Leo Esaki メインホール以外でも企画に参加できるように、リアルタイムオンラインの視聴室を開放いたします。

11. 交流ラウンジ

大会期間中に、バーチャル会議システム「oVice（オヴィス）」を利用して、「交流ラウンジ」を開放いたします。

参加者同士の打ち合わせや懇親会などにご活用ください。大会ホームページからのご案内となります。

12. クローク

クロークはエントランスホールにご用意いたしますが、できるかぎり手荷物は宿泊先に預けるなど、自己管理にご協力ください。

＜お預かり時間＞

9月17日（土） 12：00～19：00

9月18日（日） 8：30～19：30

9月19日（月・祝）8：30～15：00

お荷物は、各日とも大会プログラム終了後30分以内に、必ずお引き取りください。

13. アクセシビリティ・サービス

1) アクセシビリティ窓口

アクセシビリティ・サービス関連で、御用のある方は、総合受付にてご用件をお伝えください。

2) 論文集の電子データ提供、発表補助、移動介助その他の支援について

本大会では、障害のある方に対して論文集の電子データ提供や発表補助（プレゼンテーションの操作、ポスター掲示等）、移動介助などのサポートをご用意いたします。

大会ホームページで事前にアクセシビリティ・サービスの申し込みをされた方には、大会プログラム公開後に大会準備委員会の担当者または担当コーディネーターよりメールをお送りします。大会プログラムをご確認の上、実際に希望される具体的な支援内容をご回答ください。ご回答の内容を確認後、個別にご連絡いたします。

3) 聴覚に障害のある方への情報保障について

大会ホームページで事前にアクセシビリティ・サービスの申し込みをされた方には、大会プログラム公開後に情報保障コーディネーターよりメールを送付します。大会プログラムをご確認の上、実際に情報保障を希望されるセッション名等をお知らせください。回答の内容を確認後、個別にご連絡いたします。

聴覚に障害のある発表者や話題提供者は、アクセシビリティ本部にて情報保障コーディネーターを窓口として通訳者と打合せをしていただきます。詳細については個別にご連絡いたします。

また、事前に情報保障を申し込まれた方で、当日やむを得ない事情によりその企画・セッションへの参加をキャンセルされる場合は、当該企画・セッション開始1時間前までに情報保障コーディネーターまでご連絡ください。

4) 追加のアクセシビリティ・サービスの利用申し込みについて

事前申し込みをされていない発表者または参加者からの追加のアクセシビリティ・サービスの利用申し込みについては、受け付けられません。

参加者の皆様方におかれましては、大会の円滑な進行にご協力賜りますようお願い申し上げます。

14. 掲示・連絡

1) 大会本部から大会会場での参加者への連絡は、大会ホームページにてお知らせするとともに、エントランスホールに設置する「インフォメーションボード」にて行います。発表等の変更や取り消しも、大会ホームページと「インフォメーションボード」にてお知らせいたします。

2) 緊急の場合を除き、会場での呼び出しはできませんので、ご了承ください。

15. 旅行・宿泊など

今大会ではJTBに斡旋を依頼しています。大会ホームページから申し込みいただけますのでご参照ください。なお、当日の会場にてトラベルデスクの設置は予定しておりません。

16. 急病・けが・体調不良など

会場内に簡易な救護室を設けていますので、休憩していただくことができます。なお、救急の場合には「119番」対応となります。救護の必要が生じた場合には、近くの大会係員までご連絡ください。

17. 感染対策

対面会場（つくば国際会議場）における感染対策は、茨城県およびつくば国際会議場の方針に従って実施いたします。

感染状況に応じて、都度、感染対策についての協力を依頼することとなりますこと、ご承知おきください。

以下、感染対策の例です。

- ・つくば国際会議場入館前の健康チェック
- ・つくば国際会議場入館前あるいは入室前の、茨城県の感染拡大防止システム「いばらきアマビエちゃん」登録
- ・新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の登録
- ・入室時の手指消毒やマスク着用の徹底
- ・入室前の換気

18. その他

- 1) ご不明な点がございましたら、大会係員にご遠慮なくお尋ねください。
- 2) 消防法の関係で各会場内に規定以上の人数が入れないことがありますので、ご理解ください。
- 3) 駐車場について：大会専用駐車場はございません。会場周辺に有料駐車場がありますので、(<https://www.epochal.or.jp/ja/交通アクセス/>)を参照ください。
- 4) 印刷・複写：大会本部では「印刷・コピー」はお受けできません。配布資料、発表論文集は必ず事前に印刷してご持参ください。
- 5) 会場内は屋内・屋外共に全面禁煙です（加熱式たばこも含みます）。
- 6) 当学会の参加は、以下の更新ポイントとして認められています。手続きの詳細は、申請先機関へお問合せください。
 - ・臨床心理士 資格更新制度「関連学会での諸活動への参加（第3群）」
 - ・学校心理士 更新ポイント F・G・H・I ※学校心理士更新ポイント A は申請中です

19. 第60回大会フューチャーリサーチアワードの実施について

- 1) 趣旨
前回大会に引き続き、第60回大会では、将来の学会発展を担う学生の研究奨励を目的として、大学院生が筆頭発表者となる研究発表（ポスター発表、研究発表）の中から優秀な発表を顕彰する「日本特殊教育学会第60回大会フューチャーリサーチアワード」を実施します。
- 2) 選考手順
選考は大会が選定した選考委員により、発表原稿に対する一次審査を経て、当日の発表に対して二次審査を行います。評価の高い数件を「日本特殊教育学会第60回大会フューチャーリサーチアワード」の受賞者とします。
- 3) 受賞者への対応
審査終了後、9月18日の「会員のつどい」にて、受賞者を発表します。その後、承諾が得られた受賞者については、学会ならびに大会ホームページに氏名・発表内容・講評を掲載する予定です。

20. 連絡先

日本特殊教育学会第 60 回大会 運営事務局（株式会社プロアクティブ内）

〒 650-0034 神戸市中央区京町 83 番地 三宮センチュリービル 3 階

TEL：078-332-2505 FAX：078-332-2506（平日 9：30-18：00）

e-mail：jase60@pacmice.jp

* 土日は休業日につき、電話・ファクスはつながりません。

* 大会期間中、会場内への直接のお電話等お問合せはお控えください。


発表論文集について

- ・参加Aでお申し込みをされ、大会会場に来られる方には、大会当日に、受付にて電子化した発表論文集（CD-R）をお渡しします。
- ・事前に大会ホームページでも公開いたします。（9月上旬頃公開予定。事前参加受付を行った方（参加A、参加Bとも）のみ閲覧可能です。）
- ・当日に冊子や印刷されたものは配布いたしません。事前にプリントアウトした原稿を持参する、CD-Rの内容が確認できるノートパソコン（PDFファイルの読み込みが可能なもの）を準備するなどの対応をお願いいたします。会場内でのプリントアウトはできませんので、ご了承ください。
- ・参加Bでお申し込みの方には発表論文集（CD-R）は含まれません。

記念講演・学会企画シンポジウムⅠ～Ⅲ関係者へのご案内

1. 講演者は講演開始 30 分前までに受付にお越しくください。係員が講演会場控室または講師控室までご案内いたします。
2. PC プロジェクター・ビデオ・DVD 等のご使用、および当日配布資料などに関しましては、事前に各担当者から相談・確認をさせていただきます。

自主シンポジウム(自主シンポジウムⅠ)関係者へのご案内

1. 会場で行う各シンポジウムの質疑、ディスカッションの時間は 1 時間です。発表の時間配分は司会者にお任せしますが、前後の換気時間を確保するため、制限時間を厳守していただくようお願いいたします。パソコンを使用する場合は動作確認を行ってください。
2. 関係者は、セッション開始 15 分前までに各会場にご参集ください。
3. 対面での実施が原則です。やむを得ず、オンラインによる登壇が必要な話題提供者や指定討論者がいらっしゃる場合、企画者等、会場に来られる関係者でセッティングを行ってください。大会側での対応は行いませんのでご了承ください。
※オンラインによる登壇者がいらっしゃる場合には、運営事務局へ申し出てください。
4. 会場ではプロジェクターの使用が可能ですが、パソコンはご持参ください。
機器の操作はご自身でお願いいたします。プロジェクター入力端子は、 HDMI 端子(右図)です。
お持ちのパソコンの出力端子をご確認いただき、パソコンに応じた変換アダプターを必ずご持参ください。
5. 補足資料を配布される場合には、事前に必要な部数(原則として 100 部程度)をご用意ください。
6. 司会者は、フロアの参加者に対し、氏名・所属を明らかにしてから質問をするように促してください。
7. 終了後は換気および密を防ぐため、速やかに会場より退室のご協力をお願いいたします。
8. 自主シンポジウムⅠのリアルタイムオンライン配信(会場外への参加者に対する配信)および、録音、録画は認められません。

口頭およびポスター発表関係者へのご案内

[口頭発表]

1. 発表時間

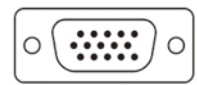
- 1)発表時間は1発表につき15分で、口頭による発表の時間が10分、質疑応答の時間が5分です。
- 2)進行係が以下のように時間経過をお知らせします。

発表開始後9分：1鈴 10分：2鈴(発表終了)15分(質疑応答終了・交替)

2. 発表用機器

会場(中ホール300)にパソコンを用意しておりますので、そちらをご使用ください。発表データはUSBフラッシュメモリに保存し、発表セッション開始15分前までに会場におこしください。

パソコンはWindows PC(Microsoft Office 搭載)を用意いたします。なお、様々な条件により動作に支障をきたす場合がございますので、特に動画データなどを利用される方は、動作確認されたご自身のパソコンをご持参ください。このとき、音声を流す必要のある方はポータブルスピーカーなどの準備をお願いします。ご自身のパソコンの使用をご希望の方は、プロジェクター入力端子にはミニD-Sub15ピン(右図)が使用可能



かご確認の上、お持ちください。

お手持ちのパソコンの出力端子がミニD-Sub15ピンでない場合は、変換アダプターをご持参いただく必要がありますのでお気をつけください。

発表時間が限られておりますので、円滑な機器接続操作にご協力をお願いいたします。

3. 筆頭演者の交代

不測の事態により筆頭演者が発表できない場合には、連名発表者の代理発表を認めます。発表受付にて、その旨、申し出てください。なお、代理発表の対応となった場合、発表抄録およびプログラムの筆頭演者の名前は修正できません。

4. その他

研究発表の資料は発表論文集をあてるのが原則ですが、補足資料の配布が必要な場合には、事前に発表者が必要部数を用意してください。

また、口頭発表のリアルタイムオンライン配信(会場外への参加者に対する配信)および、録音、録画は認められません。

※口頭発表の座長の方へ

- 1)座長の方は司会・進行をお願いいたします。特に制限時間を厳守するようにお願いいたします。
- 2)座長は2名の方をお願いしておりますので、協議の上、分担内容を決めてください。1名が欠席しても補充はいたしません。
- 3)司会の際には、フロアの参加者に対して氏名・所属を明らかにして質問をするように促してください。

[ポスター発表]

1. 本大会のポスター発表は、自由討論の形式で行います。
2. ポスター発表は、会場に設置されるパネルの指定番号の位置への20分前までの貼付、発表時間60分のポスター掲示、この間の自由討論を満たした場合(在籍者は受付で配布するリボンを必ず着用してください)、正式発表とみなされます。
3. 不測の事態により筆頭演者が発表できない場合には、連名発表者の代理発表を認めます。発表受付にて、その旨、申し出てください。なお、代理発表の対応となった場合、発表抄録およびプログラムの筆頭演者の名前は修正できません。
4. ポスター発表のリアルタイムオンライン配信(会場外への参加者に対する配信)および、録音、録画は認められません。

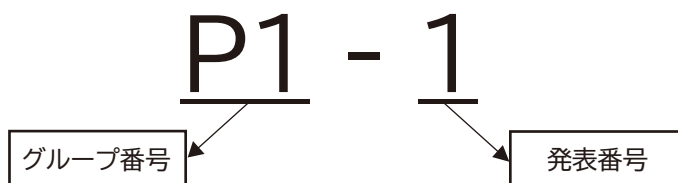
5. ポスター発表の掲示・在籍時間は以下の表の通りです。

【ポスター発表スケジュール】

| | グループ | 会場 | 必要在籍時間 |
|----------------|--------|---------|------------------|
| 9月17日(土) | ポスター1 | 2階コンコース | 掲示時間 14:00～15:00 |
| | ポスター2 | 多目的ホール | 掲示時間 14:00～15:00 |
| | ポスター3 | 2階コンコース | 掲示時間 15:30～16:30 |
| | ポスター4 | 多目的ホール | 掲示時間 15:30～16:30 |
| | ポスター5 | 2階コンコース | 掲示時間 17:00～18:00 |
| | ポスター6 | 多目的ホール | 掲示時間 17:00～18:00 |
| 9月18日(日) | ポスター7 | 2階コンコース | 掲示時間 16:00～17:00 |
| | ポスター8 | 多目的ホール | 掲示時間 16:00～17:00 |
| 9月19日 (月・祝) | ポスター9 | 2階コンコース | 掲示時間 9:00～10:00 |
| | ポスター10 | 多目的ホール | 掲示時間 9:00～10:00 |
| | ポスター11 | 2階コンコース | 掲示時間 10:30～11:30 |
| | ポスター12 | 多目的ホール | 掲示時間 10:30～11:30 |
| | ポスター13 | 2階コンコース | 掲示時間 12:00～13:00 |
| | ポスター14 | 多目的ホール | 掲示時間 12:00～13:00 |

6. パネルの大きさは横90センチ×縦210センチです。左上に横20センチ×縦10センチのポスター番号を掲示いたします。ポスターの最上部には発表題目(フォントサイズ目安:72ポイント)、発表者氏名(筆頭発表者に○印をつける)、および所属を明示してください。ポスター作成の際には、文字の大きさや図表の見やすさに注意し、2メートル離れたところから全体が読めるようにしてください。

(ポスター番号の例)



7. 当日、補足資料を配布される方は各自必要部数を用意し配布してください。
8. 補足資料の回収を必要とする場合は、発表者が責任を持って回収・処分してください。
9. 発表時間が終了したら、直ちにポスターを撤去し、リボンや画鋏は受け取ったポスター会場受付場所に返却してください。
10. ポスターの撤去は、発表時間(60分)終了後、10分以内に速やかに行ってください。時間を過ぎて掲示されている場合、運営側で撤去致しますのでご了承ください。
11. 終了後は換気および密を防ぐため、速やかにポスターの撤去へのご協力をお願いいたします。

以下、研究発表前に、ご確認ください。

(一社)特殊教育学会年次研究大会における研究発表に関する取扱い規定

https://www.jase.jp/convention/pdf/presentation_rule_220227.pdf

発表に際してのお願い(アクセシビリティ関連)

1) 色覚特性(色覚障害)・ロービジョン(弱視)の参加者への情報保障のお願い

色覚特性(色覚障害)並びにロービジョン(弱視)の参加者が視覚情報を支障なく受け取れるように、講演用スライドやポスター等を作成する際には色彩や配色、文字の大きさ等に十分配慮していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

色覚特性のある方は日本人の男性の20人に1人、女性の500人に1人、日本全体では約320万人いると言われており、その特性により見えにくい色彩や配色があります。色覚特性に配慮していただきますと、弱視の方もほぼ同様の配慮で見やすくなります。以下に配慮事項や参考資料を掲載いたしますので、資料作成の際にご参考になさってください。

〈配慮事項〉

1. 使用する文字は太字にする
2. 赤色は見えにくいので、注意を喚起する色としては使用しない。
3. 緑色または黒地の背景に赤色(またはその逆)の文字や図の使用を避ける。
4. 黒を背景とした白や黄色の文字は見やすい。
5. 白を背景とし、黒のヘッジ(囲い)をつけた白い文字は見やすい。
6. 判別が難しい色同士の配色を避ける。
例:「赤・緑」、「深緑・こげ茶」、「ピンク・灰色」、「灰色・水色」、「黄緑・黄土色」、「青緑・灰色」、「薄い緑・肌色」
7. グラフなどの図は、色のみではなく模様または文字などによる情報も加える。
8. グラフなどの図は、外周を黒でふちどり、その中に掲示する色同士の境目にも黒線を引く。
9. スライドの文字は太字で5行以内に大きく掲示すると見やすい。
10. スライドの背景デザインはなるべく連続して同一のものでそろえると目が疲れない。

〈参考資料〉

- 文部科学省「色覚に関する指導の資料」
<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/2470/00004402/sikikaku.pdf>
- 日本生理学会「色覚異常者に配慮したカラースライドとポスター作成についての提言」
<http://physiology.jp/content/6201/>
- NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構
<http://www2.cudo.jp/wp/>
- 鳥取県「カラーユニバーサルデザインガイドブック」
https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/954753/CDU01_CUD20.pdf

2) 視覚障害等のある参加者への電子データご提供等の配慮のお願い

講演やシンポジウム等において、抄録に記載されていない内容がスクリーン投影されたり、追加の資料が配られたりする場合が多く見られますが、視覚に障害があるとこれらの内容にアクセスできないことがあります。もし視覚に障害がある参加者から電子データ等の提供に関する要望があった場合には、ご協力をお願いいたします。

また、ポスター発表や展示等で視覚に障害のある参加者を見かけた際には、積極的にお声掛けいただき、発表や展示の内容を言葉でわかるようにご説明いただけますようお願いいたします。

3) 聴覚障害のある参加者のための情報保障のお願い

日本特殊教育学会では聴覚に障害のある会員のために、一部のプログラムで情報保障を行っております。情報保障の質を担保するためには、手話通訳者や文字通訳者のスキルのみならず、講演者や発表者のご協力が欠かせません。

情報保障を設置することになった企画については、情報保障コーディネーターから連絡をさせていただきますので、下記についてのご協力をお願いいたします。

1. 大会1週間前までに、講演者、話題提供者、指定討論者等が当日に使用される資料の提供をお願いいたします。
2. 手話通訳および文字通訳の見やすさに配慮した会場設営にご協力をお願いします。
3. 通訳者席の確保にご協力をお願いします。
4. 文字通訳の場合は、適宜通訳の状況をスクリーンでご確認いただき、司会進行の調整をお願いします。
5. 視聴覚資料を使用される場合は、あらかじめ情報保障コーディネーターにお伝えください。

会場別大会日程 1日目 (9月17日 土曜日)

| | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 |
|-----------------|------------------------|----------------------------|------------------------|-----------------------------|------------------------|-----------------------------|
| エントランスホール | 受付 | | | | | |
| 2階コンコース | | ポスター発表P1 (14:00~15:00) | | ポスター発表P3 (15:30~16:30) | | ポスター発表P5 (17:00~18:00) |
| 多目的ホール | | ポスター発表P2 (14:00~15:00) | | ポスター発表P4 (15:30~16:30) | | ポスター発表P6 (17:00~18:00) |
| Leo Esakiメインホール | | | | | | |
| 中ホール300 | 口頭発表1 (13:00~14:40) | | 口頭発表2 (14:40~16:20) | | 口頭発表3 (16:20~18:00) | |
| 中ホール200 | 休憩室 | | | | | |
| 大会議室101 | | 自主シンポジウム1 (14:00~15:00) | | 自主シンポジウム8 (15:30~16:30) | | 自主シンポジウム15 (17:00~18:00) |
| 大会議室102 | | 自主シンポジウム2 (14:00~15:00) | | 自主シンポジウム9 (15:30~16:30) | | 自主シンポジウム16 (17:00~18:00) |
| 2階中会議室201 | | 自主シンポジウム3 (14:00~15:00) | | 自主シンポジウム10 (15:30~16:30) | | 自主シンポジウム17 (17:00~18:00) |
| 2階中会議室202 | | 自主シンポジウム4 (14:00~15:00) | | 自主シンポジウム11 (15:30~16:30) | | 自主シンポジウム18 (17:00~18:00) |
| 3階小会議室301 | 大会事務局 | | | | | |
| 3階小会議室303 | | 自主シンポジウム5 (14:00~15:00) | | 自主シンポジウム12 (15:30~16:30) | | 自主シンポジウム19 (17:00~18:00) |
| 3階和室305・306 | 救護室 | | | | | |
| 4階小会議室405 | | 自主シンポジウム6 (14:00~15:00) | | 自主シンポジウム13 (15:30~16:30) | | 自主シンポジウム20 (17:00~18:00) |
| 4階中会議室406 | | 自主シンポジウム7 (14:00~15:00) | | 自主シンポジウム14 (15:30~16:30) | | 自主シンポジウム21 (17:00~18:00) |

会場別大会日程 2日目 (9月18日 日曜日)

| | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | |
|-----------------|-----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-------|-------|-------|-----------------------|---------------------------|-----------------------------|-------|--|
| エントランスホール | 受付 | | | | | | | | | | |
| 2階コンコース | | | | | | | | ポスター発表P7 (16:00~17:00) | | | |
| 多目的ホール | | | | | | | | ポスター発表P8 (16:00~17:00) | | | |
| Leo Esakiメインホール | 学会企画シンポジウムI (9:00~10:00) | 学会企画シンポジウムII (10:30~11:30) | 学会企画シンポジウムIII (12:00~13:00) | | | | 記念講演 (14:30~15:30) | | 会員のつどい (17:30~18:30) | | |
| 中ホール300 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | | | |
| 中ホール200 | 休憩室 | | | | | | | | | | |
| 大会議室101 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | 自主シンポジウム22 (16:00~17:00) | | |
| 大会議室102 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | 自主シンポジウム23 (16:00~17:00) | | |
| 2階中会議室201 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | 自主シンポジウム24 (16:00~17:00) | | |
| 2階中会議室202 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | 自主シンポジウム25 (16:00~17:00) | | |
| 3階小会議室301 | 大会事務局 | | | | | | | | | | |
| 3階小会議室303 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | 自主シンポジウム26 (16:00~17:00) | | |
| 3階和室305・306 | 救護室 | | | | | | | | | | |
| 4階小会議室405 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | 自主シンポジウム27 (16:00~17:00) | | |
| 4階中会議室406 | オンデマンド配信視聴室 | | | | | | | | 自主シンポジウム28 (16:00~17:00) | | |

会場別大会日程 3日目 (9月19日 月曜日・祝日)

| | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 |
|-----------------|----------------------------|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|-------|
| エントランスホール | 受付 | | | | | |
| 2階コンコース | ポスター発表P9 (9:00~10:00) | | ポスター発表P11 (10:30~11:30) | | ポスター発表P13 (12:00~13:00) | |
| 多目的ホール | ポスター発表P10 (9:00~10:00) | | ポスター発表P12 (10:30~11:30) | | ポスター発表P14 (12:00~13:00) | |
| Leo Esakiメインホール | | | | | | |
| 中ホール300 | 口頭発表4 (9:00~10:40) | | 口頭発表5 (10:40~12:20) | | 口頭発表6 (12:20~14:00) | |
| 中ホール200 | 休憩室 | | | | | |
| 大会議室101 | 自主シンポジウム29 (9:00~10:00) | | 自主シンポジウム36 (10:30~11:30) | | 自主シンポジウム43 (12:00~13:00) | |
| 大会議室102 | 自主シンポジウム30 (9:00~10:00) | | 自主シンポジウム37 (10:30~11:30) | | 自主シンポジウム44 (12:00~13:00) | |
| 2階中会議室201 | 自主シンポジウム31 (9:00~10:00) | | 自主シンポジウム38 (10:30~11:30) | | 自主シンポジウム45 (12:00~13:00) | |
| 2階中会議室202 | 自主シンポジウム32 (9:00~10:00) | | 自主シンポジウム39 (10:30~11:30) | | 自主シンポジウム46 (12:00~13:00) | |
| 3階小会議室301 | 大会事務局 | | | | | |
| 3階小会議室303 | 自主シンポジウム33 (9:00~10:00) | | 自主シンポジウム40 (10:30~11:30) | | 自主シンポジウム47 (12:00~13:00) | |
| 3階小会議室304 | | | 自主シンポジウム50 (10:30~11:30) | | | |
| 3階和室305・306 | 救護室 | | | | | |
| 4階小会議室405 | 自主シンポジウム34 (9:00~10:00) | | 自主シンポジウム41 (10:30~11:30) | | 自主シンポジウム48 (12:00~13:00) | |
| 4階中会議室406 | 自主シンポジウム35 (9:00~10:00) | | 自主シンポジウム42 (10:30~11:30) | | 自主シンポジウム49 (12:00~13:00) | |

準備委員会企画

記念講演
国際シンポジウム
教育講演

「社会参加に必要なスキルの育て方」

穴澤 雄介 氏

[ヴァイオリン奏者、ヴィオラ奏者、作曲家、講演家]



心臓と目に障害をもって生まれ、高校時代にほぼ視力を失う。

筑波大学附属盲学校高等部本科音楽科、同専攻科音楽科を卒業。

「第7回ゴールドコンサート」でグランプリ、「第25回浅草ジャズコンテスト・バンド部門」で金賞他、受賞多数。2018年 シンガポールで開催された「アジア太平洋障害者芸術祭」出演他、ライブ演奏、講演活動を全国各地で展開。

- 作曲・演奏活動：『ようこそ楽登王国へ』(NHKラジオ「ともに生きる」番組テーマ曲)等多数, CDアルバム『Another World ~虹の待つ明日へ~』他多数
- 著書：『見えなくなったら希望が見えた(KADOKAWA)』
- テレビ出演：NHK 総合『東京 2020 オリンピックみんなでハイライト』『東京 2020 パラリンピック・あさナビ』『北京オリンピック・パラリンピックみんなでハイライト』等

International Perspective of Inclusion: Challenges for the Future

インクルージョンの世界的な視点：未来への課題

企画者 川合 紀宗 (広島大学)・宮本 昌子 (筑波大学)・是永かな子 (高知大学)・井上 知洋 (香港中文大学)・野口 晃菜 (一般社団法人 UNIVA)

講演者 Kathryn Johnson, Ph.D. (St. Cloud State University)
Stephanie Peña (The Global Campaign for Education-US)

KEY WORDS: インクルージョン、SDGs、障害者の権利条約

まず、講演者らが所属する St. Cloud State University や The Global Campaign for Education-US (GCE-US)で行っている活動について紹介し、次にインクルーシブ教育と幼児教育の実践コミュニティについて説明する。そして、インクルーシブ教育の重要な概念をいくつか紹介し、インクルーシブ教育に対する世界的な取り組みについて紹介する。

世界で約 6,500 万人存在する障害のある子供のうち 50% が学校に通えていない。特に COVID-19 の影響により、障害のある学習者など、社会から疎外されやすい人々にとって、教育へのアクセス状況を悪化させた。子供は一度教育制度から離れると、多くの学習損失が発生するため、教室に戻すことは更に難しくなる。COVID-19 が原因で、さらに 1 億人の子供が教育水準に達していないという結果もある。世界銀行が最近発表した報告書では、世界の 10 歳児の 2/3 は簡単な文章を読むことができないと述べており、この点も COVID による学校の閉鎖によって大きな影響を受けている。

排除、分離、統合、インクルージョンの主な違いは何か。排除とは、子供が直接的または間接的に教育へのアクセスを拒否されることである。よって、この場合、障害のある子供が障害のない子供と同じ教室に参加することが妨げられる。そのため排除は、障害に関連する否定的なスティグマ、否定的な態度、障害のある学習者は教室で価値がないという信念のために実践されることもある。

一方、分離教育は、障害のある子供たちの教育が、特定の障害に対応するために設計または使用された、障害のある子供を隔離した別々の環境で提供される場合に起こる。分離の例としては、特別支援学校があり、障害のある子供は、一般教育制度から分離された独自の学校制度を持つことになる。統合は、学習者自身がこれらの教育機関の標準化された要件に適應できる限り、障害のある学習者を既存の主流または一般教育機関に配置するプロセスであることを除いては、分離と統合は類似している。これは、学習者が成功するために必要なサポートを受けられるように、制度自体を変えることなく、障害のある学習者を一般教育制度に入れることを意味する。最後に、グローバルコミュニティとして、教育の究極の目標であるインクルージョンについて述べる。インクルージョンはプロセスでもあり、国や教育制度によって、現在の構造を変革し、インクルーシブな教育制度を確立するためのプロセスは異なる。インクルージョンは制度改革と定義され、障害のある子供が経験する障壁を克服するために、教育で使用される文脈、教授法、アプローチ、さまざまな戦略の変更と修正を具現化するものである。

次に、インテグレーションとインクルージョンの違いについて述べる。カリキュラムや教育・学習戦略などの構造的な変化を伴わずに、障害のある学生を主流のクラスに入れることは、インクルージョンとは言えない。目標は、す

べての子供に公平で参加型の学習体験を提供することである。さらに、インテグレーションは隔離からインクルージョンへの移行を保証するものではなく、それは単にプロセスであり、プロセスをより困難にする、あるいは学習者にとってよりアクセスしやすくする障壁が存在する。

では、インクルーシブ教育とはどのようなものなのか。インクルーシブ教育とは、学習への参加を増やし、教育や教育制度からの排除を減らすことを通じて、すべての学習者のニーズの多様性に取り組み、対応するプロセスである。つまり、障害のある学習者やその他の脆弱なグループの妨げとなっている障害を特定するだけでなく、教育制度を強化する革新的で効果的な解決策をもってその障害に対応することである。障害のある子供たちは、教育制度から排除され、疎外される危険性が最も高い。あらゆる年齢の障害のある学習者が、障害のない仲間と共に、地域の教育機関や学校に通う機会がないことが主な課題であり、国連障害者の権利条約の第 24 条や SDGs で示されたビジョンの達成に深刻な影響を及ぼす。SDGs は将来にわたり、人々と地球の平和と繁栄のための青写真を提供するものである。グローバルアジェンダの中心には、17 の持続可能な開発目標があり、グローバルなパートナーシップのもと、すべての先進国と開発途上国による行動の緊急呼びかけとなっている。貧困やその他の危機を終結させることは、子供の健康状態の改善や教育改革、経済成長を促すために、平等化のための戦略を立てなければならない。

インクルーシブ教育に対して、ただ 1 つのサイズに合ったアプローチを採用することはできない。異なる構成要素を考慮することで、より効果的な成果を得ることができる。障害は、医学的な概念ではなく、社会的な概念として捉えられるようになった。そして、我々は、障害のある子供たちを問題視しているのではなく、制度を問題視し、どのようにして教育制度をよりインクルーシブできるかを考える必要がある。そのためには、態度の障壁と環境の障壁の相互作用に注意を払うことが重要となる。

Kathryn Johnson 氏は、米国セント・クラウド州立大学教授、同大学国際障害者擁護・外交センター長、中国語・中国文化プログラムディレクターである。過去 22 年間、75 回以上中国を訪れ、異文化理解、中国語・文化教育、中国手話の普及、中国でのろう教育の促進を提唱してきた。

Stephanie Peña 氏は、Global Campaign for Education-US の Inclusive Education Coordinator で、マサチューセッツ大学ボストン校の博士課程に在籍している。博士課程では、カンボジア、マラウイ、ネパールで米国国際開発庁が実施している研究活動に携わった経験をもつ。

(Kathryn JOHNSON, Stephanie PEÑA)

教育講演 1

自閉スペクトラム症児における言語称賛の条件性強化子成立

-自己刺激性強化子を利用して-

講師 青木 康彦 (聖学院大学人文学部助教)

【講演概要】

自閉スペクトラム症児の中には、言語称賛が条件性強化子として成立していない児童がいる。言語称賛が条件性強化子として成立していないASD児においては、社会性の発達(例;共同注意等)が遅れる可能性がある。条件性強化子成立を妨害する要因の一つとして自己刺激行動(例;手をひらひらさせる、物を一列に並べる等)がある。一方で、自己刺激行動は強化子として利用する(以下、自己刺激性強化子)ことで、条件性強化子の成立が促される可能性がある。自己刺激性強化子を提示する支援者における言語称賛の条件性強化子成立の可能性について、複数の研究から考察する。

教育講演 2

肢体不自由者における「自ら動くこと」の生涯発達

講師 船橋 篤彦 (広島大学大学院人間社会科学研究科 特別支援教育学領域講師)

【講演概要】

本講演では、私がこれまで取り組んできた以下の2点を中心にお話をいたします。1点目は、定型発達者を対象とした姿勢・移動運動の発達研究において、「自ら動けるようになっていく過程でどのような発達的变化が生じるのか」について、発達の足場づくりに貢献する養育者も含めて、個体内と個体間の発達を捉えることです。2点目は、肢体不自由者が、自己身体を操作して応重力姿勢や移動運動を獲得することで、どのような発達的变化が生じるのかということです。以上の2つの話題を踏まえ、人の発達現象を「生涯に渡って機能的変化を果たすダイナミックな過程」とする生涯発達(e.g., Baltes, Reese, & Lipsitt, 1980)の観点から、肢体不自由者が「自ら動くこと」の発達保障についてお話をいたします。

教育講演 3

「手でみる」世界を深く豊かに

—視覚障害児童・生徒の鑑賞教育—

講師 半田 こづえ (明治学院大学社会学部非常勤講師)

【講演概要】

視覚に障害のある児童生徒の鑑賞教育には、美術館を活用することの困難さに加え、児童・生徒の障害の状況に合った題材の選定や指導の方法に教師が困難を抱えていることが指摘されてきた。近年美術館と盲学校との連携が図られ、教材作成の方法にも新たな技術が加わりつつある。

しかし、視覚に障害のある児童・生徒にとって、視覚を前提として成立してきた美的価値を学ぶだけでは、鑑賞の本質を満たしているとはいえないのではないだろうか。

本講演では、視覚に障害のある児童・生徒の学び方を活かした鑑賞教育の取り組みを紹介し、新たな可能性について考えてみたい。

教育講演 4

矯正教育の実践・研究をめぐる歩みと展望

講師 林 和治 (元法務省矯正研修所長)

内藤 千尋 (山梨大学大学院総合研究部教育学域准教授)

【講演概要】

矯正教育は、本学会創設当初から特殊教育の範疇に包含される一つの分野と位置付けられ、実践・研究が積み重ねられてきた。各個人のニーズに着目した教育計画を立案、実行していく仕組みが矯正教育に導入されたのは1970年代のことで、現行法下においても受け継がれている。

林からは、矯正教育に長年携わり、本学会の年次大会では「非行からのリハビリテーション」と題する自主シンポジウムを続けてきた経験を踏まえ、特殊教育全般にも通じる矯正教育研究の実践や視点を紹介する。

内藤からは、学生時代、加害者である非行少年の中には多様な発達困難を抱え支援を必要とする人がいることを知って衝撃を受けたことをきっかけに矯正教育への関心を持ち始め、研究を継続、展開してきたことを紹介し、今後の展望や意気込みについて述べる。

教育講演5

強度行動障害のある人を支える

講師 日詰 正文（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企画局研究部長）

【講演概要】

強度行動障害とは、自分の体を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど本人の健康を損ねる行動、他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことを言います。中学生や高校生の時期に激しさが増すことが有り、学校での対応も重要になります。講演では、周囲の関係者がPDCAサイクルを辿りながら、本人のメッセージを理解し一貫性のある対応を行う、完成度の高いチームが必要であることを説明します。

教育講演6

特別支援教育に関する最近の施策動向

講師 小林 美保（文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育企画官）

【講演概要】

（1）「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」（令和3年1月）の方向性を踏まえ、国が推進している施策の進捗状況、（2）「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議」が令和4年3月に取りまとめた、特別支援教育を担う教師の養成、採用、研修等に関する方策、（3）本年冬に予定される「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」結果の公表等を見据えつつ、現在進めている通常の学級における障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討状況について説明する。

教育講演 7

災害・感染症パンデミック・戦争等の災禍と 子ども救済の特別教育史

講師 能田 昂（尚絅学院大学総合人間科学系教育部門専任講師）

【講演概要】

歴史的に繰り返されてきた「厄災」において子どもは数多の「生存の危機」に晒されてきたが、それはやむを得ないこととして放置され、歴史のなかに忘れ去られてきた。講演者は共同研究のなかで過去の災害における被災・救済のあり様と、社会的弱者・子どもの実態について、濃尾震災（1891年）を事例に歴史的検証を行ってきた。だが、世界各地の戦争災害、今後も発生する可能性のある感染症の問題、子どもや当事者の「いのち・生活・発達」の危機およびその「歴史」という視座から着目すべき課題は尽きない。「災害・感染症パンデミック・戦争等の災禍と子ども救済の特別教育史」を開拓していく必要がある。

教育講演 8

言語発達のアセスメントと支援

講師 大伴 潔（東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター教授）

【講演概要】

言語発達に遅れのある幼児・児童・生徒においては、語彙の広がりや文による表現、効果的に伝えることなどが課題として挙げられる。支援を始める際には、幼児期からの典型的な言語発達の流れを参照することが適切な目標の選択につながる。また、通級による指導を利用する児童においては、文や文章の聴覚的理解、語彙知識、文表現、思考の柔軟性など、複数の要因が、日常生活や学習場面における困難の背景要因になっていることが多い。本教育講演では、アセスメントの過程においてどのように言語発達の情報を整理し支援目標を設定するか、さらにどのように支援に展開するかについて考えていきたい。

教育講演9

教員のためのケアマネジメントの基礎知識

講師 小澤 温（筑波大学人間系教授）

【講演概要】

ケアマネジメントは、精神障害、知的障害のある人への支援方法として始まり、高齢者支援に応用されていった歴史がある。日本では、介護保険制度に最初に導入され、その後、障害児・者福祉制度に拡大されていった経緯がある。特に、児童発達支援事業、放課後等デイサービス等の障害児支援サービスの拡充に伴って障害児福祉分野においてもケアマネジメントに基づいたサービス等利用計画の作成が義務付けられている。このことからケアマネジメントを理解することは特別支援教育に関わる教員にとって重要であり、この講演ではそのための基礎知識の理解を目的とする。

教育講演10

障害児に対する虐待の防止と対応

講師 曾根 直樹（日本社会事業大学専門職大学院准教授）

【講演概要】

障害児に対する虐待の防止に関する法制度は、保護者については児童虐待防止法、障害児施設の職員については児童福祉法、障害児通所施設の職員については障害者虐待防止法、学校及び保育所等の職員については障害者虐待防止法、さらに学校における体罰は学校教育法と複雑で多岐にわたって定められている。これらを概観するとともに、虐待防止のための対応について考える。

教育講演11

初学者のための「研究倫理」

講師 田部 絢子（金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授）

【講演概要】

研究倫理とは、研究を行う者が身につけておかなければならない規範のことです。「いつのまにか」「つい」「うっかり」「知らずに」「勘違いで」という理由による、調査対象者・被検者等の権利の侵害や、研究不正の発生を未然に防止するためにも研究倫理を学ぶことは重要です。

例えば、教育学・心理学・社会学等の分野では、個人の内面や行動といったプライバシーに関わる問題や障害・ジェンダー等のアイデンティティに関わる問題などを取り扱い、人を対象とする実験や臨床活動、アンケート調査やインタビュー調査等を行うため、研究倫理および調査対象者等の権利の保護が重要です。

皆さんに知っておいていただきたいことを解説します。

教育講演12

手話から日本語への同時通訳における訳出の特徴

講師 霍間 郁実（元筑波大学DACセンター）

【講演概要】

手話通訳に関する研究は近年急速に増加しており、多くの論文や調査報告が出されています。しかし、日本語から手話への通訳（聞き取り通訳）に比べて、手話から日本語への通訳（読み取り通訳）に関する研究はまだ少なく、更なる知見の積み上げが求められている状況にあります。そこで、読み取り通訳に関する基礎的な知見を得るため、①読み取り通訳の困難要因の抽出、②実際の読み取り通訳作業の分析、③通訳の聞き手による通訳評価、の3つの視点から分析を行いました。その研究の概要についてお話します。

教育講演13

特別支援教育60年を振り返って今、伝えたいこと

—視覚に障害がある子どもの教科教育に携わってきた立場から—

講師 鳥山 由子（元筑波大学 全国高等学校長協会入試点訳事業部理事長）

【講演概要】

1957年に「準ずる教育」が示されたとき、盲教育現場からは強い批判が起こったという。その理由は、教材教具や指導法が整わない中で、形式的に小中学校と同じ教育を求めても知識の詰め込みになるというものであった。また、盲児に視覚中心の学習を押しつけるのではなく、彼らの感性や強みを生かした教科指導を展開すべきだとする主張もあった。一方で、「準ずる教育」の実現を目指した実践の積み上げによってこそ、教材教具や指導法が大きく進歩したことも事実である。本講演では、この経緯を振り返り、視覚に依存しない教科の指導の本質的な価値を明らかにし、それが、小、中、高等学校の教科教育に共有される意義について述べる。

教育講演14

特殊教育60年を振り返って今、伝えたいこと

—聴覚障害児の言語習得とその支援を考える—

講師 齋藤 佐和（筑波大学名誉教授）

【講演概要】

半世紀を越える間に、補聴技術の飛躍的進歩、手話の復権、0歳代からの教育相談の定着、そして特別支援教育制度への移行など、聴覚障害児教育を取り巻く環境は大きく変化してきたが、聴覚障害児の言語発達支援が聴覚障害教育にとって重要かつ専門性が求められる役割であることは、今も変わりはない。聴覚的、視覚的な多様な手段によってコミュニケーションを開き、育て、そこから日本語習得、学習活動への道のりを子どもとともに辿っていく役割、言語発達段階に沿った息の長い言語発達支援の役割はこれからも続くと言える。環境の大きな変化が、より自然な形での言語発達支援を可能にしてきている現状を踏まえつつ、引き継ぐべきことは何かを考え、伝えたい。

学会企画

学会企画シンポジウム
学会賞受賞者講演
ワークショップ

教育、福祉、医療等の現場の実践を見据えた実践研究の在り方

—多様な個をみつめる質的研究の展開と深化に向けて—

| | |
|-------|--|
| 企画者 | 武田鉄郎(和歌山大学)・菅井裕行(宮城教育大学) |
| 司会者 | 武田鉄郎(和歌山大学) |
| 話題提供者 | 中津真美(東京大学) 谷口明子(東洋大学) 中村保和(群馬大学) |
| 指定討論者 | 菅井 裕行(宮城教育大学) 佐々木銀河(筑波大学) |

KEY WORDS: 実践研究、現場の実践、エビデンス

【企画趣旨】

昨年度の本シンポジウムでは、シングルケースデザイン研究方法およびアクション・リサーチの方法論・記述データの収集について話題提供があり、いずれにしても実践研究をまとめる際には「どのように事実を捉えるか」という客観的記載方法の必要性が共有されるとともに、研究者によるサポートなしに客観性を担保して実践を研究としてまとめることの難しさも指摘された。過去30年の『特殊教育学研究』実践研究論文では変数を焦点化した量的に一定のエビデンスを示す行動分析学によるものが多いことも、その難しさを現していると解釈でき、同時に、たとえばアクション・リサーチのような様々な要因が複層的に在る日常の授業等の事象を扱う自然的実践研究は、客観的なエビデンスを担保することが難しいことから、よりその研究としての蓄積が難しいともいえる。

一方、特別支援教育の実践場面では様々な要因が複雑に絡まっており、特定の要因のみを変数として扱う手法ではそこにおける現象を十分に説明することが困難な場合もあり、そこで生じた事象全てを「ありのままに記述する」ことの方が有効な場合も多いはずである。したがって、こうした日常の生活や授業・指導実践、さらにはそれらの時間経過に伴う長期的な変容の過程などについて、「どのように事実を捉え客観的に記述するか」という実践研究の方法を確立していくことは、多様性に立脚した特別支援教育の研究において、重要な課題の一つといえよう。

そこで本シンポジウムにおいては、多様な個をみつめる質的研究の展開と深化をテーマに、「実践研究の方法論と枠組み」について議論を深め、様々な現場における多様な実践を仮説やエビデンスに基づく理論的考察等を備えた「実践研究」としてまとめていくことのできる具体的な方策を、会員と共に検討する機会としたい。

【話題提供者の趣旨】

【中津真美：希少体験の後方視的叙述に基づくプロセス研究の立場から】 聴覚障害のある親をもつ健聴の子どもはコーダと呼ばれ、幼少期より親と聴者との間で通訳の役割を担うことから、発達過程で形成される親子関係に固有な特性を導くなど支援の必要性が指摘される。発表者は、コーダと親の双方に面接調査を行い、後方視的叙述に基づいて親子の認識の変容プロセスを分析した。本報告では、当研究を例にとり、質的分析の手続き等を概観する。とくにコーダ当事者でもある発表者がリサーチクエスチョン設定に至った背景や、調査分析から論文化までの経緯について科学性担保の視点から確認する。そのうえで、研究の限界及び生成された理論は支援方策を論じる一定の根拠となり得るかを再考し、質的アプローチの研究的意義を検討する。

【中村保和：研究者自身が実践を行うアクション・リサーチの立場から】 筆者(以下、『P』)は先天盲ろう児Tが14歳の時に出会い、以後、筆者が週に1回(3時間)、Tの生活する医療型障害児入所施設を訪問し、4年7か月間の係わり合いを継続した。係わり合い開始当初は、主に着替え、入浴、排泄時の介助や医療的ケア時の補助を行いつつ、Tの興味・関心に基づく触覚を用いた活動や施設内の探索を行った。これらの経過のなかで、TとPで様々な活動が共有されるようになり、とりわけ「触れ合い」の質的变化が顕著となった。本報告では、こうした実践における活動の展開と「触れ合い」の質的变化に焦点を当て、実践の記録方法とそれを用いた省察、学術的知見との関連付け、研究論文として記述する経緯等に触れながら、アクション・リサーチの展開とその在り方について検討する。

【谷口明子：病弱教育実践に関する質的エピソードをデータとした研究の立場から】 質的研究とは、現象の詳細な言語的記述から、「どのような」という現象のありようを解明する方法である。先行研究が少ない領域における仮説生成を目的とした研究に適した方法として知られており、先行研究が稀少な病弱教育領域における有用性は認められる。同時に、研究方法としての課題もある。本話題提供では、発表者自身が研究者という立場で病弱教育現場において行ったフィールドワーク(参与観察と半構造化インタビュー)研究と、教員による実践記録に基づく校内研究の2本の実践研究例から、実践を詳細に記述したエピソードをエビデンスとして研究知見を導くことの意義と課題を整理し、病弱教育領域における質的研究の貢献可能性について検討したい。

【指定討論者の趣旨】

菅井裕行：実践研究が、法則定立のための仮説検証データだけではなく、日々生起する複雑な要因が絡む現象の中に「個の体験事実」をつかみ出す記述データをも扱うようになって、その多様性は相当に拡大してきた。実践研究が今後発展するために記述データを主たる現象解析の道具にしてきた「質的研究」から学ぶことは数多くありそうである。今後の展望を今回は質的研究との関連から探ってみたい。佐々木銀河：量的研究を専門に研究する立場から、「実践者が質的研究という手法を採用する実践研究」を想定して、質的研究における妥当性の担保、研究者バイアスへの対処、質的研究を積極的に採用する理由と実践現場の情報を定量化にしない理由、論文査読を受ける際の工夫や課題などについて参加者を含めて議論する機会としたい。

(TAKEDA Tetsuro, SUGAI Hiroyuki, NAKATSU Mami, Nakamura Yasukazu, TANIGUCHI Akiko, SASAKI Ginga)

インクルーシブ教育システム下における 特別支援学校教諭免許状の在り方Ⅳ

—特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムの作成を受けて—

| | |
|-------|----------------------|
| 企画者 | 一木 薫 (福岡教育大学) |
| | 小林 秀之 (筑波大学) |
| 司会者 | 一木 薫 (福岡教育大学) |
| 話題提供者 | 嶋田 孝次 (文部科学省特別支援教育課) |
| | 小林 秀之 (筑波大学) |
| | 葉石 光一 (埼玉大学) |
| 指定討論者 | 濱田 豊彦 (東京学芸大学) |

KEY WORDS: 特別支援学校教諭免許状 コアカリキュラム 教員養成

【企画の趣旨】

文部科学省は、2021(令和3)年12月より「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム」の検討を行ってきました。今後、特別支援学校教諭の免許資格を取得することのできる大学には、本コアカリキュラムを踏まえた教員養成の充実が求められます。

日本特殊教育学会では、2019年の第57回大会(広島大学)、2020年の第58回大会(福岡教育大学)、2021年の第59回大会(筑波大学)の3大会において、「インクルーシブ教育システム下における特別支援学校教諭免許状の在り方」をテーマに学会企画シンポジウムを重ねてきました。この間、2019年度には、「特別支援学校教諭免許状等在り方検討ワーキング・グループ」(以下、在り方WG)を設置し、昨年度は議論の経過やまとめ(最終報告)について報告しました。今回は、文部科学省の嶋田孝次氏に「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム」の検討経過や概要について話題提供いただきます。また、小林秀之氏、葉石光一氏には、教員養成に携わる立場から、大学のカリキュラムの実際を踏まえた今後の展開や課題について話題提供いただきます。

インクルーシブ教育の拡充を支える特別支援学校教諭免許状や教員養成の在り方について、会員の皆様のご意見をいただきながら、今後の議論につなげる機会としたいと考えております。

【話題提供1：嶋田孝次氏】

令和3年1月に「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」報告が、同時期に中央教育審議会において「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」答申が取りまとめられました。

これらの会議において、特別支援教育を担う教師の専門性の向上として、教育職員免許法体系に、特別支援学校学習指導要領等を根拠にした、自立活動、知的障害者である子供に対する教育を行う特別支援学校の各教科等、重複障害者等に関する教育課程の取扱いや発達障害を位置付けること等の提言がされました。

文部科学省では、こうした提言を踏まえ令和3年11月に「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議」の下に、「特別支援学校教諭の教職課程コアカリキュラムに関するワーキンググループ」を設置し、「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム(案)」を取りまとめました。

本コアカリキュラムは令和4年6月に教育職員免許法施行規則第7条第1項の表(特別支援教育に関する科目の単位の修得方法)の備考の改正と合わせてパブリックコメントを

実施したところです。本シンポジウムにおいては、これまでの検討経過や、各大学への周知等について話題提供します。

【話題提供2：小林秀之氏】

在り方WGにて検討した次の結果を踏まえ、特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムのいくつかの項目に関して運用上の問題と今後の課題について話題提供します。

○第一欄に、(1)自立活動の意義・目標・内容等、(2)知的障害特別支援学校の各教科の目標・内容、(3)重複障害者等に関する教育課程等の取扱いを取り入れる必要性が指摘された。これを踏まえると現行の2単位では困難であり、4単位は必要である。

○発達障害の取扱いに関して、第二欄では知的障害を伴う自閉症も取扱い、第三欄においては視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱を伴わない発達障害のある子どもにも焦点を当てるといった合意が必要である。

○第三欄の重複障害に関する科目の内容として、重度・重複障害(主に重症心身障害)、医療的ケアを必要とする超重症児、低発生障害の盲聾が含まれる必要がある。

【話題提供3：葉石光一氏】

特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムを踏まえ、大学での教職課程に反映させる上での留意点、課題について話題提供します。

○第一欄のコアカリ(制度的事項)には第二欄の教育課程・指導法の基本的な考え方や共通事項が含まれているが、必須の位置付けではない。学びの蓄積の点からは課題である。

○心理・生理・病理のコアカリ到達目標3)に「連携の重要性」がある。心理・生理・病理のコアの内容と言えないかもしれないが、教育課程・指導法との接続を意識付けるものととらえると積極的な意味を見出すことができる。

○コアカリにより系統的な履修が意識されることを期待したいが、副免としての履修の場合、時間割の関係で簡単ではないかもしれない。

○病弱領域の科目等、非常勤講師を依頼している科目について、コアカリの考え方を専任教員とどれだけ共有できるかは、専門性向上の点から課題である。

【指定討論】

特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議の委員もお務めになった濱田豊彦氏に、日本教育大学協会特別支援教育研究部門代表のお立場から、それぞれの話題提供について指定討論をいただきます。

(ICHIKI Kaoru, KOBAYASHI Hideyuki, SHIMADA Kouji, HAISHI Koichi, HAMADA Toyohiko)

知的障害のある児童生徒の教育課程の課題と 知的発達段階に応じた学習過程の在り方

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 企画者 | 川間健之介(筑波大学)・佐島 毅(筑波大学) |
| 司会者 | 川間健之介 |
| 話題提供者 | 米田 宏樹(筑波大学) 佐島 毅 |
| 指定討論者 | 下山 直人(元筑波大学) 山下 望(社会福祉法人南風会常務理事) |
| | KEY WORDS: 知的障害、教育課程、知的発達段階 |

【企画趣旨】

本シンポジウムでは、個々に多様な知的障害児童生徒の発達段階に対応した教育、特に知的水準が重度の段階にある児童生徒の発達段階に応じた教育課程の課題について考えるものであり、昨年度から2年目の企画である。

昨年度の話題提供では、知的障害特別支援学校小学部在籍児童のKIDS乳幼児発達スケールの結果から概念領域で約53%が2歳半以前であるなど、学習指導要領の1段階を越えない児童が知的特別支援学校のボリュームゾーンであることが示唆されること等が報告された。また、重児児童生徒の学習状況が何段階相当かを客観的に把握するカリキュラムマネジメントに関する取り組みが報告された。

討論においては、高等部卒業までに教科によっては小学部1段階を超えないような児童生徒の育成を目指す資質・能力を確実に育み、更に教科指導を充実させるためにはどのような観点から今後検討を進めればよいか、重度の知的障害の子どもにおける「未分化な内容」を教科という観点も含めてどのように取り扱うか等について考える必要があるとした。また、知的障害各教科に含まれる以前の段階である「発達の各領域」の有無を確認する必要性のあること、知的障害の場合は障害により必要になる指導が各教科と自立活動の両方含まれており、この点の歴史的経緯を踏まえた役割の再評価が必要であること、学習の段階がある段階でとどまる場合、その段階の力を活かして社会参加するという知的障害各教科の発想は重要であることなどが述べられた。

これらを受けて、知的障害教育カリキュラムの課題として、(1)認知発達を含めた初期的な発達段階について理解を深めること、(2)教科指導の充実には、思考・判断・表現力などを評価する実践の積み重ねが必要であること、(3)各教科と合わせた指導・生活に即した学習について整理をしていくこと、(4)高等部段階でも第1段階を越えないような生徒のカリキュラムの考え方を整理すること、などが挙げられた。

本シンポジウムでは、昨年度の経過およびこれらの課題を踏まえて、個々に多様な思考能力の発達段階にある知的障害児童生徒、特に知的水準が重度の発達段階にある児童生徒における教育課程の課題と学習過程在り方について考えるとともに彼らの豊かな学びの実現に向けて、10年後の学習指導要領改訂に資する議論をしたい。

【話題提供者の趣旨】

【米田宏樹】戦前の促進学級・補助学級においては、児童の生活指導を中心としてなるべく総合的な取り扱いをなすべきこととし、生活科・郷土科として修身・国史・地理・理科を、直観科・観察科として理科・図画・綴り方を合わせて扱うといった議論は過去にもあった。話題提供では、我が国の知的障害教育課程について、これまでどのような

経緯や考え方の基づいて検討され創られ今日に至ったのか、その過程について整理したい。その上で、現行教育課程は生活年齢を基盤として知的能力や適応能力及び概念的な能力等を考慮しながら各教科の各段階の内容が配列されていること、各教科において0歳0か月からの内容が必ずしも示されているわけではないこと等の全体像を把握し、特に重度の知的障害の子どもにおいて「未分化な内容」をどう取り扱うか考えるか等、課題を整理したい。

【佐島 毅】思考能力の発達には到達点があり、13~14歳の形式的操作段階以降はヨコの発達と捉えることができる。知的障害児も同様に暦年齢13~14歳を機能的発達の到達点としてヨコの発達となるはずである。したがって、初等教育段階において2歳半の比較概念獲得以前の思考能力にある知的障害児は比較概念の思考段階へ到達するが、教育の積み重ねによって中学部以降にタテの発達、すなわち4歳半の関係概念の思考段階に到達するとは論理的に考えにくい。また、関係概念以前の思考の段階では、日常生活を基盤とした学習や具体物の操作による学習によって思考力の伸長が図られる。知的障害児の思考力の伸長を図るためには、まずこうした知的障害児の思考能力の発達過程をどのように捉える、彼らの主体的な学習過程の在り方に対する私たちの共通認識が必要不可欠であろう。加えて、発達段階に知的障害教科算数第1段階の最初の目標を対応させると「身の回りのものに気付き」が10ヶ月、「対応させたり」が1歳半以降、「組み合わせたりする」が2歳半以降であり、この段階を越えない児童が多く、複数の段階が一つの目標に混在している。こうした点について、話題提供をする。

【指定討論者の趣旨】

【下山直人】特別支援学校小中学部の重複障害学級在籍率は30%以上、肢体不自由特別支援学校のそれは80%以上であり、障害の重い児童生徒の教育課程の在り方は特別支援学校全体に共通する課題であり、本質的な議論が必要と思われる。知的障害の重い児童生徒の教育課程の枠組みをどのように考え編成するか、その在り方と今後の課題について共に考えたい。

【山下 望】生活介護事業、就労支援事業等への支援の場では、知的障害者が地域で安心して暮らし、それぞれの個性を活かし、持っている能力を発揮して、その人らしく幸福な人生を生きる手助けをしている。高等部卒業後の知的障害者の支援に関わってきた立場から、成人期の基礎を形成する学校教育において、どのようなことが大切と考えるかを述べ、共に課題を共有し、議論を深めたい。

(KAWAMA Kennosuke, SASHIMA Tsuyoshi, YONEDA Hiroki, SHIMOYAMA Naoto, YAMASHITA Nozomi)

年長児における協調運動困難への気づきを促す チェックリストの開発

— 運筆技能が未熟な幼児の実態をふまえて —

○伊藤佳奈子 勝二博亮 田原 敬
(埼玉県立蓮田特別支援学校) (茨城大学教育学部) (茨城大学教育学部)
KEY WORDS: 発達性協調運動障害(DCD) 手先の器用さ 描線

【目的】

近年、保育現場では、いわゆる「気になる子」の存在とその支援について注目されている(郷間ら, 2008)。その中でも、不器用さのある子どもに関しては教育的支援の必要性が認知されているとはいいがたく、具体的な支援方法の蓄積がないのが現状である(三上ら, 2017)。そこで、本研究では就学前の年長児を対象として、協調運動の困難さを簡便に評価できるチェックリストを開発することを目的とした。さらに、開発した質問紙で協調運動の困難さが疑われる事例について運筆能力との関連も検証した。

【方法】

1.調査対象: A 幼稚園の年長クラスに在籍する園児 96 名(男児: 38 名, 女児: 57 名)の保護者。さらに、対象とした園児の中から無作為に抽出した 27 名(男児: 9 名, 女児: 18 名)について、後述する PWT 描線テスト(以下、PWT)を園児に実施。**2.質問紙の構成:** 幼児期の協調運動に関する先行研究(増田, 2007; 渋谷, 2008; 辻井・宮原, 1999; 瓜生・浅尾, 2013)などを参考に、5 歳までに達成可能と考えられる粗大および微細運動に関する質問項目(30 項目)を作成。**3.PWT 描線テスト:** 尾崎(2018)によって開発された幼児用の運筆能力を測る検査で、前書字の描画動作を求める円塗り課題、横二点課題、横線課題、四角課題、矩形課題、半円課題の計 6 課題を対面で個別に実施。**4.描線プロセスの記録:** 対象児の運筆特性を検討するために、円塗り課題以外の 5 つの描線課題について課題遂行中の描線プロセスをデジタルペンにより記録。**5.分析:** 統計解析には SPSS Statistics 25 を使用。質問紙については、最尤法プロマックス回転による因子分析を実施。絶対値.45 を超える因子負荷を示した項目をもとに因子の解釈を行ったのち、因子の固有値を算出し、因子数を決定。PWT については、PW 発達領域の図を用いて標準内から逸脱しているか確認。加えて、描線プロセスのデータから対象児ごとの各線引き課題における描線速度の算出。**6.倫理的配慮:** 本研究は茨城大学教育学部研究倫理委員会の承認を受けて実施された。**7.利益相反:** 本研究に関して開示すべき利益相反はない。

【結果】

1.質問紙の因子構造: 協調運動に関わる質問紙の全 30 項目について因子分析を実施し、2 因子 17 項目を決定した(表 1)。第 1 因子に因子負荷量が高かった 10 項目は、協調運動の中でも粗大運動に関わる項目であったため、「粗大運動因子」と命名した。第 2 因子は残りの 7 項目で、微細運動や目と手の協調が求められる項目に対する因子負荷が高かったことから、「微細・協調運動因子」とした。**2.PWT 描線テスト:** PWT を実施した 27 名に対し、得点換算尺度にしたがって PW 発達年齢を算出した。その結果、発達年齢の標準領域下である晩熟領域に評価された対象児は 2 名であった。**3.描線プロセス:** デジタルペンで記録されたデータから、各対象児の描線速度を課題ごとに求めた。その結果、横二点課題および矩形課題で、描線速度が顕著に速い

表 1 因子分析結果(最尤法・プロマックス回転)

| 質問項目 | 粗大運動 | 微細・協調運動 | 共通性 |
|--|-------|---------|------|
| 上手投げでボールを投げたい方向に向かって投げることができる | .841 | -.183 | .610 |
| けんげんで行きたい場所に行くことができる | .738 | -.056 | .513 |
| 両足を揃えて前に跳ぶことができる | .721 | .067 | .565 |
| 外遊びが好きである | .710 | -.008 | .500 |
| 「よーいどん」の合図に合わせて、走り始めることができる | .691 | .021 | .490 |
| 小さいボール(野球ボールやテニスボールくらいの大きさ)をキャッチすることができる | .625 | .096 | .450 |
| 体を使う遊びを好んで行う | .623 | .163 | .501 |
| 転がってきたボールを蹴りたい方向に向かって蹴り返すことができる | .515 | -.006 | .263 |
| ボールをつきながら歩くことができる | .514 | .030 | .278 |
| どちらかの足で10秒以上片足立ちをすることができる | .471 | -.048 | .205 |
| 文字を書いたり、絵を描いたりすることができる | -.199 | .822 | .689 |
| 折り紙で簡単な作品(4~5回程度の手順)を折ることができる | -.061 | .698 | .456 |
| 小さい物をのりで貼ることができる | -.146 | .627 | .294 |
| 「不器用」だと感じたことがある | -.127 | .583 | .437 |
| 音楽に合わせてお遊戯や体操をすることが好きである | .151 | .583 | .491 |
| 紙を動かしながら、はさみで形を切ることができる | -.132 | .530 | .357 |
| 紙を手で固定しながら、書字や描画を行うことができる | -.143 | .495 | .324 |
| 負荷量平方和 | 4.981 | 3.763 | - |
| 因子間相関 | | 0.421 | - |

枠内は負荷量.45以上を示した項目である。
「不器用」だと感じたことがある」は逆転項目である。

対象児が 1 名(A 児とする)確認された。**4.協調運動に困難さがある A 児:** A 児は PWT 描線テストにおいて晩熟領域と評価されており、質問紙の総合得点および微細・協調運動得点においていずれも 5 パーセンタイル値以下であった。A 児の描線軌跡をみると、始点からずれて描線を開始していたり、矩形課題の角で筆を止めることができずに大きくはみ出したりする描線がみられた。

【考察】

1.質問紙の因子構造: 本質問紙の質問項目は、身体全体を動かす運動に関わる項目が多い「粗大運動因子」と、目と手の協調や手指の細かな動きに関わる項目が多い「微細・協調運動因子」にそれぞれ振り分けられた。3~4 歳児向けに開発された Little DCDQ では、「微細運動」と「粗大運動」の 2 因子に分かれることが報告されていることから(Wilson ら, 2015)、おおむね微細運動と粗大運動の 2 因子で構成された本研究の結果は妥当であったと考えられた。

2.運筆技能との関連: 質問紙の総合得点と運筆に関わる微細・協調運動因子で低得点であった A 児は、PWT における運筆能力において標準よりかなり下方にあり、運筆能力の低さが目立っていた。PWT 遂行中のデジタルペンによる記録をみても、描線速度は同年齢群の他児と比べて顕著に速かった。正確な描画や書字が困難な子供は、描線速度が速いことや姿勢保持が困難であったことが特徴として報告されており(坂本ら, 2012)、課題遂行中に姿勢が徐々に崩れていった A 児の状態像と一致する点が多かった。**3.本研究の限界と今後の展望:** 本研究で開発したチェックリストは、粗大運動と微細・協調運動といった 2 因子から構成され、いずれも十分な内部一貫性が認められた。さらに、この質問紙によって運筆能力の遅れが顕著にみられた子どもを抽出することができた。このことから一定の信頼性と妥当性があるものと示唆された。しかし、本研究では実際に DCD として診断を受けた子どもで質問紙調査を実施できず、カットオフ値を設定することができなかった。このことから、DCD 児を含めた大きなサンプルでの調査が求められるだろう。

(ITO Kanako, SHOJI Hiroaki, TABARU Kei)

超重症児の感覚系に注目した身体的な運動および 生理的反応を促す指導とその評価

寺島ひかり (新潟県立はまなす特別支援学校)

八島 猛 (上越教育大学大学院学校教育研究科)

奥村 太一 (上越教育大学大学院学校教育研究科)

佐藤 将朗 (上越教育大学大学院学校教育研究科)

藤村 励子 (東北大学大学院教育研究科)

KEY WORDS: 超重症児 身体的な運動と心拍反応 感覚系

【目的】

医療の進歩を背景として、呼吸管理を中心とした継続的濃厚医療を必要とする超重症児は増加傾向にある。学校教育においては、超重症児を対象とする教育環境も次第に整いつつある。しかし、教育現場の課題として、適切な指導内容の選定とその評価方法の構築が求められている。本研究の目的は、授業場面における教師の働きかけと対象者の身体的な運動および生理的反応とその関連について検討するために、コミュニケーションに顕著な困難を有する超重症児を対象として、日頃の授業で行われている指導内容を感覚系の観点から分類して対象者に適用し、各指導内容に対する対象者の身体的な運動と心拍反応(心拍数の変動と心拍数の平均値)の量的差異を明らかにすることである。

【方法】

対象者: 特別支援学校高等部2年の女子生徒1名。小学校1年時に受傷し、低酸素性虚血脳症後遺症、慢性呼吸不全の診断を受けた(超重症児スコア29点)。睡眠と覚醒の区別困難、自発呼吸困難、体温調節困難であり、常時生体モニターによる看視、レスピレーター管理、経管栄養、胸部以下の毛布の装用を要した。視覚は対光反射、注視、追視が認められない。聴覚は、ABR検査結果をもとにした医師の説明によると音刺激が脳幹部に到達している可能性は低い。運動機能は、筋電図による上肢評価で反応が認められず、最重度の運動機能障害を有している。しかし、右手(手首から指先まで)に微細で瞬間的な運動が目視できる。左手の動きは目視できないが、身体接触をする際に、微細で瞬間的な運動を感じることができる。

設定: 研究期間はX年4月から同年9月までの4か月間である。第一著者が対象者の入院している病棟のベッドサイドに訪問し、授業アシスタントとして2回/週、50分間/回の頻度で授業に参加した。指導期間中、前半2か月を指導前期(全11回)、後半2か月を指導後期(全11回)として、授業時間内に20分程度、第一著者による直接指導場面を設定した。

指導内容: ①読み聞かせ(聴覚系)、②音楽鑑賞(聴覚系)、③マッサージ(触覚系)、④音楽鑑賞とマッサージ(聴覚系と触覚系)の4種の指導内容を選定し、指導期の授業において実施した。

指導の実施方法: 指導内容の実施順序の効果を検討するため、指導前期の指導は読み聞かせ、音楽鑑賞、マッサージ、音楽鑑賞とマッサージの順で実施し、指導後期の指導は読み聞かせ、音楽鑑賞とマッサージ、音楽鑑賞、マッサージの順で実施した。

授業評価におけるデータ分析: 運動発現回数は、VTR記録をもとにして、左右の手の運動発現回数をカウントした。そのうえで分析区間別に1秒あたりの運動発現回数の平均

Table 1 指導前期における平均心拍数の変化の分析結果

| 活動内容 | 推定値(b) | 標準誤差 | z値 |
|--------------------|--------|------|------------|
| Pre → 読み聞かせ | 0.30 | 0.06 | 4.77 *** |
| 読み聞かせ → 音楽鑑賞 | 0.20 | 0.04 | 5.15 *** |
| 音楽鑑賞 → マッサージ | 0.33 | 0.04 | 9.38 *** |
| マッサージ → 音楽鑑賞とマッサージ | -0.34 | 0.03 | -10.04 *** |
| 音楽鑑賞とマッサージ → Post | -0.57 | 0.05 | -11.42 *** |

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

注: 表中の「Pre」は指導前60秒間を、「Post」は指導後60秒間を示す。

Table 2 指導後期における平均心拍数の変化の分析結果

| 活動内容 | 推定値(b) | 標準誤差 | z値 |
|--------------------|--------|------|------------|
| Pre → 読み聞かせ | -0.62 | 0.07 | -9.50 *** |
| 読み聞かせ → 音楽鑑賞とマッサージ | 1.14 | 0.04 | 27.10 *** |
| 音楽鑑賞とマッサージ → 音楽鑑賞 | -1.31 | 0.03 | -40.36 *** |
| 音楽鑑賞 → マッサージ | 1.03 | 0.07 | 14.64 *** |
| マッサージ → Post | -0.14 | 0.05 | -2.67 * |

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

注: 表中の「Pre」は指導前60秒間を、「Post」は指導後60秒間を示す。

値と標準偏差を算出した。指導期の授業はすべてVTR録画した。心拍反応は、生体モニターのVTR記録を1秒単位でプロットし、分析区間別に1秒あたりの心拍数の平均値と標準偏差を算出した。

本研究は、上越教育大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号:2017-11)。

【結果】

運動発現回数に対する指導内容の効果:「音楽鑑賞とマッサージ」「マッサージ」「音楽鑑賞」「読み聞かせ」の順に、対象者の運動発現回数を有意に促進することが判明した。

指導内容ごとの心拍数の変動:「読み聞かせ」「マッサージ」「音楽鑑賞」「音楽鑑賞とマッサージ」の順に対象者の心拍数の変動を有意に促進することが明らかとなった。

指導内容前後の心拍数の変化:指導前期、指導後期ともに指導内容の変化とともに、心拍数の平均値の有意な上昇あるいは低下が生じていたことが明らかとなった(Table 1, Table 2)。

指導内容の実施順序の効果:運動発現回数において、線形混合ポアソンの回帰分析を実施したところ、指導内容の実施順序による影響は認められないことが明らかとなった。心拍変動において、線形混合モデルによる分析を実施したところ、指導内容の実施順序による影響があると推察された。

【考察】

各種感覚系に対する働きかけが、対象者の身体的な運動と心拍反応に顕著な変化を生じさせることが明らかとなった。このことは、対象者が、各種感覚系に対する単一の、または複合的な働きかけを弁別的に認知している可能性を示唆するものであった。また、指導内容の継続が対象者の感覚受容の状態を変化させる可能性が示された。

(TERAJIMA Hikari, YASHIMA Takeshi, OKUMURA Taichi, SATO Masaaki, FUJIMURA Reiko)

実践ワークショップ 2021年度採択研究成果発表

企画者 佐島 毅 (日本特殊教育学会研究委員会, 筑波大学人間系)

発表1 阿部 晃久 (千葉県立袖ヶ浦特別支援学校)

ブレンディッド・ラーニングを参考としたオンライン研修システムの構築

発表2 宮崎 亜紀 (熊本県立菊池支援学校)

地域の特別支援教育を担う教師を対象とした自立活動の研修の展開と担い手の育成
～個別の指導計画に基づく自立活動のPDCAに即して～

【実践研究助成事業立ち上げの背景】

2012年、つくば国際会議場にて開催された日本特殊教育学会第50回大会において、学会としてのそれまでの50年を振り返ると同時に、今後50年をどのように展望するかについて検討することが企画立案において検討されました。

そうした新たな課題解決に向けた事業の一つとして、2012年度より独立英文誌 *Journal of Special Education Research* が刊行される等の事業とともに、2014年度より実践研究助成事業（以下、実践研究助成）を立ち上げました。本助成事業は本学会の会員構成において、特別支援学校教員等の実践研究者が多くを数えることに着目し、地域での特別支援教育の深化等に貢献するものです。

これまで、いずれの研究も特別支援教育の新たな実践研究の展開と展望の起点となるものであり、その成果の広い普及が期待されているところです。

【実践研究助成事業の目的等】

実践研究助成の目的は、地域における特別支援教育の発展と現職教員等正会員の専門性向上に寄与するため、現職教員等の優れた実践的研究に対して助成するものであり、本学会正会員である期間が3年以上の現職教員等(常勤)で、特別支援教育等の実践に携わる者であることを応募要件としております。共同研究者は、地域の特別支援教育等に関連する職にある者で、必ずしも正会員でなくてもよいとしています(実践研究助成内規)。すなわち、実践研究活動の地域化、共同化を目指すことを企図するものです。まさに学会活動におけるローカリゼーションに依拠するものといえます。

実践研究助成に採択された研究は、1年間の研究の成果を報告するとともに、次年度の研究大会にて報告することが義務づけられています(実践研究助成内規)。この規定にもとづき、2022年度開催の第60回大会では、2021年度の実践研究が報告することとなります。

なお、実践研究助成は、2014年の立ち上げ移行、試行としての助成事業を続けてきましたが、2019年度よりこれに加え研究奨励助成事業も立ち上がりました。それぞれの事業をうまく活用・継続いただき、会員の皆様の活発な研究活動に寄与したいと考えています。今後もぜひ関心をお寄せいただき、申請をご検討いただきたくお願い申し上げます。

【2021年度 実践研究助成の応募状況及び採択者等】

2021年度の実践研究助成の募集は2020年9月初旬に学会ホームページ掲載、9月に会員への電子メール連絡で周知しました。これらを経て、①すべての学会員に実践研究助成の公募を周知すること、②11月下旬の締切りまでの3か月間、公募期間を設定することができました。その結果、3件の応募があり、内規にもとづく審査の結果、2件が採択されました。

2021年の採択研究については、1年間の研究の取組が行われ2022年4～5月に成果報告が提出されました。

成果発表者及び研究テーマは、以下に示す通りです。

実践知を起点とした研究知見を皆さんと共有し、未来の特別支援教育の充実につなげるワークショップにしたいと思えます。

【助成研究受託者と研究テーマ】

〔発表1〕

報告者 阿部 晃久 (千葉県立袖ヶ浦特別支援学校)

研究テーマ

『ブレンディッド・ラーニングを参考としたオンライン研修システムの構築』

〔発表2〕

報告者 宮崎 亜紀 (熊本県立菊池支援学校)

研究テーマ

『地域の特別支援教育を担う教師を対象とした自立活動の研修の展開と担い手の育成～個別の指導計画に基づく自立活動のPDCAに即して～』

なお、発表者の所属は、応募時のものを掲載しました。

(ABE Akihisa, MIYAZAKI Aki)

自主シンポジウム

自主シンポジウムI

(オンデマンド配信+対面による質疑, ディスカッション)

自主シンポジウムII

(オンデマンド配信+質問フォームによる質疑)

自主シンポジウム I-1 オンデマンド配信+9月17日(土)14:00~15:00 大会議室101

情動調整の視点から、子ども理解と支援を考える

企画者：深澤 雄紀（静岡県立静岡北特別支援学校）
司会者：山元 薫（静岡大学）
話題提供者：仲真 詩依（静岡県立清水特別支援学校）
佐野 琴乃（静岡県立富士特別支援学校）
指定討論者：西山 剛司（SCERTS研究会）

自主シンポジウム I-2 オンデマンド配信+9月17日(土)14:00~15:00 大会議室102

知的障害特別支援学校におけるデジタル・シティズンシップ教育
一人一台端末時代における善き使い手を目指す学び

企画者：齋藤 大地（宇都宮大学共同教育学部）
司会者：齋藤 大地（宇都宮大学共同教育学部）
話題提供者：後藤 匡敬（熊本大学教育学部附属特別支援学校）
山崎 智仁（富山大学教育学部附属特別支援学校）
樋井 一宏（大阪府立西浦支援学校）
指定討論者：今度 珠美（鳥取県教育委員会 デジタル・シティズンシップエディケーター）
水内 豊和（帝京大学文学部）

自主シンポジウム I-3 オンデマンド配信+9月17日(土)14:00~15:00 2階中会議室201

病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題

企画者：大崎 博史（独）国立特別支援教育総合研究所）
司会者：五島 脩（独）国立特別支援教育総合研究所）
話題提供者：嶋野 隆文（独）国立特別支援教育総合研究所）
宍戸 和枝（福島県立須賀川支援学校医大校）
志村 芳紀（埼玉県立けやき特別支援学校）
指定討論者：大崎 博史（独）国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム I-4 オンデマンド配信+9月17日(土)14:00~15:00 2階中会議室202

特別支援学校における保護者参画・協働の現状と課題
予防的な取り組みを探る

企画者：岡村 章司（兵庫教育大学大学院）
司会者：井澤 信三（兵庫教育大学大学院）
話題提供者：大脇 知子（兵庫県立神戸特別支援学校）
坂入 仁和（愛知県立半田特別支援学校）
井上 美保（東京都立八王子西特別支援学校）
指定討論者：渡部 匡隆（横浜国立大学）

自主シンポジウム I-5 オンデマンド配信+9月17日(土)14:00~15:00 3階中会議室303

「身体」から問い直す知的障害特別支援教育における自立活動の指導のあり方(3)

－ 指導方法の意味・役割を「身体」から問い直す －

企画者：岩井 俊夫 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
司会者：岩井 俊夫 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
話題提供者：丸山 真幸 (筑波大学附属久里浜特別支援学校)
岩井 俊夫 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
指定討論者：久田 信行 (群馬医療福祉大学)

自主シンポジウム I-6 オンデマンド配信+9月17日(土)14:00~15:00 4階小会議室405

特別な支援を必要とする学生の修学支援の現状と課題(4)

合理的配慮に該当しない多様な学生の支援を考える

企画者：小柳津和博 (桜花学園大学)
勝浦 真仁 (桜花学園大学)
司会者：柏倉 秀克 (桜花学園大学)
話題提供者：小柳津和博 (桜花学園大学)
勝浦 真仁 (桜花学園大学)
堀 由里 (桜花学園大学)
指定討論者：高橋 桐子 (東京大学・ハワイ大学)

自主シンポジウム I-7 オンデマンド配信+9月17日(土)14:00~15:00 4階中会議室406

強度行動障害に関わる専門援助職に求められること(7)

“のべつ幕なし”の作業スケジュールで落ち着きをもたらす

企画者：笹田夕美子 (行動コーチングアカデミー)
奥田 健次 (学校法人西軽井沢学園)
司会者：奥田 健次 (学校法人西軽井沢学園)
話題提供者：佐藤 彩名 (長野県稲荷山養護学校)
續 裕介 (徳島県立池田支援学校)
指定討論者：村本 浄司 (九州看護福祉大学)

自主シンポジウム I-8 オンデマンド配信+9月17日(土)15:30~16:30 大会議室101

発達障害学生支援における学生ピアサポーターによる実践

－PSに求められる資質と育成の視点－

企画者：永井 友幸 (九州大学)
司会者：田中 真理 (九州大学)
話題提供者：横田 晋務 (九州大学)
森 麻友子 (和歌山大学)
面高 有作 (九州大学)
指定討論者：吉田 ゆり (長崎大学)

自主シンポジウム I-9 オンデマンド配信+9月17日(土)15:30~16:30 大会議室102

発達障害児者の行動問題から教育・福祉の充実を目指すPBS(16)
PBSの目標と養成の到達点と課題

企画者：平澤 紀子 (岐阜大学)
司会者：平澤 紀子 (岐阜大学)
話題提供者：平澤 紀子 (岐阜大学)
前川圭一郎 (足立区こども支援センター)
今本 繁 (合同会社ABC研究所)
指定討論者：大久保賢一 (畿央大学)

自主シンポジウム I-10 オンデマンド配信+9月17日(土)15:30~16:30 2階中会議室201

自立活動の指導を担う教師に必要な理解と研修の在り方
～教員養成と現職研修の接続を踏まえて～

企画者：宮崎 亜紀 (熊本県立菊池支援学校)
司会者：宮尾 尚樹 (長崎県教育庁)
話題提供者：一木 薫 (福岡教育大学)
大櫃 玲子 (福岡市発達教育センター)
田淵 麻子 (長崎県立諫早特別支援学校)
指定討論者：菅野 和彦 (文部科学省初等中等教育局)

自主シンポジウム I-11 オンデマンド配信+9月17日(土)15:30~16:30 2階中会議室202

障害の重い子どもとの長期縦断的教育実践研究の展開

企画者：中村 保和 (群馬大学共同教育学部)
岡澤 慎一 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
司会者：岡澤 慎一 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
話題提供者：中村 保和 (群馬大学共同教育学部)
岡澤 慎一 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
菅井 裕行 (宮城教育大学教育学部)
指定討論者：笹原 未来 (福井大学大学院連合教職開発研究科)
土谷 良巳 (上越教育大学名誉教授)

自主シンポジウム I-12 オンデマンド配信+9月17日(土)15:30~16:30 3階中会議室303

Special Support for All

全ての子どもたちの可能性を引き出すために

- 企画者：佐藤 穂高（埼玉県立川島ひばりヶ丘特別支援学校）
杉田 明浩（川越市立福原中学校）
櫻井 康博（埼玉大学）
司会者：渡邊 文俊（埼玉県立行田特別支援学校）
話題提供者：内藤 理絵（さいたま市立本太中学校）
菅 拓哉（朝霞市立朝霞第一中学校）
園田 力斗（入間市立狭山小学校）
指定討論者：長沼 俊夫（日本体育大学）
細谷 忠司（十文字学園女子大学）

自主シンポジウム I-13 オンデマンド配信+9月17日(土)15:30~16:30 4階小会議室405

インクルーシブ教育システムにおける言語障害通級担当教師の役割
専門性の構築と継承

- 企画者：藤井 和子（上越教育大学大学院学校教育研究科）
司会者：藤井 和子（上越教育大学大学院学校教育研究科）
話題提供者：千賀 雄（長野県長野市立三輪小学校）
西澤 典子（新潟県上越市立大町小学校）
澤田キヨ子（前新潟県柏崎市立柏崎小学校）
指定討論者：三嶋 和也（千葉県立船橋夏見特別支援学校）
丹野 傑史（長野大学社会福祉学部）

自主シンポジウム I-14 オンデマンド配信+9月17日(土)15:30~16:30 4階中会議室406

キャリア教育の視点を踏まえたノートテイク養成の検討

－大学におけるノートテイク養成の現状と卒業後のロールモデルの提示から－

- 企画者：下中村 武（九州大学基幹教育院）
岸川加奈子（九州大学基幹教育院）
司会者：岸川加奈子（九州大学基幹教育院）
話題提供者：箕浦 伸子（兵庫教育大学障害学生支援室）
疋田 弥紅（九州大学大学院芸術工学府／アクセシビリティ・ピアサポーター）
下中村 武（九州大学基幹教育院）
本田いずみ（障がい者相互支援センターMCP）
楠瀬 樹宜（チームW・研修センター）
指定討論者：白澤 麻弓（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター）

自主シンポジウム I-15 オンデマンド配信+9月17日(土)17:00~18:00 大会議室101

読書バリアフリー法と特別支援教育(2)
学校図書館等コンソーシアムの取り組み

企画者：中野 泰志 (慶應義塾大学)
司会者：澤田 真弓 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
話題提供者：近藤 武夫 (東京大学)
野口 武悟 (専修大学)
中野 泰志 (慶應義塾大学)
指定討論者：青木千帆子 (早稲田大学)

自主シンポジウム I-16 オンデマンド配信+9月17日(土)17:00~18:00 大会議室102

コミュニケーションを支援するICTの利活用
音声ペン, iPadの活用とプログラミング教育の実践を通して

企画者：是枝喜代治 (東洋大学)
石飛 了一 (筑波大学附属大塚特別支援学校)
生田 茂 (大妻女子大学人間生活文化研究所)
司会者：根本 文雄 (筑波大学附属大塚特別支援学校)
司会者：是枝喜代治 (東洋大学)
話題提供者：原田 薫 (東京学芸大学附属特別支援学校)
富山 仁子 (栃木県立那須特別支援学校)
菊池 萌子 (栃木県立那須特別支援学校)
山下さつき (都立府中けやきの森学園)
松島 宏樹 (都立府中けやきの森学園)
指定討論者：菅野 和恵 (東海大学健康学部)
石飛 了一 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

自主シンポジウム I-17 オンデマンド配信+9月17日(土)17:00~18:00 2階中会議室201

インクルーシブ教育のための教育対話学による学際的越境

企画者：荒巻 恵子 (帝京大学大学院教職研究科)
話題提供者：司城紀代美 (宇都宮大学)
池田 彩乃 (山形大学)
指定討論者：楠見 友輔 (立教大学)
TRIGO-CLAPÉS Ana Laura (ケンブリッジ大学)
香川奈緒美 (島根大学)

自主シンポジウム I-18 オンデマンド配信+9月17日(土)17:00~18:00 2階中会議室202

教職大学院における特別支援教育関連プログラムの現状と課題
- 出願資格における特別支援学校教諭免許状の要件をめぐって -

企画者：岩田 吉生 (愛知教育大学)
 吉岡 恒生 (愛知教育大学)
司会者：岩田 吉生 (愛知教育大学)
話題提供者：山本 利和 (大阪教育大学)
 越野 和之 (奈良教育大学)
指定討論者：澤 隆史 (東京学芸大学)

自主シンポジウム I-19 オンデマンド配信+9月17日(土)17:00~18:00 3階中会議室303

知的障害教育における国語、算数・数学の指導Ⅲ

企画者：笹原 雄介 (静岡県立伊豆の国特別支援学校)
司会者：笹原 雄介 (静岡県立伊豆の国特別支援学校)
話題提供者：清 圭介 (静岡県立伊豆の国特別支援学校)
 岩附 敦史 (静岡県立富士特別支援学校)
指定討論者：山元 薫 (静岡大学教育学部)

自主シンポジウム I-20 オンデマンド配信+9月17日(土)17:00~18:00 4階小会議室405

発達障害児・者の生理心理学的アプローチによる理解(3)

企画者：吉井 鮎美 (香川短期大学子ども学科第Ⅲ部)
 中野 泰伺 (筑波大学DACセンター)
司会者：吉井 鮎美 (香川短期大学子ども学科第Ⅲ部)
話題提供者：奥村 香澄 (名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科)
 中野 泰伺 (筑波大学DACセンター)
指定討論者：池田 吉史 (上越教育大学大学院学校教育研究科)
 岡崎 慎治 (筑波大学人間系)

自主シンポジウム I-21 オンデマンド配信+9月17日(土)17:00~18:00 4階中会議室406

障害の重い人の生涯学習(5)

学校教育から卒業後につながる主体的な学びを支えるもの

- 企画者：三科 聡子 (宮城教育大学教職教育総合学域)
相澤 純一 (NPO法人訪問大学おおきなき)
石川 政孝 (NPO法人訪問大学おおきなき)
- 司会者：三科 聡子 (宮城教育大学教職教育総合学域)
- 話題提供者：檜木 暢子 (訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学)
荏田 知則 (訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学)
松本健太郎 (認定NPO法人スマイリングホスピタルジャパン「SHJ学びサポ」)
岡安 玲 (i.porte・NPO法人あいけあ)
瀬戸由紀子 (i.porte・NPO法人あいけあ)
成田 裕子 (訪問カレッジEnjoyかながわ・NPO法人フュージョンコムか)
阿部 圭但 (文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課障害)
- 指定討論者：飯野 順子 (訪問カレッジ@希林館・NPO法人地域ケアさぼーと研究所)

自主シンポジウム I-22 オンデマンド配信+9月18日(日)16:00~17:00 大会議室101

個別最適化された学びのためのICT活用

—発達や学習、身体機能、心理等の実態把握と効果の評価のあり方—

- 企画者：水内 豊和 (帝京大学文学部)
- 司会者：水内 豊和 (帝京大学文学部)
- 話題提供者：関口あさか (埼玉県立本庄特別支援学校)
和久田高之 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
山崎 智仁 (富山大学教育学部附属特別支援学校)
- 指定討論者：小島 道生 (筑波大学人間系)
金森 克浩 (帝京大学教育学部)

自主シンポジウム I-23 オンデマンド配信+9月18日(日)16:00~17:00 大会議室102

知的障害者のオンデマンド型オンライン学習における指導・支援方法について

—成人期の生涯学習の取組を通じて—

- 企画者：今枝 史雄 (大阪教育大学 特別支援教育部門)
菅野 敦 (東京学芸大学)
- 司会者：城田 和晃 (東京都立矢口特別支援学校)
- 話題提供者：辻村 洋平 (東京都立八王子東特別支援学校)
川西 邦子 (東京都立けやきの森学園)
佐藤 麗奈 (練馬区立光が丘春の風小学校)
- 指定討論者：棟方 哲弥 (国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム I-24 オンデマンド配信+9月18日(日)16:00~17:00 2階中会議室201

教室における対話の分析と支援

企画者：長澤 真史（関東学院大学教育学部こども発達学科）
話題提供者：吉井 勘人（山梨大学教育学部）
青木 雄一（長野県長野養護学校）
指定討論者：長崎 勤（実践女子大学）
司城紀代美（宇都宮大学教育学部特別支援教育講座）

自主シンポジウム I-25 オンデマンド配信+9月18日(日)16:00~17:00 2階中会議室202

養成・採用・研修の一体化を通じた特別支援学校教師の専門性向上の在り方 I
現状と課題の整理

企画者：池田 彩乃（山形大学）
内海友加利（兵庫教育大学）
安藤 隆男（筑波大学名誉教授）
司会者：有井 香織（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
話題提供者：友部 道夫（茨城県教育庁学校教育部特別支援教育課）
指定討論者：菅野 和彦（文部科学省）

自主シンポジウム I-26 オンデマンド配信+9月18日(日)16:00~17:00 3階中会議室303

読み書きの発達に関する基礎と実践の協同に向けて

企画者：丹治 敬之（岡山大学）
井上 知洋（香港中文大学）
司会者：丹治 敬之（岡山大学）
話題提供者：井上 知洋（香港中文大学）
丹治 敬之（岡山大学）
松田奈々恵（筑波大学）
指定討論者：高橋 知音（信州大学）

自主シンポジウム I-27 オンデマンド配信+9月18日(日)16:00~17:00 4階小会議室405

支え合い・学び合う環境の構築V

－社会の変化に柔軟に対応するために必要な教員の資質・能力の検討－

企画者：太田 容次（京都ノートルダム女子大学）
広兼千代子（広島大学大学院人間社会科学研究科）
司会者：遠 直美（東京都立光明学園）
話題提供者：石井 幸仁（三重県立松阪あゆみ特別支援学校）
織田 晃嘉（国立特別支援教育総合研究所）
指定討論者：竹林地 毅（広島都市学園大学）

自主シンポジウム I-28 オンデマンド配信+9月18日(日)16:00~17:00 4階中会議室406

わが国における場面緘黙研究の現在と今後の方向を考えるⅧ
場面緘黙・情緒障害に関して特別支援教育の制度と教員養成課程はどうあるべきか

企画者：高木 潤野（長野大学社会福祉学部／日本場面緘黙研究会）
司会者：白井なずな（信州かんもく相談室／日本場面緘黙研究会）
話題提供者：高木 潤野（長野大学社会福祉学部／日本場面緘黙研究会）
園山 繁樹（島根県立大学／日本場面緘黙研究会）
金原 洋治（かねはら小児科／日本場面緘黙研究会）
指定討論者：久田 信行（群馬医療福祉大学／日本場面緘黙研究会）

自主シンポジウム I-29 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)9:00~10:00 大会議室101

PASS認知神経モデルに基づく新たな認知発達評価
Cognitive Assessment System 2nd Ed. (CAS2) の利用可能性

企画者：岡崎 慎治（筑波大学人間系）
司会者：岡崎 慎治（筑波大学人間系）
話題提供者：岡崎 慎治（筑波大学人間系）
奥畑 志帆（佛教大学）
青木 真純（横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部／筑波大学人間系）
石原 章子（筑波大学大学院）
指定討論者：井上 知洋（香港中文大学心理学系）
中山 健（福岡教育大学特別支援教育ユニット）
前川 久男（筑波大学名誉教授）

自主シンポジウム I-30 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)9:00~10:00 大会議室102

発達障害者に対するテストアコモデーションの現状と課題
時間延長に焦点を当てて

企画者：横田 晋務（九州大学）
司会者：田中 真理（九州大学）
話題提供者：立脇 洋介（九州大学）
近藤 武夫（東京大学）
中野 泰志（慶應義塾大学）
指定討論者：高橋 知音（信州大学）

自主シンポジウム I-31 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)9:00~10:00 2階中会議室201

遠隔支援技術を用いた特別支援教育巡回相談の展開①
遠隔支援技術の導入に関わる障壁の検討

企画者：大橋 智 (東京未来大学)
司会者：大橋 智 (東京未来大学)
話題提供者：大橋 智 (東京未来大学)
榎本 拓哉 (徳島大学)
遠藤 愛 (星美学園短期大学)
小川 洸菜 (公認心理師・巡回相談員)
矢野 善教 (作新学院大学女子短期大学部)
指定討論者：半田 健 (宮崎大学)

自主シンポジウム I-32 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)9:00~10:00 2階中会議室202

知的障害特別支援学校における各教科で育成を目指す資質・能力を育むための授業づくり

企画者：佐藤 貴宣 (東京都立石神井特別支援学校)
司会者：坂井 直樹 (山口県立豊浦総合支援学校)
話題提供者：佐藤 貴宣 (東京都立石神井特別支援学校)
加嶋みずほ (東京都立大塚ろう学校)
辰巳 大雅 (京都府立宇治支援学校)
指定討論者：一木 薫 (福岡教育大学)

自主シンポジウム I-33 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)9:00~10:00 3階中会議室303

授業研究(レッスン・スタディ)に関する実践研究動向
～知的障害のある児童生徒の教育課程を中心に～

企画者：丹野 哲也 (東京都立久我山青光学園)
司会者：丹野 哲也 (東京都立久我山青光学園)
増田謙太郎 (東京学芸大学)
話題提供者：武富 博文 (教育政策研究会特別支援教育部会)
松見 和樹 (千葉県教育委員会)
黒川 利香 (仙台市教育委員会)
増田謙太郎 (東京学芸大学)
指定討論者：加藤 宏昭 (文部科学省)

自主シンポジウム I-34 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)9:00~10:00 4階小会議室405

特別支援教育における発達障害への実験的接近(9)
—発達心理学からの視座—

企画者：北 洋輔 (慶應義塾大学)
平田 正吾 (東京学芸大学)
司会者：池田 吉史 (上越教育大学)
話題提供者：柳岡 開地 (大阪教育大学)
三橋 翔太 (茨城キリスト教大学)
指定討論者：鈴木 浩太 (四天王寺大学)

自主シンポジウム I-35 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)9:00~10:00 4階中会議室406

神経発達症児童・生徒の運動困難に対する指導について③

企画者：石倉 健二 (兵庫教育大学)
司会者：梶 正義 (関西国際大学教育学部)
話題提供者：石倉 健二 (兵庫教育大学大学院)
近田 義裕 (兵庫教育大学大学院)
中根 征也 (森ノ宮医療大学)
川島 民子 (大垣女子短期大学幼児教育学科)
指定討論者：香野 毅 (静岡大学教育学部)
三好 敏之 (尚絅学院大学心理・教育学群)

自主シンポジウム I-36 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 大会議室101

知的障がい児・者の「はたらく態度」の獲得に向けた支援
態度のチェックリストの作成と支援の展開

企画者：小笠原 拓 (株式会社ドコモ・プラスハーティ)
司会者：小笠原 拓 (株式会社ドコモ・プラスハーティ)
話題提供者：添田 和久 (東京都立八王子特別支援学校)
小笠原 拓 (株式会社ドコモ・プラスハーティ)
指定討論者：菅野 敦 (東京学芸大学)

自主シンポジウム I-37 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 大会議室102

絵にさわる

～視覚障害児者のための絵画鑑賞モデルの構築に向けて～

企画者：正井 隆晶 (大阪教育大学)
司会者：正井 隆晶 (大阪教育大学)
話題提供者：広瀬浩二郎 (国立民族学博物館)
松山 沙樹 (京都国立近代美術館)
山本 利和 (大阪教育大学)
指定討論者：正井 隆晶 (大阪教育大学)

自主シンポジウム I-38 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 2階中会議室201

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する政策提言
共生社会の形成を促進する交流及び共同学習の在り方

企画者：武富 博文 (教育政策研究会特別支援教育部会)
宮崎 英憲 (全国特別支援教育推進連盟)
話題提供者：岩井 雄一 (全国特別支援教育推進連盟)
武富 博文 (教育政策研究会特別支援教育部会)
丹羽 登 (関西学院大学)
指定討論者：大西 孝志 (東北福祉大学)
市川 裕二 (全国特別支援学校長会)

自主シンポジウム I-39 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 2階中会議室202

千葉県の特例支援教育推進における特別支援学校の役割 II
-教育委員会の役割と特別支援学校の取組に着目して-

企画者：阿部 晃久（千葉県立袖ヶ浦特別支援学校）
司会者：池田 彩乃（山形大学地域教育文化学部）
話題提供者：三嶋 和也（千葉県立船橋夏見特別支援学校）
青木 隆一（千葉県立盲学校）
西原 裕哉（千葉県立野田特別支援学校）
指定討論者：藤井 和子（上越教育大学）
森田 浩司（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

自主シンポジウム I-40 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 3階中会議室303

やってみよう！スノーブレン！
-教育や福祉等で活用する実践のあり方を考える-

企画者：柳本 雄次（東京福祉大学教育学部）
司会者：後上 鐵夫（前大阪体育大学教育学部）
嶺 也守寛（東洋大学ライフデザイン学部）
話題提供者：達 直美（東京都立光明学園）
藤澤 憲（和歌山県立紀伊コスモス支援学校）
野澤 純子（國學院大學人間開発学部）
指定討論者：佐藤 哲央（小樽福祉社会スクールセンター未来）
大崎 博史（国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム I-41 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 4階小会議室405

知的障害教育における「ラーニングマップ」を活用した 国語、算数(数学)における教材開発

企画者：山元 薫（静岡大学教育学部）
司会者：笹原 雄介（静岡県立伊豆の国特別支援学校）
話題提供者：加藤 貴愛（静岡県立伊豆の国特別支援学校）
山口 美樹（静岡県立伊豆の国特別支援学校）
島田 愛美（静岡県立沼津特別支援学校）
指定討論者：大塚 玲（静岡大学教育学部）

自主シンポジウム I-42 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 4階中会議室406

障害のある児童生徒のキャリア教育と自己理解

企画者：若林 上総（宮崎大学教育学部）
司会者：井上 秀和（国立特別支援教育総合研究所）
話題提供者：武澤 友広（高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター）
若林 上総（宮崎大学教育学部）
田中 智樹（岐阜県立不破高等学校）
指定討論者：榎本 容子（国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム I-43 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)12:00~13:00 大会議室101

物とともに教えることと学ぶこと

企画者：楠見 友輔（日本学術振興会特別研究員）
司会者：楠見 友輔（日本学術振興会特別研究員）
話題提供者：松本健太郎（東京都立多摩桜の丘学園）
市川友佳子（東京藝術大学大学院音楽研究科）
菱 真衣（東京都立青峰学園）
指定討論者：楠見 友輔（日本学術振興会特別研究員）

自主シンポジウム I-44 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)12:00~13:00 大会議室102

**新時代を生きる力を育む知的・発達障害のある子の道徳教育実践(3)
社会自立・職業自立を目指す特別支援学校高等部における「特別の教科 道徳」の授業づくり**

企画者：本吉 大介（熊本大学大学院教育学研究科）
司会者：本吉 大介（熊本大学大学院教育学研究科）
話題提供者：日置健児朗（熊本県立小国支援学校）
内藤由里子（熊本県立小国支援学校）
錦織 晃子（鳥根県立松江養護学校）
西島沙和子（熊本県立ひのくに高等支援学校）
指定討論者：齋藤 大地（宇都宮大学共同教育学部）
本吉 大介（熊本大学大学院教育学研究科）

自主シンポジウム I-45 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)12:00~13:00 2階中会議室201

**知的障害特別支援学校における新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成
ー学習計画書(シラバス)の作成を通してー**

企画者：城田 和晃（東京都立矢口特別支援学校）
司会者：今枝 史雄（大阪教育大学）
話題提供者：西田恵理子（東京都立王子特別支援学校）
八巻 素子（東京都立青鳥特別支援学校）
指定討論者：菅野 敦（東京学芸大学）

自主シンポジウム I-46 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)12:00~13:00 2階中会議室202

インクルーシブ教育とICF(2)

企画者：徳永亜希雄（横浜国立大学）
司会者：徳永亜希雄（横浜国立大学）
話題提供者：徳永亜希雄（横浜国立大学）
齊藤 博之（山形県立ゆきわり養護学校）
達 直美（東京都立光明学園）
指定討論者：山元 薫（静岡大学）
田中 浩二（東京成徳短期大学）

自主シンポジウム I-47 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)12:00~13:00 3階中会議室303

自閉症スペクトラム障害を有する子どもの学習とは?(2)
ASD児の学習へのアプローチ

企画者：堀部 要子 (名古屋女子大学文学部)
司会者：堀部 要子 (名古屋女子大学文学部)
話題提供者：木山 清貴 (鳥取県立倉吉養護学校)
東俣 淳子 (豊田市こども発達センター)
樋口 和彦 (広島修道大学人文学部)
指定討論者：堀部 要子 (名古屋女子大学文学部)

自主シンポジウム I-48 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)12:00~13:00 4階小会議室405

共生社会の形成に向けた保育・教育の希求(5)
—インクルーシブな保育実践の充実と保育の質向上との関係を考える—

企画者：守 巧 (こども教育宝仙大学)
話題提供者：足立 祐子 (台東区立竹町幼稚園)
若月 芳浩 (四季の森幼稚園・玉川大学)
広瀬 由紀 (共立女子大学)
指定討論者：久保山茂樹 (国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム I-49 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)12:00~13:00 4階中会議室406

キャリア支援を基軸とした就労支援人材の育成のあり方

企画者：松為 信雄 (神奈川県立保健福祉大学)
話題提供者：鈴木 修 (NPO法人くらし・しごとえん)
湯沢 由美 (医療法人丹沢病院)
指定討論者：菊地 一文 (弘前大学)

自主シンポジウム I-50 オンデマンド配信+9月19日(月・祝)10:30~11:30 3階小会議室304

茨城県における知的障害特別支援学校の道徳教育の取組

企画者：平川 聡 (茨城県立結城特別支援学校)
司会者：平川 聡 (茨城県立結城特別支援学校)
話題提供者：斉藤 健 (茨城県立協和特別支援学校)
関根かおり (茨城県立石岡特別支援学校)
指定討論者：齋藤 大地 (宇都宮大学共同教育学部)

自主シンポジウムⅡ-1

オンデマンド配信

難聴のある幼児のことばを育てるために(その2) 教員の研修について考える

- 企画者：庄司 和史 (信州大学 学術研究院総合人間科学系)
 斎藤 佐和 (筑波大学)
- 司会者：庄司 和史 (信州大学 学術研究院総合人間科学系)
- 話題提供者：庄司 和史 (信州大学 学術研究院総合人間科学系)
 手塚 清 (千葉県立千葉聾学校)
 中泉 貢一 (北海道室蘭聾学校)
 鎌田ルリ子 (筑波大学附属聴覚特別支援学校)
- 指定討論者：松本 末男 (聴覚障害者教育福祉協会)
 鹿嶋 浩 (愛知県立岡崎聾学校)

自主シンポジウムⅡ-2

オンデマンド配信

キューサインと発音指導

- 企画者：脇中起余子 (筑波技術大学)
- 司会者：長南 浩人 (筑波技術大学)
- 話題提供者：脇中起余子 (筑波技術大学)
 板橋 安人 (元筑波大学附属聴覚特別支援学校)
 山中 健二 (筑波大学附属聴覚特別支援学校)
- 指定討論者：松本 末男 (元筑波大学・聴覚障害者教育福祉協会)
 原島 恒夫 (筑波大学)

自主シンポジウムⅡ-3

オンデマンド配信

知的障害児への発達と特性に応じた支援

- 企画者：小島 道生 (筑波大学人間系)
 片岡 美華 (鹿児島大学教育学系)
- 司会者：片岡 美華 (鹿児島大学教育学系)
- 話題提供者：橋口 尚宝 (鹿児島大学教育学部附属特別支援学校)
 尾川 周平 (筑波大学大学院人間総合科学学術院)
 前田真理子 (筑波大大学院人間総合科学研究科)
- 指定討論者：別府 哲 (岐阜大学教育学部)
 水内 豊和 (帝京大学文学部)

自主シンポジウムⅡ-4

オンデマンド配信

教科の学習を通じた交流及び共同学習の展開3

－日常的に場を共有する事例における授業づくりの検討－

企画者：霜田 浩信（群馬大学共同教育学部）
木村 素子（群馬大学共同教育学部）
司会者：霜田 浩信（群馬大学共同教育学部）
話題提供者：内田 誠（群馬大学共同教育学部）
坂西 秀昭（群馬大学共同教育学部）
堀部 慧（熊谷市教育委員会）
木村 素子（群馬大学共同教育学部）
指定討論者：丹野 哲也（東京都立久我山青光学園）

自主シンポジウムⅡ-5

オンデマンド配信

発達的な視点を取り入れた音楽の授業づくり

知的障害を伴う自閉症児童を対象とした音楽の学習活動に焦点をあてて

企画者：工藤 傑史（東京福祉大学）
司会者：工藤 傑史（東京福祉大学）
話題提供者：工藤 久美（筑波大学附久里浜浜特別支援学校）
中川 知香（筑波大学附久里浜浜特別支援学校）
指定討論者：山本久美子（日本臨床心理研究所）
池畑美恵子（淑徳大学発達臨床センター）

自主シンポジウムⅡ-6

オンデマンド配信

ダウン症児には知的障害児教育でよいのか？

－ダウン症固有の特性に基づく教育・発達支援フレームを考える－

企画者：山口 遼（東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター）
司会者：橋本 創一（東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター）
話題提供者：野元明日香（志学館大学人間関係学部）
渡邊 貴裕（順天堂大学スポーツ健康科学部）
李 受眞（浜松学院大学現代コミュニケーション学部）

自主シンポジウムⅡ-7

オンデマンド配信

知的障害特別支援学校における「遊びの指導」の今(4)

学童期段階のASD児に遊び環境を設定することの意義と具体的な方法

企画者：真鍋 健（千葉大学教育学部）
細川かおり（千葉大学教育学部）
話題提供者：菅原 宏樹（千葉県立習志野特別支援学校）
丹野 祐介（千葉大学教育学部附属特別支援学校）
名取 幸恵（千葉大学教育学部附属特別支援学校）
藤原 あや（福岡教育大学）
指定討論者：園山 繁樹（鳥根県立大学人間文化学部）

自主シンポジウムⅡ-8

オンデマンド配信

知的障害を伴う自閉症児に対する自立活動の指導について
－「身体」に働き掛けた指導実践から－

企画者：齋藤 豊（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
司会者：工藤 久美（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
話題提供者：五反田明日見（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
丸山 真幸（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
指定討論者：北川 貴章（国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部）

自主シンポジウムⅡ-9

オンデマンド配信

エージェンシーを発揮する生徒を育む 特別支援学校のこれからの学びを考える 2

企画者：松見 和樹（千葉県教育委員会）
司会者：松見 和樹（千葉県教育委員会）
話題提供者：伊藤 康弘（千葉県立特別支援学校流山高等学園）
古江 陽子（千葉県立特別支援学校流山高等学園）
指定討論者：福本 徹（国立教育政策研究所）

自主シンポジウムⅡ-10

オンデマンド配信

Society5.0時代の知的障害特別支援学校高等部専門学科，職業コースの在り方の考察

企画者：嶋野 隆文（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）
話題提供者：小西 孝政（千葉県教育委員会）
青木 隆一（千葉県立千葉盲学校）
指定討論者：松見 和樹（千葉県教育委員会）

自主シンポジウムⅡ-11 取下げ

自主シンポジウムⅡ-12

オンデマンド配信

知的障害教育における「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくり
学習評価に焦点を当てて

企画者：角原 佳介（岡山大学教育学部附属特別支援学校）
司会者：濱田 曜（岡山大学教育学部附属特別支援学校）
話題提供者：伴 真里奈（岡山大学教育学部附属特別支援学校）
櫛本 圭佑（岡山大学教育学部附属特別支援学校）
乗金 大輔（岡山大学教育学部附属特別支援学校）
小林 敬和（岡山大学教育学部附属特別支援学校）
指定討論者：加茂 聡（静岡大学教育学部附属特別支援学校）
橋本 和也（群馬大学共同教育学部附属特別支援学校）
森澤 亮介（筑波大学附属大塚特別支援学校）

自主シンポジウムⅡ-13

オンデマンド配信

まん延防止等重点措置期間における附属特別支援学校におけるオンライン教育実習と教員養成

企画者：下山 真衣（信州大学学術研究院教育学系）
司会者：下山 真衣（信州大学学術研究院教育学系）
話題提供者：原 洋平（信州大学学術研究院教育学系）
上野 大（信州大学教育学部附属特別支援学校）
指定討論者：村松 浩幸（信州大学学術研究院教育学系）
大石 幸二（立教大学現代心理学部）

自主シンポジウムⅡ-14 欠番

自主シンポジウムⅡ-15

オンデマンド配信

軽度知的障害は増えている
AAIDDによる知的障害の定義と分類ver. 12から考える

企画者：熊谷 亮（宮城教育大学大学院教育学研究科）
橋本 創一（東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター）
司会者：橋本 創一（東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター）
話題提供者：橋本 創一（東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター）
熊谷 亮（宮城教育大学大学院教育学研究科）
田中 里実（青山学院大学教育人間科学部心理学科）
加藤 宏昭（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

自主シンポジウムⅡ-16

オンデマンド配信

特別支援教育を担う教員の専門性向上に関する課題と展望Ⅱ

企画者：綿引 清勝（いわき短期大学）
司会者：綿引 清勝（いわき短期大学）
話題提供者：高橋 昌樹（東京都立しいの木特別支援学校）
佐々木敏幸（明星大学教育学部）
工藤洗一邦（神奈川県立茅ヶ崎養護学校）
指定討論者：島田 博祐（明星大学教育学部）

自主シンポジウムⅡ-17

オンデマンド配信

可視化と対話の視点を踏まえたキャリア・パスポートの活用
本人の取組に対する気づきや意味付けを促す活用のポイントと課題

企画者：菊地 一文（弘前大学大学院）
司会者：杉中 拓央（東北文教大学）
話題提供者：石羽根里美（千葉県立夷隅特別支援学校）
岡本 洋（横浜市立若葉台特別支援学校）
田中 美紀（弘前大学大学院教育学研究科）
指定討論者：藤川 雅人（名寄市立大学）
菊地 一文（弘前大学大学院）

自主シンポジウムⅡ-18

オンデマンド配信

肢体不自由児の実態に応じた手作り楽器の有用性
～重度重複障害児Aの発達促進を目指した音楽活動の事例～

企画者：柳田 和美（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
話題提供者：金子 栄生（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
指定討論者：山本久美子（日本音楽療法学会認定音楽療法士）

自主シンポジウムⅡ-19

オンデマンド配信

自立活動教諭の専門性(4)
－自立活動教諭の専門性を支え活かす組織としくみとは－

企画者：今野 邦彦（藤女子大学）
古川 章子（北海道大学大学院教育学院）
司会者：今野 邦彦（藤女子大学）
話題提供者：津川 周一（北海道教育庁特別支援教育課）
分藤 賢之（長崎県教育庁特別支援教育課）
指定討論者：長沼 俊夫（日本体育大学体育学部）

自主シンポジウムⅡ-20

オンデマンド配信

知的障害を伴う肢体不自由児に対する各教科の指導Ⅲ

企画者：田丸 秋穂（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
話題提供者：小山 信博（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
鈴木 泉（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
指定討論者：分藤 賢之（長崎県教育庁）
川間健之介（筑波大学人間系）

自主シンポジウムⅡ-21

オンデマンド配信

重度身体障害者とeSports 視線入力を活用したゲーム操作と参加

企画者：大杉 成喜（皇學館大学教育学部）
司会者：新谷 洋介（金沢星稜大学人間科学部）
話題提供者：伊藤 史人（島根大学）
岡元 雅（みやびProject）
梶山 紘平（かじだすTube）
引地 晶久（できわかクリエイターズ）
指定討論者：金森 克浩（帝京大学教育学部）
田中 栄一（北海道医療センター）

自主シンポジウムⅡ-22

オンデマンド配信

特別支援教育専攻学生対象の障害理解のための教材開発 その11:COVID-19下における病弱・肢体不自由教育における多様な授業形式と教材

企画者：村上 由則（東北福祉大学教育学部）
村上 由則（東北福祉大学）
話題提供者：大江 啓賢（東洋大学文学部）
菊池 紀彦（三重大学教育学部）
八島 猛（上越教育大学大学院学校教育研究科）
指定討論者：寺本 淳志（宮城教育大学教育学部）

自主シンポジウムⅡ-23

オンデマンド配信

場面緘黙当事者・経験者の抱える困難さと今後の研究の在り方

企画者：辻田 那月（京都大学大学院人間・環境学研究科）
田中佑里恵（名古屋大学教育学部）
司会者：田中佑里恵（名古屋大学教育学部）
話題提供者：増井 祈（言の葉の会）
幅野 真衣（京都文教大学心理臨床センター・臨床心理学研究科）
田中佑里恵（名古屋大学教育学部）
藤間友里亜（筑波大学大学院人間総合科学研究群）
指定討論者：高木 潤野（長野大学社会福祉学部）

自主シンポジウムⅡ-24

オンデマンド配信

ライフキャリア発達から考える“わたし”を認め、育むこと

企画者：大谷 博俊（鳴門教育大学高度学校教育実践専攻）
司会者：大谷 博俊（鳴門教育大学高度学校教育実践専攻）
話題提供者：福井 愛実（鳴門教育大学附属小学校）
前林 宏典（鳴門教育大学附属特別支援学校）
小川 聡太（鳴門教育大学大学院子ども発達支援コース特別支援教育分野）
指定討論者：前原 和明（秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座）
渡部 匡隆（横浜国立大学教育学部特別支援教育講座）

自主シンポジウムⅡ-25

オンデマンド配信

A S D児に対して「非認知能力」をどう育むかⅡ

企画者：吉井 勘人（山梨大学）
司会者：宮崎 眞（明治学院大学 心理学部 教育発達学科）
話題提供者：若井広太郎（筑波大学 附属大塚特別支援学校）
 関戸 英紀（東海大学児童教育学部）
 長崎 勤（実践女子大学生生活科学部生活科学研究科）
指定討論者：松田 信夫（山口学芸大学教育学部）
 亀田 良一（元群馬県小学校教員）

自主シンポジウムⅡ-26

オンデマンド配信

重度・重複障害児の学習とは？(7) 能動的な学習を促進する学習内容の選定と学習環境の設定

企画者：樋口 和彦（広島修道大学人文学部）
 樋口 和彦（広島修道大学人文学部）
司会者：平田香奈子（広島修道大学人文学部）
話題提供者：石川 ゆず（広島市立広島特別支援学校）
 河原 周作（広島市立広島特別支援学校）
 伊藤 心（広島市立広島特別支援学校）
 渡邊 正人（鳥取大学地域学部）
指定討論者：藤川志つ子（淑徳大学短期大学部）
 三木由美子（広島修道大学人文学部）

自主シンポジウムⅡ-27

オンデマンド配信

重度・重複障害のある子に対する三項関係に着目したアセスメントと支援への展開

企画者：原 伸生（長野県上田養護学校）
 青木 高光（長野県長野養護学校・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）
話題提供者：深澤 美香（長野県稲荷山養護学校）
 小室 惟（長野県飯田養護学校）
指定討論者：杉浦 徹（東北福祉大学）

自主シンポジウムⅡ-28

オンデマンド配信

教員支援のためのアセスメントツールの開発3 感覚の活用、感覚処理の困難に焦点をあてた観察項目の作成

企画者：山口真佐子（桜美林大学）
司会者：三崎 恵美（八王子市立浅川小学校）
話題提供者：山口真佐子（桜美林大学）
指定討論者：篠崎 友誉（東京都教職員研修センター）

自主シンポジウムⅡ-29

オンデマンド配信

多様な教育ニーズにこたえる特別支援教育を推進する実践研究や支援方法・ツールの開発
ー地域の学校園フィールドと大学センターの連携と研究ー

企画者：橋本 創一（東京学芸大学）
司会者：大伴 潔（国立大学法人障害児教育関連研究センター連絡協議会）
橋本 創一（国立大学法人障害児教育関連研究センター連絡協議会）
話題提供者：中村 貴志（福岡教育大学）
村中 智彦（上越教育大学）
野崎 義和（宮城教育大学）
小林 巖（東京学芸大学）

自主シンポジウムⅡ-30

オンデマンド配信

今、教職大学院の学びを活かす
特別支援教育に関わる現職派遣教員として

企画者：神田 基史（帝京大学教育学部）
辻村 洋平（東京都立八王子東特別支援学校）
司会者：荒卷 恵子（帝京大学大学院教職研究科）
話題提供者：昼間 友彦（東京都立調布特別支援学校）
青山 直樹（東京都立矢口特別支援が校）
辻村 洋平（東京都立八王子東特別支援学校）
指定討論者：荒卷 恵子（帝京大学大学院教職研究科）
澤田 隆視（埼玉県立上尾特別支援学校）

自主シンポジウムⅡ-31

オンデマンド配信

特別ニーズ防災教育のこれまでとこれから（2）
ポストコロナを見据えたオンラインの可能性

企画者：富永 光昭（大阪教育大学）
長澤 洋信（四天王寺大学）
鈴木 浩太（四天王寺大学）
司会者：楠見 友輔（立教大学・日本学術振興会特別研究員）
話題提供者：斎藤 朝子（埼玉県立日高特別支援学校）
長澤 洋信（四天王寺大学）
指定討論者：大崎 博史（国立特別支援教育総合研究所）
富永 光昭（大阪教育大学）

自主シンポジウムⅡ-32

オンデマンド配信

思考能力の発達段階に応じた認知・概念学習と教具
—思考におけるタテの発達・ヨコの発達と盲重複障害児への指導の実践知から—

企画者：佐島 毅（筑波大学）
 福田 奏子（宇都宮大学共同教育学部）
話題提供者：二宮 一水（筑波大学大学院）
 岩田 恵実（東京都立久我山青光学園）
 戸嶋 純那（愛媛県立みなら特別支援学校）
指定討論者：松本健太郎（東京都立多摩桜の丘学園）

自主シンポジウムⅡ-33

オンデマンド配信

特別支援学校におけるスクールカウンセラーへのニーズと役割

企画者：熊谷 恵子（筑波大学 人間系）
司会者：熊谷 恵子（筑波大学 附属学校教育局）
話題提供者：佐々木順子（筑波大学附属視覚特別支援学校）
 山本 ゆう（筑波大学附属聴覚特別支援学校）
 堂山 亜希（筑波大学附属大塚特別支援学校）
 佐藤 七瀬（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
 渡邊 則子（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
指定討論者：小島 道生（筑波大学 附属学校教育局）

自主シンポジウムⅡ-34

オンデマンド配信

「学校から社会への移行期の学び」をどう見るか
—専攻科教育の視点から—

企画者：國本 真吾（鳥取短期大学幼児教育保育学科）
司会者：國本 真吾（鳥取短期大学幼児教育保育学科）
話題提供者：伊藤 修毅（日本福祉大学）
 辻 和美（特別支援学校聖母の家学園）
 寺谷 直輝（愛知県立大学客員共同研究員）

自主シンポジウムⅡ-35

オンデマンド配信

学校卒業後に就労継続支援B型事業所の利用希望に伴う 就労アセスメントの現状と課題

企画者：山口明日香（高松大学）
話題提供者：前原 和明（秋田大学）
 今井 彩（秋田大学教育文化学部附属特別支援学校）
 六車 浩（かがわ総合リハビリテーションセンター）
指定討論者：八重田 淳（筑波大学）

自主シンポジウムⅡ-36

オンデマンド配信

持続可能な開発のためのキャリア教育
学校と企業の連携は何のために行われているか

企画者：山内 俊久（創価大学）
司会者：浜辺 清（東京都特別支援教育推進室）
話題提供者：湯本 憲三（株式会社サンキュウ・ウイズ）
鹿島田真由美（東京都立永福学園）
山内 豊也（株式会社日本珈琲販売共同機構）
指定討論者：浜辺 清（東京都特別支援教育推進室）
山内 俊久（創価大学教育学部児童教育学科）

自主シンポジウムⅡ-37

オンデマンド配信

キャリア発達に資する就学相談の在り方についてⅡ
～インクルーシブ教育システムの構築において、当事者のキャリア発達に資する望ましい
就学相談とは～

企画者：深谷 純一（東京都立高島特別支援学校）
瀧田美紀子（横浜市教育委員会）
司会者：深谷 純一（東京都立高島特別支援学校）
話題提供者：濱崎 奈緒（広島県教育委員会）
神保幸次郎（板橋区立中台小学校）
松原 未知（NPO法人NECSTビルド神保町）
指定討論者：瀧田美紀子（横浜市教育委員会）

自主シンポジウムⅡ-38

オンデマンド配信

歴史的建造物におけるバリアフリー状況

企画者：水野 智美（筑波大学 医学医療系）
徳田 克己（筑波大学 医学医療系）
司会者：西館 有沙（富山大学教育学部）
話題提供者：藤田 晃子（株式会社 マイクロンジャパン）

自主シンポジウムⅡ-39

オンデマンド配信

糸賀一雄「福祉の思想」を受け継ぐ(3) 糸賀一雄の魅力を若い世代とどう語り合うか
——特別支援教育コアカリキュラム論議ともかかわって——

企画者：渡部 昭男（大阪成蹊大学）
話題提供者：國本 真吾（鳥取短期大学）
垂髪あかり（神戸松蔭女子学院大学）
金丸 彰寿（神戸松蔭女子学院大学）
金 仙玉（愛知みずほ短期大学）
川内紀世美（大阪健康福祉短期大学／松江キャンパス）

特別支援学校におけるアセスメントを活かした授業づくり

- 企画者：尾関 美和（鳴門教育大学附属特別支援学校）
話題提供者：田中 和也（佐賀県立唐津特別支援学校）
立和名信行（鳴門教育大学附属特別支援学校）
藤本 洋美（徳島県立鴨島支援学校）
指定討論者：田村 隆宏（鳴門教育大学大学院学校教育研究科）
小倉 正義（鳴門教育大学大学院学校教育研究科）

支援会議を活性化させる「ファシリテーション」(6)
福祉現場の会議に活かすファシリテーション

- 企画者：三田地真実（星槎大学大学院）
話題提供者：田熊 立（千葉県発達障害者支援センター）
吉田 五月（千葉県発達障害者支援センター）
竹村 雅裕（社会福祉法人二葉保育園・二葉むさしが丘学園）
鵜沢 敦史（社会福祉法人菜の花会）
千田 弘美（社会福祉法人はーとふる）
指定討論者：佐藤 智彦（東京慈恵会医科大学）

口頭発表

知的障害①・発達障害①

9月17日(土)13:00～14:40 中ホール300

座長 三好敏之, 緒方亜文

- | | | |
|------|---|--|
| O1-1 | 生徒のキャリア形成を促すフィードバックの展開 現場実習を中心とした進路指導の充実と発展を目指して | 今井 彩(秋田大学大学院教育学研究科) 前原 和明(秋田大学教育文化学部) |
| O1-2 | 成人障害者への臨床動作法でのかかわりについて ～からだのやりとりを通して安心感を得る～ | 三好 敏之(尚絅学院大学) |
| O1-3 | 職場ストレスから生じた適応障害の受診から ASDと診断されたセルフケース報告 | 石黒 栄亀(松本大学教育学部) |
| O1-4 | 通常学級に参加する特別支援対象児にとっての交流の意味 批判的ディスコース心理学による生徒の語りの分析 | 緒方 亜文(東京大学大学院) |
| O1-5 | 自閉スペクトラム症者の歩行と脳機能の関係 | 東海林 豪(広島大学大学院) |

視覚障害・重度重複障害・その他

9月17日(土)14:40～16:20 中ホール300

座長 新井雅明, 木村光男

- | | | |
|------|--|---|
| O2-1 | 視覚障害の教員が利用しやすい教材ウェブネットワーク構築 のための調査研究 | 志村まゆら(筑波技術大学) 工藤 滋(筑波大学) 半田こづえ(明治学院大学) 田中 秀樹(東京都立文京盲学校) 福島 正也(筑波技術大学) |
| O2-2 | 重度重複障害者への眼鏡型アイトラッカーの活用の意義 | 新井 雅明(田園調布学園大学) |
| O2-3 | 視覚障害者を対象としたジェスチャー練習アプリの開発と評価 | 諸星 奏希(広島大学) 氏間 和仁(広島大学) |
| O2-4 | 肢体不自由・知的障害等の重度重複障害当事者と感覚を通じた発達支援 デンマークの国際スヌーズレン協会への訪問調査から | 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 高橋 智(日本大学文理学部教育学科) |
| O2-5 | 特別支援教育支援員に必要な研修内容 支援員による協議後の認識に着目して | 木村 光男(常葉大学教育学部初等教育課程) 大井 雄平(常葉大学教育学部初等教育課程) |

座長 鄭 仁豪, 高橋 智

- | | | |
|------|--|--|
| O3-1 | 視空間記憶課題における聴覚障害者の記憶の特徴 コミュニケーションモードと言語力の相違による検討 | 鄭 仁豪(筑波大学人間系) 石田 祐貴(筑波大学人間総合科学研究科) |
| O3-2 | 漫画における聴覚障害者の描写の検討 | 勝谷 紀子(東京大学先端科学技術研究センター・日本福祉大学大学院) 佐野 智子(城西国際大学福祉総合学部) |
| O3-3 | デンマークにおける病気の子どもの教育ケアの動向 | 能田 昂(尚綱学院大学総合人間科学系教育部門) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 石井 智也(東海学院大学人間関係学部) 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域) 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 池田 敦子(東海学院大学人間関係学部) 柴田 真緒(戸田市立美木小学校) 高橋 智(日本大学文理学部教育学科) |
| O3-4 | スウェーデンにおける病気の子どもの教育ケアの動向 | 高橋 智(日本大学文理学部教育学科) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 石井 智也(東海学院大学人間関係学部) 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 能田 昂(尚綱学院大学総合人間科学系) 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域) 池田 敦子(東海学院大学人間関係学部) 柴田 真緒(埼玉県戸田市立美木小学校) |
| O3-5 | ことばの教室におけるコロナ禍の指導内容・方法の在り方 コロナ禍において自宅課題を行う保護者との連携を意識した 課題の工夫 | 堂前 晃子(四街道市立四街道小学校) |

座長 久田信行, 石川衣紀

- | | | |
|------|--|--|
| O4-1 | 自立活動モデルからみた障害児支援方法の検討 -コアカリキュラム(案)への批判- | 久田 信行(群馬医療福祉大学) |
| O4-2 | 小学校低学年の保護者による子どもの学校生活 通常学級に在籍する発達障害児との比較 | 中嶋 理香(日本福祉大学) |
| O4-3 | 特別支援学校の自立活動に関する動向と課題 -「肢体不自由・病弱」領域を中心に- | 石井 智也(東海学院大学人間関係学部子ども発達学科) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域障害児教育講座) 能田 昂(尚綱学院大学総合人間科学系教育部門) 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 池田 敦子(東海学院大学人間関係学部子ども発達学科) 柴田 真緒(戸田市立美女木小学校) 高橋 智(日本大学文理学部教育学科) |
| O4-4 | 特別支援教育におけるICT利活用に関する動向と課題 -視覚障害・聴覚障害教育を中心に- | 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 田部 絢子(金沢大学) 石井 智也(東海学院大学) 内藤 千尋(山梨大学) 能田 昂(尚綱学院大学) 池田 敦子(東海学院大学) 柴田 真緒(埼玉県戸田市立美女木小学校) 高橋 智(日本大学) |
| O4-5 | コロナ禍における子どもの不安・ストレスと睡眠困難・生活 リズム困難に関する動向 | 柴田 真緒(埼玉県戸田市立美女木小学校) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域) 高橋 智(日本大学文理学部) |

座長 足立 圭子, 矢野川祥典

- | | | |
|------|--|--|
| O5-1 | 図形選択学習過程における「+」と「-」の因果関係 | 足立 圭子(よこはま児童文化研究所) 原 ふみ(よこはま児童文化研究所) 上野 岳(よこはま児童文化研究所) |
| O5-2 | 強度行動障害の生徒への他害行動軽減支援 生物心理社会モデルに基づいた積極的連携の効果 | 大槻 真信(茨城大学教育学部附属特別支援学校) 金丸 隆太(茨城大学人文社会科学部) |
| O5-3 | コロナ禍の現場実習生に対する支援と配慮の検討 -知的障害特別支援学校の進路指導を踏まえて- | 矢野川祥典(福山平成大学) |
| O5-4 | 小学校特別支援学級における自立活動の指導に対する実態把握 の困難さ、工夫の内容分析 | 鉄井 史人(名古屋市立西養護学校) 相羽 大輔(愛知教育大学特別支援教育講座) |

座長 太田容次, 池田敦子

- | | | |
|------|--|---|
| O6-1 | 日本語指導等の特別な配慮を必要とする児童生徒への指導・支援に関する研究 14都府県等教育委員会担当者への聞き取り調査から | 太田 容次(京都ノートルダム女子大学) 金森 克浩(帝京大学) 丹羽 登(関西学院大学) 梅田 真理(宮城学院女子大学) |
| O6-2 | 特別支援学校の自立活動に関する動向と課題 —「知的障害」領域を中心に— | 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 石井 智也(東海学院大学人間関係学部子ども発達学科) 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域障害児教育講座) 能田 昂(尚綱学院大学 総合人間科学系 教育部門) 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 池田 敦子(東海学院大学 人間関係学部 子ども発達学科) 柴田 真緒(戸田市立美女木小学校) 高橋 智(日本大学 文理学部) |
| O6-3 | 発達障害者における試験時間延長の効果を規定する要因 | 立脇 洋介(九州大学) 面高 有作(九州大学) 横田 晋務(九州大学) 稲田 尚子(帝京大学) 大野 愛哉(九州大学大学院人間環境学府) 脇浜 幸則(九州大学大学院人間環境学府) 鈴木 大輔(東北大学) 田中 真理(九州大学) |
| O6-4 | 発達障害のある生徒の自己有用感を育む授業づくりの検討 —特別支援学校における地域資源を活用した授業実践から— | 工藤 智史(秋田県教育庁) |
| O6-5 | デンマークにおける肢体不自由(運動障害)教育システムの動向 —インクルーシブ教育における肢体不自由(運動障害)特別学校・学級の意義と役割— | 池田 敦子(東海学院大学) 田部 絢子(金沢大学) 石井 智也(東海学院大学) 内藤 千尋(山梨大学) 能田 昂(尚綱学院大学) 石川 衣紀(長崎大学) 柴田 真緒(戸田市立美女木小学校) 高橋 智(日本大学) |

ポスター発表

| | | |
|-------|--|--|
| P1-1 | 視覚障害特別支援学校における併置・併設の現状と課題 学校設置形態に関わらず持続可能な視覚障害教育を目指して | 青木 隆一(千葉県立千葉盲学校) 矢野口 仁(松本大学教職支援センター) |
| P1-2 | 弱視のある小学生の読み評価用文の開発に関する予備的調査 | 氏間 和仁(広島大学) 西本 月那(神戸市立青陽須磨特別支援学校) 今津 麻衣(広島大学大学院) |
| P1-3 | 凸線辿りによる触覚迷路課題の課題難易度に関する基礎的研究 分岐数・方向・袋小路出現位置要因からの検討 | 館下 智子(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 吉本 萌(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 二宮 一水(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 佐島 毅(筑波大学人間系) |
| P1-4 | 点字試験における合理的配慮の検討 昭和54(1979)年度共通第1次学力試験と令和4(2022)年度大学入学共通テストの点字問題を比較して | 青松 利明(筑波大学附属視覚特別支援学校) 清和 嘉子(筑波大学附属視覚特別支援学校) |
| P1-5 | あん摩実技における教員用観点別評価項目に関する研究 理療科教員の意見に基づく検討 | 末永多香光(大分県立盲学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部) |
| P1-6 | 弱視児の図形認知のための縦縞模様の利用 ー図形模写の際の「手がかり」としての適用ー | 小中 雅文(大分県立盲学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部) |
| P1-7 | 視覚支援学校の絵画鑑賞とその教材等についての一考察(1) ～視覚支援学校小学部の実態調査結果から～ | 正井 隆晶(大阪教育大学) 松山 沙樹(京都国立近代美術館) 山本 利和(大阪教育大学) |
| P1-8 | 視覚支援学校の絵画鑑賞とその教材等についての一考察(2) ～視覚支援学校中学部の実態調査結果から～ | 松山 沙樹(京都国立近代美術館) 正井 隆晶(大阪教育大学) 山本 利和(大阪教育大学) |
| P1-9 | 視覚支援学校の絵画鑑賞とその教材等についての一考察(3) ～視覚支援学校高等部の実態調査結果から～ | 山本 利和(大阪教育大学) 正井 隆晶(大阪教育大学) 松山 沙樹(京都国立近代美術館) |
| P1-10 | デジタル教材が必要な弱視生徒の視覚特性と求められるアクセシビリティ機能 | 中野 泰志(慶應義塾大学) |
| P1-11 | 自立活動の指導における特別支援学校教師の成長過程の検討 ー初期プロセスに着目してー | 内海友加利(兵庫教育大学) 池田 彩乃(山形大学) 橋本 陸(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 安藤 隆男(筑波大学名誉教授) |
| P1-12 | 特別支援学校中学部保健体育科(知的障害)の武道における 少林寺拳法指導プログラムの開発 特別支援学校(聴覚障害)における実践を通して | 天海 丈久(弘前大学教育学部) 保村 崇有(青森県立弘前聾学校) 加福千佳子(青森県立弘前聾学校) 秋元 宏介(一般財団法人少林寺拳法連盟) |
| P1-13 | 高等学校における障害のある生徒の進路指導の課題 インタビュー調査の結果から | 伊藤 由美(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 小澤 至賢(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 小西 孝政(千葉県教育庁特別支援教育課) 榎本 容子(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 生駒 良雄(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) |
| P1-14 | 体育教員が授業中に感じる指導不安 障害のある生徒を指導する場合 | 鈴木 悠介(東京都立高島特別支援学校) |

| | | |
|-------|--|---|
| P1-15 | 教員養成・保育士養成における特別支援教育への視野を育成するための学修事項の検討 新聞の人物紹介記事を活用した学修における読み手の着目点からの一考察 | 加藤 隆芳(筑波大学) |
| P1-16 | 教職志望大学生の特別支援教育に関する知識や指導上の不安 －通常の学級の担当教員を志す学部生を対象として－ | 林田 真志(広島大学大学院人間社会科学研究所) 河原 麻子(国立特別支援教育総合研究所) 新海 晃(広島大学大学院人間社会科学研究所) 澤 隆史(東京学芸大学総合教育科学系) 相澤 宏充(福岡教育大学特別支援教育ユニット) |
| P1-17 | コロナ禍における特別支援学校教育実習への大学の対応 －市教育委員会との連携－ | 藤川 雅人(名寄市立大学保健福祉学部) 奥村 香澄(名寄市立大学保健福祉学部) 安永 啓司(聖学院大学人文学部) |
| P1-18 | 私立大学における要支援学生への早期支援の取り組み 障害種別に見た「大学生生活支援カード」導入後3年間の支援状況における効果性の検討 | 井手 沙織(大阪大谷大学) 緒方 敦子(大阪大谷大学) 向 晃佑(長崎国際大学) 小田 浩伸(大阪大谷大学) |
| P1-19 | 特別支援教育に関わる専門職における多職種連携教育 教職課程および専門職養成のモデル・コア・カリキュラムを概観する | 森脇 愛子(青山学院大学) |
| P1-20 | 障害者支援ピアサポーター学生における障害に関する認識 変容 | 永井 友幸(九州大学) 横田 晋務(九州大学) 田中 真理(九州大学) |
| P1-21 | 中小規模私立大学における障害学生支援の組織・体制の現状 WEBページの掲載情報に基づく分析 | 向 晃佑(長崎国際大学 人間社会学部) 緒方 敦子(大阪大谷大学 障がい学生支援室) 井手 沙織(大阪大谷大学 障がい学生支援室) |
| P1-22 | 「子どもの吃音サポートガイド」の有効性についての調査 | 小林 宏明(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 角田 航平(国立障害者リハビリテーションセンター病院) 宮本 昌子(筑波大学人間系) |
| P1-23 | 言語発達の遅れを主訴として通級による指導を受ける児童 の実態及び指導に関する調査 | 大伴 潔(東京学芸大学) |
| P1-24 | 絵本を読み聞かせるときに幼児はどこを見ているのか？ 視線表示の効果 | 平島ユイ子(福岡国際医療福祉大学) |
| P1-25 | 言語通級における「個別の指導計画」作成についての一考察 「個別の指導計画」作成の工夫と改善を通して | 澤田キヨ子(前柏崎市立柏崎小学校) 藤井 和子(上越教育大学大学院) |
| P1-26 | 特異的言語発達障害児1名における文法面の困難さの持続性 格助詞挿入課題の反応とその理由の言語化に視点を当てて | 村尾 愛美(東京学芸大学) |
| P1-27 | 難聴・言語障害特別支援学級及び通級指導教室の現状(1) 令和3年度全国調査に見られる指導対象児童生徒の実態 | 滑川 典宏(国立特別支援教育総合研究所) 久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所) 牧野 泰美(国立特別支援教育総合研究所) 山本 晃(国立特別支援教育総合研究所) |
| P1-28 | 難聴・言語障害特別支援学級及び通級指導教室の実態(2) 難聴・言語障害学級及び通級指導教室担当者の現状 | 久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所) 滑川 典宏(国立特別支援教育総合研究所) 牧野 泰美(国立特別支援教育総合研究所) 山本 晃(国立特別支援教育総合研究所) |

| | | |
|-------|---|---|
| P2-1 | 聴覚障害学生のキャリア発達及びその促進と抑制に関する追跡研究Ⅳ | 杉中 拓央(東北文教大学人間科学部) |
| P2-2 | 聴覚障害生徒の英語構文理解に関する研究 | 秋元 梨沙(日光市立日光小学校) 坂口 嘉菜(上越教育大学) |
| P2-3 | ノートテイク養成研修への参加継続動機に関する検討 -聴覚障害児への遠隔情報保障を担う支援学生へのインタビュー調査から- | 下中村 武(九州大学基幹教育院) 古田 弘子(熊本大学大学院教育学研究科) |
| P2-4 | 聴覚特別支援学校における聴覚障害児同士の差別意識について 聴覚特別支援学校卒業生・教員に対する聞き取り調査から | 大石 鮎美(都立大塚ろう学校) 大鹿 綾(東京学芸大学教育学部) |
| P2-5 | 通常学校に在職する聴覚障害教員への音声認識アプリによる情報保障の試み | 石塚 篤史(東京都練馬区立大泉第三小学校) 大鹿 綾(東京学芸大学特別支援科学講座) |
| P2-6 | 聴覚障害者の慣用語の理解 | 渡邊 真純(兵庫県立姫路聴覚特別支援学校) 左藤 敦子(筑波大学人間系) |
| P2-7 | 聴覚障害幼児の保護者が抱くストレスと求める支援に関する一検討 | 喜屋武 睦(福岡教育大学特別支援教育ユニット) |
| P2-8 | 聴覚特別支援学校の外部支援における課題に関する一考察 外部支援を担当する教員の意識調査から | 渡部 杏菜(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター) 喜屋武 睦(福岡教育大学 特別支援教育ユニット) |
| P2-9 | 聴覚障害教員と聴教員の協働に向けた障害理解教育 | 中西 裕子(和歌山県立和歌山ろう学校) 高橋 眞琴(鳴門教育大学大学院学校教育研究科) |
| P2-10 | 聴覚障害と広汎性発達障害を併せ有する子どもの教育支援について(その1) 3歳から18歳までの15年間の教育相談における個別の教育支援について | 井坂 行男(大阪教育大学) |
| P2-11 | 新学習指導要領における聴覚特別支援学校(聾学校)高等部国語科の評価規準の課題の検討 聾学校高等部国語科教員を対象としたインタビュー調査による質的研究 | 高田 直子(愛知県立岡崎聾学校) 岩田 吉生(愛知教育大学) |
| P2-12 | 小学校知的障害特別支援学級児童を対象とした招待交流の効果における実践的研究 | 宮野 希(札幌市立桑園小学校) 細谷 一博(北海道教育大学教育学部函館校) |
| P2-13 | パニック・他傷のある自閉スペクトラム症の生徒への特別支援学校における指導 自立活動の指導を中心として | 相根 良平(京都府立南山城支援学校) |
| P2-14 | 協同学習を用いた交流活動の実施における効果 通常学級に在籍する典型発達児に焦点を当てて | 細谷 一博(北海道教育大学函館校) 宮野 希(札幌市立桑園小学校) |
| P2-15 | チーム支援による重度知的障害を伴うASD児童の登校場面における歩行促進 | 宮田 賢吾(兵庫教育大学連合学校教育学研究科) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P2-16 | 知的障害児を待たせる場面での教師の指導に関する研究 教材と指導方法を中心に | 岡田 直幸(宮崎県教育庁特別支援教育課) 衛藤 裕司(大分大学) 松本 沙知(八代市立太田郷ひびき保育園) |

| | | |
|-------|---|--|
| P2-17 | 交通サバイバル教育における小学生(知的障害児)への効果的な指導方法の検証 抑制力の向上を目指して | 野々部夫磯子(NPO法人発達サポートNAGOYA) 竹内 聡子(ラポール発達教室 Advance) 佐々木和義(早稲田大学人間科学部) |
| P2-18 | 図画工作科の鑑賞指導におけるICT活用の有効性 知的障害特別支援学校小学部における取組 | 田中真一郎(岡山大学教育学部附属特別支援学校) 仲矢 明孝(岡山大学大学院教育学研究科) |
| P2-19 | 自閉症スペクトラム障害児の適切な着席行動を促す自己評価シートの効果 | 手塚公志朗(弘前大学教育学部附属特別支援学校) 村中 智彦(上越教育大学 臨床・健康教育学系) |
| P2-20 | 特別支援学校の授業におけるオノマトペの使用 | 井芹 翔吾(熊本県立小国支援学校) 中村 美奈(大分県立日田支援学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部) |
| P2-21 | 知的障害児の読み聞かせ場面の縦断的観察 加速度計を用いた定量的指標による検討 | 宮本 和輝(金沢大学附属特別支援学校) 吉村 優子(金沢大学人間社会研究域) |
| P2-22 | 知的障害教育における音楽づくりの実践研究 ICTを活用した音楽づくりにおける学習評価に関する一考察 | 坂井 直樹(山口県立豊浦総合支援学校) |
| P2-23 | 知的障害特別支援学校小学部における家庭学習支援 ー動画教材の個別化とチャレンジ日記の活用ー | 滝澤 健(香川県立香川中部養護学校) 武藏 博文(香川大学) |
| P2-24 | Lagスケジュールによる2種類のタクトの維持 ー重度知的障害を伴う自閉症スペクトラム児への国語授業における類義語指導ー | 河村 優詞(八王子市立宇津木台小学校) |
| P2-25 | 知的障害児を対象としたすごろくを用いた数量概念の支援② すごろくをシンプルにして | 井上 和紀(新潟県新潟市立漆山小学校) |
| P2-26 | 知的障害のある児童は外国語活動で何を学ぶのか 全国特別支援学校(知的障害)への質問紙調査による実施状況の分析から | 高野美由紀(兵庫教育大学) 有働真理子(兵庫教育大学) |
| P2-27 | チームティーチングにおける教師間インターアクション 知的障害特別支援学校小学部における「朝の会」の事例から | 松崎 保弘(福岡女学院大学) 山之内 幹(福岡女学院大学) 城間 園子(琉球大学) |
| P2-28 | 発話の不明瞭さを主訴とする小学4年児に対する言語指導 学園内の言語聴覚士が 教員・保護者とともに取り組んだ2年間の実践報告(その2) | 齋藤 愛子(学校法人 旭出学園(特別支援学校)) |
| P2-29 | ダウン症児における自発的な歩行形成に向けた取り組み 自立活動の時間における指導と肢体不自由特別支援学校との連携を通して | 飯島 徹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 若井広太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校) 新城 理奈(沖縄県立宮古特別支援学校) 小泉 清華(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 類瀬 健二(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) |
| P2-30 | 取下げ | |

| | | |
|-------|---|--|
| P3-1 | ろう・難聴従業員との就労場面における働きづらさの要因と配慮意識に関する質的研究 | 益子 徹(東京都立大学) |
| P3-2 | 昭和戦前・戦中期聾教育における生活と言語の相関論(1) 野中榮次の「言語の生活化」論 | 佐々木順二(文教大学教育学部) |
| P3-3 | 知的障害特別支援学校に在籍するろう重複障害生徒への専門性に基づく支援に関する事例的検討 -聴覚障害教育と知的障害教育の経験をもつ教員の「朝の会」における表出機能の分析を中心に- | 木村 素子(群馬大学共同教育学部) |
| P3-4 | APD/LiDが疑われる小児のカテゴリ-知覚の特徴 | 山本 弥生(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 小淵 千絵(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 笹目 友香(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 佐々木香緒里(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 岩崎 淳也(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) |
| P3-5 | 聴覚障害大学生の単音節明瞭度と単語了解度の関係性の検討(4) -i/の母音明瞭度及び誤答傾向の分析- | 加藤誠太郎(群馬大学障害学生サポートルーム) 湯浅 哲也(大阪教育大学教育学部) |
| P3-6 | 地域において支援を必要とする難聴乳幼児の現状について聞き取り調査の結果から | 大島 美絵(栃木県立足利特別支援学校) 小淵 千絵(国際医療福祉大学成田保健医療学部) |
| P3-7 | 日本手話を母語とする乳幼児・児童に対する 新版K式発達検査の実施に関する提案 手話言語を獲得して育つ聴覚障害児の発達を評価するために | 河崎 佳子(神戸大学大学院) 中尾恵弥子(特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構) 物井 明子(特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構) 久保沢 寛(特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構) |
| P3-8 | 人工内耳装用者の障害認識の推移に関する研究 | 小林 優子(上越教育大学臨床・健康教育学系) 道本 裕大(岡山県立岡山聾学校) |
| P3-9 | 「きこえカフェ」の有用性と課題 オンラインによる難聴者・聴覚障害者の自助グループの検討 | 佐野 智子(城西国際大学) 勝谷 紀子(東京大学) |
| P3-10 | 新生児聴覚スクリーニング検査の結果はいつ保護者に伝えられるべきか -A相談支援センターの調査から- | 武居 渡(金沢大学 学校教育系) |
| P3-11 | 聴覚障害幼児に対する絵本の読み聞かせ活動の特徴 -読み手の発話形態と発話内容- | 左藤 敦子(筑波大学 人間系) 庄司 和史(信州大学 教職支援センター) |
| P3-12 | 戦後の小学校内肢体不自由特殊学級の設置と展開2 盛岡市立河北小学校肢体不自由特殊学級と脳性まひ児の増加問題 | 柴垣 登(岩手大学教育学部) |
| P3-13 | 肢体不自由児の小学校体育における歴史的変遷 小学校学習指導要領等における肢体不自由児の指導に関する記述を通して | 松浦 孝明(国士舘大学) |
| P3-14 | 知的障害を併せ有する肢体不自由児への算数「B図形」の指導に関する授業の工夫 主体的な具体物操作の中で、児童の気付きを促す指導 | 武部 綾子(東京都立光明学園) |
| P3-15 | 自身の学びや変容への気付きを促す場面を設定した単元の開発 知的理科中学部1段階「君の葉を探そう」の計画と実践 | 小山 信博(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) |

| | | |
|-------|--|---|
| P3-16 | 生徒の即興表現を引き出す指導法の研究 ～音楽でのABC分析シートを活用して～ | 柳田 和美(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 荒木 哲弥(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 根岸 由香(筑波大学附属大塚特別支援学校) |
| P3-17 | 特別支援学校の校歌のイメージによる障がい者観の考察 河邨文一郎作詞の校歌の読取りを指針とした今後の授業のあり方 | 松井由紀夫(北翔大学) |
| P3-18 | 特別支援学校教師のICT活用に関する意識の現状2 －効果的な研修のあり方についての検討－ | 秋本 公志(静岡県立中央特別支援学校) |

病弱虚弱①・知的障害②・その他①

9月17日(土)15:30～16:30 多目的ホール

| | | |
|-------|--|--|
| P4-1 | 「教室」で目指す自立活動の指導の充実 －初任者を含めた関係教師が協働して－ | 有井 香織(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) |
| P4-2 | インクルーシブ教育の推進に向けて 多重知能理論による通常の学級における児童の学び方 | 青山 新吾(ノートルダム清心女子大学人間生活学部) 稲井 咲紀(学校法人茂来学園大日向小学校) |
| P4-3 | 教室の音環境改善に対する吸音材の効果 難聴児及び聴覚過敏性のある知的障害児を対象に | 菊池 哲平(熊本大学大学院教育学研究科) 川井 敬二(熊本大学大学院先端科学研究部) |
| P4-4 | 高等学校における特別支援教育の推進と学校創造(1) 専門高校の特徴を踏まえたコーディネートのあるあり方 | 石田 恵子(鳥根県立松江北高等学校) 玉木 愛(鳥根県立松江北高等学校) 原 広治(鳥根大学大学院) |
| P4-5 | 高等学校における特別支援教育の推進と学校創造(2) 校内委員会の機能化 | 玉木 愛(鳥根県立松江北高等学校) 石田 恵子(鳥根県立松江北高等学校) 原 広治(鳥根大学大学院) |
| P4-6 | 各教科等の見方・考え方をとらえた授業研究の構築 ～東京都立久我山青光学園の校内研究を通して～ | 丹野 哲也(東京都立久我山青光学園) 小田 達夫(東京都立久我山青光学園) |
| P4-7 | 知的障害・ASD児の協同学習における仲間同士の相互交渉 と課題従事の促進 | 高橋 美月(岩手県立前沢明峰支援学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P4-8 | 生活科における実践と振り返り ムーブメント遊具を用いた劇遊びの実践報告 | 山垣 雄大(神奈川県立あおば支援学校) |
| P4-9 | 知的障害特別支援学校におけるAAC指導の状況に関する調査 小学部を対象とした質問紙調査をもとに | 熊谷 亮(宮城教育大学大学院教育学研究科) 竹林 慧(北九州市立小倉北特別支援学校) 杉岡 千宏(福岡教育大学特別支援教育ユニット) |
| P4-10 | 知的障害児童の家庭でのライフスタイルにもとづく身辺自立スキルの形成 | 真玉橋マリア(茨城県立つくば特別支援学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P4-11 | 知的障害児の自立活動における読み書き指導 シュタイナー教育のリズム運動とフォルメン線描を取り入れた実践 | 佐々木浩江(北海道美唄養護学校) 田中 敦士(札幌学院大学) |
| P4-12 | 鍵盤ハーモニカにおける知的障害児童の演奏スキルの形成 | 小林ゆきの(新潟県立佐渡特別支援学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P4-13 | 自閉症スペクトラム障害児童の家庭における自立的な余暇活動の形成 | 下田 祝子(岩手県立盛岡みたけ支援学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P4-14 | 集団随伴性による自閉症スペクトラム障害・知的障害児の援助行動と課題遂行の促進 | 温 楠錫(上越教育大学) 村中 智彦(上越教育大学 臨床・健康教育学系) |

| | | |
|-------|---|---|
| P4-15 | 精緻化補助活動が知的障害児の上位概念語学習に及ぼす効果再分類法・絞り込み法・部分提示法・仲間意識法を活用した精緻化補助活動 | 島田 恭仁(関西福祉科学大学) |
| P4-16 | 知的障害児童の自立的な買い物前後のスキルの形成 | 星 夢月(南魚沼市立総合支援学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P4-17 | Teamsを活用した特別支援学校のカリキュラム・マネジメント ファイル共有・共同編集機能を活用した単元計画・指導要領履修状況管理の試み | 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 知洋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田中 翔大(筑波大学附属大塚特別支援学校) 加部 清子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 鳴原 初穂(千葉県立千葉特別支援学校) |
| P4-18 | 就学前機関における児童発達支援の実際 児童発達支援センターの調査を基に | 梶枝喜代治(東洋大学) |
| P4-19 | 特別支援学校中学部での授業「見つけた考えた」 その7生徒の主体的なまなびを促す取り組みについて | 福田久美子(旭出学園(特別支援学校)) |
| P4-20 | 特別支援学校中学部での授業「見つけた考えた」 その8 物への向き合い方を広げる～触覚をあらわす言葉の理解を促す～ | 慶野 直美(旭出学園(特別支援学校)) |
| P4-21 | 内面理解と指導技術の融合(3) ～校内宿泊学習の振り返り記録の検討から～ | 若狭谷知子(広島市立八幡小学校) 青山 新吾(ノートルダム清心女子大学人間生活学部) |
| P4-22 | 知的障害者の自己調整的な学習姿勢を促す個別目標設定型 集団授業研究 ～太田ステージに基づく認知発達課題の設定と環境調整の 観点から～ | 岩切 祐司(鹿児島大学教育学部附属特別支援学校) 佐島 毅(筑波大学) |
| P4-23 | 知的障害者におけるループリックを用いた自己評価の試み 特別支援学校高等部「美術科」授業を通じたインタビューの 質的分析 | 中村 晋(帝京大学教育学部初等教育学科) |
| P4-24 | 中学部以降の不器用な知的障害児への運動介入効果について 特別支援学校中学部生徒のサーキットトレーニングを通じた 協調運動の変化に着目して | 石井 正幸(兵庫県立神戸特別支援学校) 赤木 和重(神戸大学大学院人間発達環境学研究所) |
| P4-25 | 知的障害教育における「指導と評価の一体化」に基づいた個 が生きる授業づくり 学習評価に焦点を当てて | 角原 佳介(岡山大学教育学部附属特別支援学校) 仲矢 明孝(岡山大学大学院教育学研究科) |
| P4-26 | 知的障害教育における「指導と評価の一体化」に基づいた個 が生きる授業づくり(2) －生活単元学習における学習評価－ | 乗金 大輔(岡山大学教育学部附属特別支援学校) 仲矢 明孝(岡山大学大学院教育学研究科) |
| P4-27 | 入院児に対する遠隔教育における自立的・継続的な学びの 支援 | 小野 由姫(静岡県立袋井特別支援学校) 石川 慶和(静岡大学) |
| P4-28 | 病気療養児の社会的自立と自立支援 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業への評価に向けた予 備調査から | 樫木 暢子(愛媛大学) |
| P4-29 | 「病気の子どもの心に寄り添うこと」 受け手の意味解釈の広がりについて | 小畑 文也(山梨大学) |

肢体不自由②・病弱虚弱②・行動情緒障害①・発達障害①・重度重複障害① 9月17日(土)17:00~18:00 2階コンコース

| | | |
|-------|--|--|
| P5-1 | 複数デバイスを用いた肢体不自由生徒のパソコン操作に関する事例研究 | 烏田 慈生(東京学芸大学教職大学院) 小林 巖(東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター) |
| P5-2 | 脳性まひ者の二次障害とその予防 感じている身体の変化と心がけていることに着目して | 山ノ上 奏(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 大畑 友香(元筑波大学大学院人間総合科学研究科) 川間健之介(筑波大学人間系) |
| P5-3 | 骨形成不全症生徒に対するCO-OPを基盤とした主体的な学びを促す授業づくり | 尾崎 充希(長崎県立諫早特別支援学校/長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 塩津 裕康(中部大学生命健康科学部) 田中 悟郎(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 岩永竜一郎(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) |
| P5-4 | 小学校における慢性疾患児の校内支援体制の実態と傾向 | 田中 亮(臨海市立桔梗小学校・東京学芸大学連合大学院学校教育研究科) 奥住 秀之(東京学芸大学教育学部特別支援科学講座) |
| P5-5 | 院内学級の存在意義・役割について 特別支援学校教員への質問紙調査を通して | 永瀬 大紀(筑波大学大学院障害科学学位プログラム) 大関 彰久(福島学院大学短期大学部) |
| P5-6 | 進行性筋ジストロフィー児童・生徒の就学状況の変化について 当事者に対するアンケート調査を通して | 新津 雪乃(東北大学大学院教育学研究科) 野口 和人(東北大学大学院教育学研究科) |
| P5-7 | 登校しぶり児に対する不登校への進行防止を目標とした支援 佐藤・熊谷(2021)によるチェックリストの実践適用と登校しぶり行動に対する支援方針の立案 | 佐藤亮太郎(筑波大学人間総合科学学術院) 佐藤 七瀬(筑波大学人間総合科学研究科) 熊谷 恵子(筑波大学人間系) |
| P5-8 | 行動上の問題を示す重度知的障害と自閉スペクトラム症のある生徒への自己欲求を充足する支援の検討 | 小林 愛(信州大学大学院教育学研究科) 下山 真衣(信州大学学術研究院教育学系) |
| P5-9 | 場面緘黙児に対する心理学的支援の提供の実態 保護者に対する質問紙調査より | 末永真惟子(東北大学大学院教育学研究科臨床心理学コース) |
| P5-10 | 場面緘黙状態経験と発話頻度および心理特性の関連 場面緘黙状態経験者・非経験者の群間比較 | 藤間友里亜(筑波大学大学院人間総合科学研究群) 松田社一郎(筑波大学人間系) |
| P5-11 | 通級による指導における情報活用能力の育成 チェックリストによる意識の把握を通して | 熊谷 裕央(宮城教育大学教職大学院) 永井 伸幸(宮城教育大学教職大学院) |
| P5-12 | 小学校外国語活動・外国語科における発達障害児及びその傾向のある児童への指導上の困難と工夫 | 池田順之介(東京学芸大学教職大学院) 奥住 秀之(東京学芸大学) |
| P5-13 | AT導入及び活用時における小中学校教職員の外部スタッフへの期待に関する考察 | 山下 祥代(広島大学大学院人間社会科学研究科) 氏間 和仁(広島大学大学院人間社会科学研究科) |
| P5-14 | 自閉症・情緒障害特別支援学級における道徳科指導の工夫 一小学校担任教師への半構造化面接による聞き取りから一 | 青木 利樹(栃木県那珂川町立小川小学校) 奥住 秀之(東京学芸大学) |
| P5-15 | 小学校特別支援学級担当教師の問題解決力を高める行動コンサルテーションの効果 他の児童への般化の検討 | 高木 菜美(兵庫教育大学大学院) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院) |
| P5-16 | 特別支援学校のセンター的機能における地域の小中学校への支援に関する課題 一地域支援に携わる教員へのインタビュー調査を通して一 | 藤川 一輝(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科) 今枝 史雄(大阪教育大学) |
| P5-17 | より良い交流及び共同学習の在り方に関する検討 先行研究の成果と課題に着目して | 平塚 達也(秋田大学大学院教育学研究科) 藤井 慶博(秋田大学大学院教育学研究科) 鈴木 徹(秋田大学大学院教育学研究科) |

| | | |
|-------|---|---|
| P5-18 | 漢字の自主学習の負担軽減をもたらすICT機能の検討 書字困難のある生徒における紙プリント学習と漢字アプリ 学習の違いは何か？ | 内田 佳那(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所) 丹治 敬之(岡山大学学術研究院教育学域) |
| P5-19 | 教材への興味関心がADHDのある生徒の学習態度に与える 影響 文章読解課題の主題を興味の有無に基づいて比較した一事 例研究 | 木下 豪(兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究所) 丹治 敬之(岡山大学学術研究院教育学域) |
| P5-20 | 通常学級への授業コンサルテーションに関する実態調査 発達障害及び特別支援教育の視点から | 長山慎太郎(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 柘植 雅義(筑波大学人間系) |
| P5-21 | 自閉スペクトラム症児における 挿入する既学習課題の比率 操作による課題獲得への効果 ー 指導時間を統制した場合の効果の比較 ー | 藤本 夏美(筑波大学大学院 人間総合科学研究科) 宇梶 優(新座市立新堀小学校) 野呂 文行(筑波大学 人間系) |
| P5-22 | 発達障害傾向のある幼児の雑音下聴取能力と注意機能 | 久保 愛恵(筑波大学大学院 人間総合科学研究科) 田原 敬(茨城大学教育学部) 勝二 博亮(茨城大学教育学部) 原島 恒夫(筑波大学人間系) |
| P5-23 | 自閉症スペクトラム障害児におけるパーソナリティ特性(1) ～本人及び保護者に対する質問紙法による検討～ | 岡田 類(東京学芸大学教職大学院) 平田 正吾(東京学芸大学) |
| P5-24 | 幼児における平仮名読みと音韻意識の発達の関連について 5歳・6歳時点での追跡調査に基づく検討 | 中野 佑香(鹿児島大学大学院) 塚田 陸実(鹿屋市立鹿屋小学校) 小池 敏英(尚絅学院大学) 小久保博幸(鹿児島大学大学院) 雲井 未歆(鹿児島大学) |
| P5-25 | 大学生の自閉スペクトラム症傾向と対人ストレスコーピング の選択頻度と有効性評価の関連 | 市川 哲(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所) 井澤 信三(兵庫教育大学) |
| P5-26 | ASDの可能性がある児童のプランニング支援の実践報告 ー 検査結果の本人へのフィードバックと興味関心に応じた オリジナル教材を用いた支援アプローチ ー | 澤田 祐輝(筑波大学人間総合科学学術院障害科学学位プログラム) 橋口 瑤子(長野県諏訪養護学校) 岡崎 慎治(筑波大学人間系) |
| P5-27 | 自閉症スペクトラム障害児における運動能力の経年変化 ～ COVID-19によるパンデミック前後の比較～ | 平田 正吾(東京学芸大学) 馬籠 哲平(自由学園) |
| P5-28 | 巡回相談への保育者のニーズに関するグループインタ ビュー | 長澤 真史(関東学院大学教育学部こども発達学科) |
| P5-29 | 重度重複障害児に対するコミュニケーションの内容と方法 | 小澤 詩織(東京学芸大学) 斎藤遼太郎(茨城キリスト教大学) 奥住 秀之(東京学芸大学) |
| P5-30 | 重度・重複障害児の意思表示に関する事例的検討 | 大谷 萌(茨城大学大学院教育学研究科) 久保 愛恵(筑波大学大学院人間総合科学研究科障害科学専攻) 田原 敬(茨城大学 教育学部) 勝二 博亮(茨城大学 教育学部 障害児生理学研究室) |
| P5-31 | 鼻部皮膚温度による超重症児の不快状態評価の妥当性の検討 ー心拍加速反応との生起一致率に着目してー | 石田 基起(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所) 石倉 健二(兵庫教育大学大学院) |

視覚障害②・聴覚障害③・知的障害③・障害全般②・その他② 9月17日(土)17:00~18:00 多目的ホール

| | | |
|-------|---|---|
| P6-1 | 小学校を対象とした視覚障害理解教育の実践上の課題 | 越智 美雨(北海道教育大学教育学研究科) 細谷 一博(北海道教育大学教育学部) |
| P6-2 | 弱視児童におけるはさみの操作の習得と視力・生活年齢・学習への意欲の要因との関連 | 二宮 一水(筑波大学大学院) 館下 智子(筑波大学大学院) 吉本 萌(筑波大学大学院) 福田 奏子(宇都宮大学共同教育学部) 佐島 毅(筑波大学人間系) |
| P6-3 | 中心視と偏心視における文字処理の特徴 | 今津 麻衣(広島大学大学院) 氏間 和仁(広島大学) |
| P6-4 | 弱視のある人におけるデジタル・リーディングのスクロール操作の検討 | 尾原 健太(広島大学大学院) 氏間 和仁(広島大学) 今津 麻衣(広島大学大学院) |
| P6-5 | 盲ろう児のコミュニケーション指導に関する研究 ー発達段階ごとの指導に着目してー | 吉本 萌(筑波大学大学院 人間総合科学学術院) 館下 智子(筑波大学大学院 人間総合科学学術院) 二宮 一水(筑波大学大学院 人間総合科学学術院) 佐島 毅(筑波大学 人間系) |
| P6-6 | 新型コロナウイルス禍における視覚特別支援学校の歩行指導に関する実態と課題 近畿地方の視覚特別支援学校中学部への質問紙調査を通して | 中西 雄飛(筑波大学障害科学学位プログラム) 湯浅 哲也(大阪教育大学総合教育系) 正井 隆晶(大阪教育大学総合教育系) |
| P6-7 | 視覚特別支援学校が醸成するソーシャル・キャピタルと中途視覚障害者の心的外傷後成長(PTG)の関係 | 松田えりか(筑波大学人間総合科学学術院・日本学術振興会特別研究員DC) 宮内 久絵(筑波大学人間系) |
| P6-8 | 障害学生がオンライン授業におけるICT利用で感じる困難さと利便性 ー同時双方向型授業に関する自由記述の分析ー | 岸良 隼人(筑波大学障害科学学位プログラム) 佐々木銀河(筑波大学人間系) |
| P6-9 | 「個別的教育支援計画」の作成・活用と連携についての研究 ー特別支援学校における現状調査を通してー | 半澤 彰子(宮城教育大学教職大学院) 菅井 裕行(宮城教育大学大学院教育学研究科) |
| P6-10 | ICFを活用した個別教育計画の作成から見るイタリアのインクルーシブ教育の特徴 | 大内 紀彦(神奈川県立鶴見養護学校) 大内 進(星美学園日伊総合研究所) |
| P6-11 | 特別支援学校における不登校の現状 | 秋山 史菜(滋賀大学大学院教育学研究科) 芦谷 道子(滋賀大学大学院教育学研究科) 山川 直孝(滋賀大学大学院教育学研究科) |
| P6-12 | 障害者の成人教育について デンマークのフォルケホイスコーレを参考にして | 佐々木祥日(東京学芸大学教職大学院特別支援教育高度化プログラム) 平田 正吾(東京学芸大学) 増田 貴人(弘前大学) |
| P6-13 | 高等学校における合理的配慮の校内研修に関する研究Ⅱ 「支援の手がかりシート」の構成(案) | 大崎 博史((独)国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹((独)国立特別支援教育総合研究所) |
| P6-14 | 通常学級における特別支援教育の推進に向けた実践的な研修プログラムの開発 心理検査を活用した事例検討による対話に着目して | 山川 直孝(滋賀大学大学院教育学研究科) |
| P6-15 | 特別支援学校教員の職務満足感尺度の作成 | 尾川 周平(筑波大学大学院人間総合科学学術院/日本学術振興会特別研究員) 河村 理恰(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 小島 道生(筑波大学人間系) |
| P6-16 | A市・B市・C市モデル地区における「小学校入学前サポートシート」の行政調査を実施して | 梶井 正紀(茨城女子短期大学 東北大学大学院教育学研究科博士後期課程) 熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科) |

| | | |
|-------|---|---|
| P6-17 | コロナ禍における特別支援学校教育実習の工夫 | 岩本 悠希(東京学芸大学教職大学院) 奥住 秀之(東京学芸大学) |
| P6-18 | 小学校における外国人児童の困難とその支援 外国人児童に関わる教員への質問紙調査を通して | 楊 鈺倩(筑波大学人間総合科学研究群) 裴 虹(筑波大学人間系) 三益 亜美(筑波大学人間系) 米田 宏樹(筑波大学人間系) |
| P6-19 | 保育所における巡回相談コンサルテーションを支えるアセスメント方法の検討 自治体の全保育所への調査結果の分析を通して | 原 康行(兵庫教育大学大学院 博士課程) 井澤 信三(兵庫教育大学) |
| P6-20 | 大震災・原発事故後10年、いわき市の子供の問題行動の背景 -A教員の語りの事例分析から- | 鈴木美枝子(名古屋女子大学短期大学部) |
| P6-21 | 聴覚障害児に対する家庭での算数学習支援 数字の相対的な量関係の理解へ | 江原 汐音(筑波技術大学技術科学研究科) 脇中起余子(筑波技術大学) |
| P6-22 | 聴覚特別支援学校中学部の数学授業において聴覚障害教員が数学概念を伝える手話表現に関する意識調査 | 下森めぐみ(筑波技術大学大学院) 大杉 豊(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 小林 洋子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) |
| P6-23 | 建設的対話に臨む聴覚障害者の心構え・技術の分析 | 土田 悠祐(筑波技術大学大学院技術科学研究科) 白澤 麻弓(筑波技術大学) |
| P6-24 | 人工内耳装用児における医療・家庭・教育(療育)の連携の実際について | 紺野 莉沙(東北大学大学院教育学研究科) 菅井 裕行(宮城教育大学大学院教育学研究科) 熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科) |
| P6-25 | 発達障害のある聴覚障害児のオンラインにおける支援の実践 -学習活動「ダンボ」での取り組みから- | 飯塚わかな(東京学芸大学 教職大学院) 大鹿 綾(東京学芸大学特別支援科学講座) |
| P6-26 | 人工内耳装用幼児における絵本読み時の絵と文字の活用の特徴 年齢の違いによる検討 | 三枝 里江(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 鄭 仁豪(筑波大学人間系) |
| P6-27 | 聾学校における同僚性の構成概念に関する検討 聾学校に勤務している教員への質問紙調査を通じて | 石川 美希(東北大学大学院教育学研究科) 熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科) |
| P6-28 | 人工内耳装用幼児に対する指導の実態と課題 -教育実践を基盤とした調査に焦点を当てて- | 石原 章子(筑波大学大学院) 左藤 敦子(筑波大学人間系) |
| P6-29 | 聴覚障害の英語の語彙習得における困難の分析 | 小林 汰門(東京学芸大学教職大学院) |
| P6-30 | 聴覚障害児における注意制御能力の発達的特徴 | 石田 祐貴(筑波大学人間総合科学研究科) 鄭 仁豪(筑波大学人間系) |
| P6-31 | ビジュアル・バナキュラーを活用した交流プログラムの開発 -日中における聴覚障害者と健聴者を対象として- | 劉 鎬洋(広島大学) 林田 真志(広島大学) 池田 吏志(広島大学) |
| P6-32 | 学習課題との関連が見出し難い児童の発信に対する「受け止め」と「取り入れ」の意義 -知的障害特別支援学校の一斉授業場面からの考察- | 小林 和佳(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 中村 保和(群馬大学共同教育学部) |
| P6-33 | 体験的な活動を通して言葉を学ぶ「国語」の検討(1) 実態差のある学級集団における授業づくり | 鳴原 初穂(千葉県立千葉特別支援学校) 高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 堀江 俊丞(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 知洋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 吉井 勘人(山梨大学) 米田 宏樹(筑波大学人間系) |

| | | |
|-------|---|---|
| P6-34 | 体験的な活動を通して言葉を学ぶ「国語」の検討(2) －実態差のある学級集団における学習評価方法の検討－ | 高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 鳴原 初穂(千葉県立千葉特別支援学校) 堀江 俊丞(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 知洋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 吉井 勘人(山梨大学) 米田 宏樹(筑波大学人間系) |
| P6-35 | 自閉スペクトラム症を伴う知的障害のある児童に対する支払いスキルの形成に向けた指導の効果 | 吉田奈々子(山口大学大学院教育学研究科) 宮木 秀雄(山口大学大学院教育学研究科) |
| P6-36 | 作業学習における「育成を目指す資質・能力」を明確にした指導 中学校の特別支援学級において、コミュニケーションを図りながら課題解決する生徒の育成 | 加藤美千子(東京学芸大学教職大学院) 奥住 秀之(東京学芸大学) |
| P6-37 | 全国知的障害特別支援学校におけるアセスメント・理論・技法の傾向 ～2つの全国調査を基にした校内組織との関連～ | 村浦新之助(埼玉県立川越特別支援学校/東京学芸大学D1) 奥住 秀之(東京学芸大学教育学部) |
| P6-38 | 視覚認知に困難性を伴う知的障害児の長さの認知力を高める指導プログラムの評価 | 大久保咲来(愛知教育大学教職大学院) 相羽 大輔(愛知教育大学特別支援教育講座) |
| P6-39 | 特別支援学校の講義型校内研修に演習を用いる効果と課題 高等特別支援学校の教員を対象にしたBWAP 2 (Becker Work Adjustment Profile:2)に関するオンライン研修において | 宮野 雄太(横浜国立大学教育学部附属特別支援学校) |
| P6-40 | 障害児とそのきょうだい児が親和的な関係を構築する要因 －きょうだいに対する半構造化面接を通して－ | 瀬戸希津奈(東京学芸大学) 奥住 秀之(東京学芸大学総合教育科学系特別支援科学講座発達障害学分野) 熊谷 亮(宮城教育大学大学院教育学研究科) |
| P6-41 | 知的・発達障害児における子ども - 教師間の信頼関係構築に関する質的研究 －知的障害特別支援学校の教師による語りを通して－ | 山本 響平(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 小島 道生(筑波大学人間系) |
| P6-42 | 道具操作における観察学習の非定型性の分析 | 近藤みゆき(東京学芸大学教職大学院) 伊原千賀子(ケアリッツ・アンド・パートナーズ) 佐々木祥日(東京学芸大学教職大学院) 平田 正吾(東京学芸大学) |
| P6-43 | 特別支援学校教師は、軽度知的障害のある青年の障害受容をどのように捉えているか | 生田 邦紘(神戸大学大学院人間発達環境学研究科) 赤木 和重(神戸大学大学院人間発達環境学研究科) |
| P6-44 | 軽度知的・発達障害のある成人の余暇の現状と課題 | 山崎 樹(東京学芸大学 教職大学院) 奥住 秀之(東京学芸大学) |

| | | |
|-------|--|---|
| P7-1 | 知的障害のあるASD生徒における感情の自己コントロールの促進 作業学習における評価シートの調整と代替行動形成の効果 | 宇川 浩之(高知大学教育学部附属特別支援学校/高知大学教職大学院) 朝岡 寛史(高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門) |
| P7-2 | 知的障害特別支援学校における単元づくりと学習評価に関する予備的研究 - 高等部における教育課程及び指導の形態の違いに着目して - | 菊地 一文(弘前大学大学院) |
| P7-3 | 知的障害特別支援学校での日課帳を活用した保護者との連携 | 島 尚平(筑波大学附属大塚特別支援学校) 小笠原志乃(筑波大学附属大塚特別支援学校) |
| P7-4 | 生活単元学習における児童生徒の学習評価に関する実践的研究 各教科等の目標と内容を意識した「見取り」の試み | 山本 義男(静岡北特別支援学校) |
| P7-5 | 知的障害特別支援学校高等部における理科授業の実態調査 - 令和3年度における全国調査を中心として - | 岩井 祐一(東京学芸大学附属特別支援学校) 小島 啓治(東京学芸大学附属特別支援学校) 齋藤 大地(宇都宮大学) 國仙 久雄(東京学芸大学) 中西 史(東京学芸大学) 生尾 光(東京学芸大学) |
| P7-6 | 高等特別支援学校における教育の意義と課題 学校卒業後の継続的な学びの可能性 | 水野 和代(日本福祉大学 スポーツ科学部) |
| P7-7 | Dreams come true! ～「お金の未来ノート」を活用して生徒が自ら将来の生活プランをプロデュースする②～ | 安岡 知美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 山崎 敏秀(高知大学教育学部) |
| P7-8 | 自閉スペクトラム症を伴う重度知的障害生徒の情緒の安定を目的とした指導のエピソード分析 行動障害のある生徒が休憩することを肯定的に受け入れられるようにするための教師の関わり | 濱田 曜(岡山大学教育学部附属特別支援学校) 仲矢 明孝(岡山大学大学院教育学研究科) |
| P7-9 | 知的障害特別支援学校高等部におけるSDGsをテーマとした授業づくりの要点 | 小林 敬和(岡山大学教育学部附属特別支援学校) 仲矢 明孝(岡山大学大学院教育学研究科) |
| P7-10 | 大学で学びたい知的障害のある子どもの家族支援内容 特別支援教育を専門に学ぶ大学生の意見より | 高橋 眞琴(鳴門教育大学) 香川 紘輝(鳴門教育大学大学院学校教育研究科) |
| P7-11 | 知的障害のある生徒への月経に関する指導 本人・保護者・教員への調査と教材開発 | 香野 毅(静岡大学教育学部) 藤原菜々香(島根県立出雲養護学校) |
| P7-12 | 特別支援学校におけるリトミック教育法・教材教具等の活用方法Ⅱ ～高等部音楽科において高等学校学習指導要領をどう捉えるか～ | 松田孝可子(京都府立盲学校) |
| P7-13 | 知的障害特別支援学校高等部外国語科における学習経験の違いや実態差に応じた指導の工夫 ハイブリッドな授業形態を中心に | 加藤 達也(群馬県立富岡特別支援学校) 木村 素子(群馬大学共同教育学部) |
| P7-14 | 生徒が自らの学びを振り返り、次の学びや生活に生かすための授業づくりの検討 知的障害特別支援学校高等部の職業科、家庭科の授業づくりを通して | 池田 和馬(秋田県立ゆり支援学校) 藤井 慶博(秋田大学大学院教育学研究科) |

| | | |
|-------|---|---|
| P7-15 | 知的障害特別支援学校における不登校生徒の登校と学習参加の促進 | 藤田 磨弥(新潟大学附属特別支援学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P7-16 | 地域支援におけるコーディネーター育成に関する研究(1) 地域の小中学校コーディネーターにおける資質向上のためのチェックリストについての検討 | 清水 謙二(大阪府立佐野支援学校) |
| P7-17 | 知的障害者用教科書・教材等に関するアンケート調査を踏まえた今後の知的障害教育の推進方策について | 武富 博文(教育政策研究会特別支援教育部会) |
| P7-18 | 取下げ | |
| P7-19 | ダウン症のある中学生に対する絵カードを用いた要求行動の指導 ワークシステムにおける欠品課題を用いた手続き | 佐治信一郎(東京都立羽村特別支援学校) |
| P7-20 | 自閉症・情緒障害特別支援学級在籍児童の自立活動に関するアセスメントツールの開発 | 村上 精一(熊本市立弓削小学校) 本吉 大介(熊本大学大学院教育学研究科) |
| P7-21 | 高次脳機能障害のある高校生の感覚・認知評価の事例的検討 感覚・認知特性のアセスメント結果を通じた検討 | 岡崎 慎治(筑波大学人間系) 武村 知保(筑波大学心理・発達教育相談室) |
| P7-22 | 福祉施設における強度行動障害にかかわる人材養成 | 白井 潤記(千葉県発達障害者支援センター) 吉田 五月(千葉県発達障害者支援センター) 田熊 立(千葉県発達障害者支援センター) |
| P7-23 | 人材養成手法としての行動コンサルテーションの検討 強度行動障害者への支援者養成研修における実践 | 田熊 立(千葉県発達障害者支援センター) 鶴沢 敦史(社会福祉法人菜の花会ネクスト名木小) |
| P7-24 | ペアレント・プログラムの普及に向けた取り組み オンライン形式による開催の検討 | 吉田 五月(千葉県発達障害者支援センター) 田熊 立(千葉県発達障害者支援センター) |
| P7-25 | 自閉スペクトラム症の反復的行動に対する理解 児童発達支援サービスにおける指導員の理解の構造 | 廣澤 満之(白梅学園大学) 豊永 麻美(白梅学園大学) |
| P7-26 | 発達障害でミソフォニア症状を有する特別支援学校高等部 生徒のキャリア発達を促す包括的支援方法の開発とその後 ミソフォニア症状と向き合いながら自己肯定感尺度を用い 自分らしく成長する姿を支援する | 鈴木 雅義(静岡北特別支援学校 南の丘分校) |
| P7-27 | 日本における自閉スペクトラム症児者の「強み」に関する研 究論文の収集・分析による探索的研究 | 渡邊 咲季(佐賀県立中原特別支援学校) 末吉 彩香(筑波大学人間系) 柘植 雅義(筑波大学人間系) |
| P7-28 | インクルーシブな学校の核となる特別支援教育担当教員 研 修システムの試行(3) 「参加型」研修としてのオンラインOJT事例検討の実施 | 区 潔萍(関西外国語大学) 柘植 雅義(筑波大学人間系) 熊谷 恵子(筑波大学人間系) 三益 亜美(筑波大学人間系) 宮本 昌子(筑波大学人間系) 岡崎 慎治(筑波大学人間系) 野呂 文行(筑波大学人間系) 小島 道生(筑波大学人間系) 米田 宏樹(筑波大学人間系) |

| | | |
|-------|--|---|
| P8-1 | 視覚特別支援学校における 外部専門家(歩行訓練士)と連携・協働した歩行指導 | 丹所 忍(兵庫教育大学) 三科 聡子(宮城教育大学) 門脇 弘樹(山口学芸大学) 韓 星民(福岡教育大学) |
| P8-2 | 視覚障害教育における卒業後を見通した支援のためのシステムの整備と充実のために 有効な視覚障害学校(盲学校)卒業後の生徒の支援の充実のためのエビデンスに基づいた多様な支援のチャンネルの検討 | 刀禰 豊(岡山東支援学校) |
| P8-3 | 共生社会の形成に向けた異なる障害種間での交流活動の検討 -視覚障害児を対象にして- | 渡邊 杏(葛飾区立柴又小学校) 三科 聡子(宮城教育大学教職教育総合学域) |
| P8-4 | 全国視覚特別支援学校児童生徒の視覚障害の程度と使用文字との関係 -2020年度全国調査結果を中心に- | 柿澤 敏文(筑波大学人間系) |
| P8-5 | 弱視学生が求めるICT環境整備に対する大学教員の支援自己効力感に及ぼす個人要因の影響 | 相羽 大輔(愛知教育大学) 丹野 傑史(長野大学) 鈴木 祥隆(岐阜大学) |
| P8-6 | 白杖操作の有無が歩行の安定性に及ぼす影響 -歩行の変動性と足圧CVの視点から- | 門脇 弘樹(山口学芸大学) 丹所 忍(兵庫教育大学) 氏間 和仁(広島大学) 中村 貴志(福岡教育大学) |
| P8-7 | 各国で普及している点字サイズと身体サイズの関係 -文献調査に基づいた検証- | 大島 研介(横浜商科大学) |
| P8-8 | 視覚障害者の鉄道駅プラットフォームからの転落の関連要因1 不統一の点字ブロック、片側だけのホームドア | 徳田 克己(筑波大学) 水野 智美(筑波大学) |
| P8-9 | 視覚障害者の鉄道駅プラットフォームからの転落の関連要因2 車両連結部の不備、電車ドアとホームの隙間 | 水野 智美(筑波大学 医学医療系) 徳田 克己(筑波大学 医学医療系) |
| P8-10 | 「おしゃべり知」をひきだす対話型ワークショップの検討 視覚障害児支援における暗黙的ノウハウの抽出・共有手法 | 三科 聡子(宮城教育大学教職教育総合学域) 赤井 愛(大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部) 政倉 祐子(愛知淑徳大学創造表現学部) |
| P8-11 | 地方の私立大学における障害学生支援の取組 -東海地方のA大学を例にして- | 松本 和久(岐阜聖徳学園大学教育学部) 安田 和夫(岐阜聖徳学園大学教育学部) 鈴木 祥隆(岐阜大学教育学部) 丹所 忍(兵庫教育大学) |
| P8-12 | イタリアにおけるフルインクルーシブ教育の動向 2019/2020学校年度のISTAT調査から- | 大内 進(星美学園短期大学) 大内 紀彦(神奈川県立鶴見養護学校) |
| P8-13 | 障害のある子ども等の就学先決定手続きに関する全国調査(1) -就学先の状況、乳幼児期からの支援体制の状況- | 吉川 和幸(国立特別支援教育総合研究所) 久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所) 廣島 慎一(徳島県立徳島視覚支援学校) 久道佳代子(国立特別支援教育総合研究所) 滑川 典宏(国立特別支援教育総合研究所) 澤田 真弓(国立特別支援教育総合研究所) 佐藤 利正(国立特別支援教育総合研究所) |

| | | |
|-------|---|---|
| P8-14 | 障害のある子ども等の就学先決定手続きに関する全国調査(2) - 障害のある子ども等の就学先や学びの場の決定手続き - | 久道佳代子(国立特別支援教育総合研究所) 廣島 慎一(徳島県立徳島視覚支援学校) 久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所) 吉川 和幸(国立特別支援教育総合研究所) 滑川 典宏(国立特別支援教育総合研究所) 澤田 真弓(国立特別支援教育総合研究所) 佐藤 利正(国立特別支援教育総合研究所) |
| P8-15 | 障害のある子ども等の就学先決定手続きに関する全国調査(3) - 障害のある外国につながる子どもの就学先や学びの場の決定手続き - | 澤田 真弓(国立特別支援教育総合研究所) 滑川 典宏(国立特別支援教育総合研究所) 北川 貴章(国立特別支援教育総合研究所) 竹村 洋子(国立特別支援教育総合研究所) 久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所) 廣島 慎一(徳島県立徳島視覚支援学校) 吉川 和幸(国立特別支援教育総合研究所) 久道佳代子(国立特別支援教育総合研究所) 佐藤 利正(国立特別支援教育総合研究所) |
| P8-16 | Web学習支援の在り方に関する一考察 コロナ禍における都道府県・政令指定都市の教育委員会における特別支援教育への対応 | 阿部 崇(東京家政大学子ども学部子ども支援学科) |
| P8-17 | マネジブル・ビデオフィードバックによる特別支援学校教員の省察特徴 | 太田 研(山梨県立大学 人間福祉学部) 須藤 邦彦(山口大学 教育学部) |
| P8-18 | 個別の指導計画の作成・改善を通じた教科指導の授業改善Ⅱ 「個別の指導計画システム」の活用を踏まえた取り組み | 阿久津百子(茨城県立水戸特別支援学校) 山田 康朝(千葉県立四街道特別支援学校) 高橋佳菜子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 竹内 博紀(茨城県立下妻特別支援学校) 引場 陽子(新潟県妙高市立新井中央小学校) 渡辺 政治(前さいたま市立さくら草特別支援学校) 丸山 真幸(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 吉田 光伸(東京都立光明学園) |
| P8-19 | コロナウイルス蔓延期の障害のある児童生徒の在宅修学状況 ～A市小・中学校及び特別支援学校への質問紙調査から～ | 池谷 航介(岡山大学 教育推進機構) 川島 聡(岡山理科大学経営学部) 原田 新(岡山大学教育推進機構) 後藤 悠里(福山市立大学都市経営学部) |
| P8-20 | 学習指導要領に基づく教育課程編成・実施の現状と課題(1) 市区町村教育委員会、及び小・中学校特別支援学級調査の結果から | 金子 健(国立特別支援教育総合研究所) 土屋 忠之(国立特別支援教育総合研究所) 米山 妙子(伊東市立東小学校) 照井 純子(国立特別支援教育総合研究所) 吉川 知夫(国立特別支援教育総合研究所) 北川 貴章(国立特別支援教育総合研究所) 竹村 洋子(国立特別支援教育総合研究所) 河原 麻子(国立特別支援教育総合研究所) |
| P8-21 | 学習指導要領に基づく教育課程編成・実施の現状と課題(2) 知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に焦点を当てて | 北川 貴章(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 竹村 洋子(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 河原 麻子(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 吉川 知夫(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 金子 健(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 土屋 忠之(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 米山 妙子(伊東市立東小学校) |
| P8-22 | 乳幼児期支援にHolisticな枠組みを包含するための試み(1) 「幼稚園で見つけた「好み」の遊びを家庭でも」の実践から | 真鍋 健(千葉大学教育学部) |

障害全般④・ダイバーシティ①・重度重複障害② 9月19日(月・祝)9:00～10:00 2階コンコース

| | | |
|-------|--|---|
| P9-1 | 特別支援学校の児童生徒数の増加と教室不足の要因 特別支援教育資料及び新聞記事の分析を中心として | 高野 聡子(東洋大学) |
| P9-2 | 療育関係者のキャリア発達を支えるプログラムの実証的研究 社会資源に制限が多い地域での新たな支援体制の構築 | 有村 玲香(鹿児島国際大学) |
| P9-3 | 特別支援学校における外部専門家によるコンサルテーション 外部専門家(心理職)への相談内容と教員への助言内容の傾向 | 藤野 正和(長崎短期大学) |
| P9-4 | 多様な参加者における学習支援システムの長期的使用性の 検討 | 熊井 正之(東北大学) 森 つくり(目白大学保健医療学部) 石川 美希(東北大学大学院教育学研究科) 紺野 莉沙(東北大学大学院教育学研究科) 梶井 正紀(茨城女子短期大学) 橋本 陽介(白梅学園大学子ども学部) |
| P9-5 | 特別支援教育との協働に向けた作業療法士の人材育成と学 校との連携 | 有川 真弓(日本作業療法士協会/千葉県立保健医療大学) 酒井 康年(日本作業療法士協会/うめだ・あけぼの学園) 本間 嗣崇(日本作業療法士協会/神奈川県立座間養護学校) |
| P9-6 | 「もうすぐ大人期」のきょうだいが抱く悩みに関する研究 思春期後期～青年期前期にあるきょうだいへのアンケート 調査から | 阿部美穂子(山梨県立大学) 諏方 智広(横浜市立港南台ひの特別支援学校) 滝島 真優(成蹊大学) |
| P9-7 | 障害児の「家族支援」に関する研究 相談支援に活かす家族QOLアセスメントを活用した支援 ツールの提案 | 小林 保子(鎌倉女子大学) 江利川ちひろ(武蔵野大学大学院人間社会研究科) |
| P9-8 | 日本版自己決定尺度の教育実践への活用に関する研究 -日本版レポートガイド作成過程とワークシートの活用- | 山口明日香(高松大学) 萩原真由美(サンフランシスコ州立大学) 前原 和明(秋田大学) 土肥 靖人(千葉県総合教育センター特別支援教育部) 八重田 淳(筑波大学) |
| P9-9 | 特別支援学校に勤務する教員のキャリアと専門性の向上に 関する考察Ⅱ ～専門性の高い教員の確保・育成に向けた,教育実習を含む大 学等との連携による人材育成～ | 深谷 純一(東京都立高島特別支援学校) |
| P9-10 | 特別支援教育におけるキャリア・パスポートの導入と展開 | 石川 和博(群馬県立あさひ特別支援学校) 霜田 浩信(群馬大学共同教育学部) 内田 誠(群馬大学共同教育学部) 任 龍在(千葉大学教育学部) |
| P9-11 | 第24条(教育)に関する事前質問事項 (a)の質問内容の分析 | 中山 忠政(弘前大学教育学部) |
| P9-12 | 障害のある人の美術展覧会の鑑賞に関する実態調査Ⅱ -記述回答の分析を通して- | 池田 史志(広島大学) 児玉真樹子(広島大学) 竹林地 毅(広島都市学園大学) |
| P9-13 | 小学校と特別支援学校小学部間の交流及び共同学習におけ る事前学習の効果と課題に関する検討 | 鈴木 暢子(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) 平塚 達也(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) 藤井 慶博(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) |
| P9-14 | デンマークの特別学校の実態に基づく特別支援教育におけ る「個別最適な学び」について -訪問調査を通して- | 縄田登紀子(大阪府立藤井寺支援学校) 今枝 史雄(大阪教育大学) |

| | | |
|-------|---|---|
| P9-15 | インクルーシブ教育学のための教育対話研究 ー「教育対話のためのガイドブッカー教師編ー」開発の取組からー | 荒巻 恵子(帝京大学大学院教職研究科) |
| P9-16 | 「色覚」に対する社会の扱いは40年間でどう変わったか 新聞記事に見る色覚についての話題の変遷 | 加部 清子(筑波大学附属大塚特別支援学校) |
| P9-17 | 重度・重複障害児への自立活動の指導の改善について 実態把握と課題設定を集団で検討することを通して | 吉田 光伸(東京都立光明学園) |
| P9-18 | 重度・重複障害児の家族に対するオンラインを活用したコ ミュニケーション支援の試み ～2事例の取り組みを通して～ | 赤松 裕美(東京大学先端科学技術研究センター) 小室 惟(長野県飯田養護学校) 志磨村早紀(東京大学先端科学技術研究センター) 武長 龍樹(東京大学先端科学技術研究センター) 中邑 賢龍(東京大学先端科学技術研究センター) |
| P9-19 | 障害が重い子どもの学習を支える理論(3) ー行動セッティングの視点からの重度・重複障害児の学習 活動の改善ー | 樋口 和彦(広島修道大学人文学部) 渡邊 正人(鳥取大学地域学部) 藤川志つ子(淑徳大学短期大学部) |
| P9-20 | 障害が重い子どもの学習を支える理論(4) ー感覚と運動の高次化理論による重度・重複障害児の学習 活動の取り組みー | 渡邊 正人(鳥取大学) 樋口 和彦(広島修道大学) 藤川志つ子(淑徳大学短期大学部) |
| P9-21 | 重複障害のある児童生徒の教育に関する調査(2) ～特別支援学級を対象とした調査の結果から～ | 小澤 至賢(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 斉藤由美子(帝京平成大学) 星 祐子(筑波大学附属視覚特別支援学校) |
| P9-22 | 重症心身障害児を含むインクルーシブ保育の専門性 子ども同士の関わり合いを促す自己評価項目の検討 | 小柳津和博(桜花学園大学) 野々山 貴(こども発達支援センターひかりっこ) |
| P9-23 | 大学で身に付けておきたい「経験の浅い教員ができる発達 の支援」 特別支援教育に関する大学の教員養成課程における取組み について | 川田 和子(大和大学) |
| P9-24 | 重度・重複障害児のスヌーズレン授業に関する全国調査研究 コロナ禍における肢体不自由特別支援学校(知肢等併置校を 含む)小学部の現状分析を通して | 姉崎 弘(常葉大学教育学部) |
| P9-25 | 重度重複障害児の刺激処理能力に関するアセスメントの試み アニメーション刺激と生理心理学的方法を用いて | 宮地弘一郎(信州大学学術研究院教育学系) 渡邊流理也(新潟大学人文社会学系) |

知的障害⑤・肢体不自由③・発達障害③

9月19日(月・祝)9:00～10:00 多目的ホール

| | | |
|-------|---|--|
| P10-1 | 自立活動におけるICT(デジリハ)活用の効果と課題 特別支援学校(肢体不自由)教師に対するインタビュー調査 をもとに | 八柳 千穂(茨城県立水戸特別支援学校) 仲村佳奈子(株式会社デジリハ) |
| P10-2 | 肢体不自由児への自立活動の視点を踏まえた動作による指導 児童の主体的な取り組みを促す指導・支援の考え方と工夫 | 本吉 大介(熊本大学大学院教育学研究科) |
| P10-3 | コロナ禍における新たな教育実習の方法に関する一考察 北海道手稲養護学校におけるオンライン教育実習の実施を 通して | 小田 亨(北海道手稲養護学校) |
| P10-4 | ボッチャのリモート投球に関する研究 知的障害と肢体不自由を併せ有する子どもを対象とした支 援機器を活用したスポーツ参加 | 大森 直也(浜松学院大学) |

| | | |
|--------|--|--|
| P10-5 | 脳性麻痺児に対するコミュニケーション支援についての研究動向と課題① | 藤村 励子(郡山女子大学、東北大学大学院教育学研究科) 野口 和人(東北大学大学院教育学研究科) |
| P10-6 | 「『他者との学び合い』を創るオンライン授業(遠隔合同授業)」 中学部2年社会科地理的分野の事例 | 田丸 秋穂(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 木村美佳子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) |
| P10-7 | 特別支援学校における自立活動の専門性向上に資する校内 研修に関する研究Ⅱ 肢体不自由特別支援学校の研修企画者の思考のプロセスに 着目して | 植田佐知子(静岡市立長田東小学校) 武部 綾子(東京都立光明学園) 小倉 靖範(愛知教育大学) 長谷川 哲(新潟県立東新潟特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 奥田 裕幸(北海道立特別支援教育センター) 永冨 茉未(社会福祉法人慶生会) 渡辺 政治(前さいたま市立さくら草特別支援学校) |
| P10-8 | 人通りの多い場所において肢体不自由者が感じているバリア | 西館 有沙(富山大学) 西村 実穂(東京未来大学) 水野 智美(筑波大学) 徳田 克己(筑波大学) |
| P10-9 | 包括的就学移行支援プログラムの開発(1) CWPBSの視点から | 前川圭一郎(足立区こども支援センター) 萩野 昌秀(埼玉東萌短期大学) |
| P10-10 | 包括的就学移行支援プログラムの開発(2) ペアレントトレーニングの手法を活用した子育て支援動画 作成の試み | 萩野 昌秀(埼玉東萌短期大学) 前川圭一郎(足立区こども支援センターげんき) |
| P10-11 | 不登校状態を呈する知的障害のない自閉スペクトラム症の 児童に対するZoomを用いた遠隔支援に関する研究 | 福本 稜佑(山梨県立わかば支援学校) 石坂 務(国立障害者リハビリテーションセンター) 渡部 匡隆(横浜国立大学大学院教育学研究科) |
| P10-12 | 自閉症生徒における寡動の機能に関する研究 | 尾崎友里花(下関市立川中西小学校) 加藤 慎吾(東京学芸大学) |
| P10-13 | 壮年・高齢期における自閉症のある人の行動障害の縦断的 研究 | 近藤 裕彦(社会福祉法人檜の里 あさけ学園) |
| P10-14 | 自閉スペクトラム症の青年男子を支える段階的支援(3) 放課後等デイサービスを利用した集団・個別SSTの効果に ついて | 荒牧 要右(YCCこども教育研究所) 加藤 健一(YCCこども教育研究所) |
| P10-15 | 当事者中心の個別支援計画に基づいた支援の効果に関する 検討 行動問題を呈する自閉症者の職場実習の事例から | 松田光一郎(花園大学社会福祉学部) |
| P10-16 | 児童養護施設の発達障害の子どもと心理療法担当職員の間 わり アタッチメント形成にかかる生活場面内での支援と多職種 協働 | 田中 美生(社会福祉法人 健生会) 石川 慶和(静岡大学教育学部) |
| P10-17 | 放課後児童クラブにおける発達障害児等の就学支援 | 斎藤遼太郎(茨城キリスト教大学) |
| P10-18 | この子一人の確かな学びと育ちを支援するとは(3) 「学校の教育目標」を達成するための教育課程の中核に「個別の 指導計画」を位置づけたスクール・マネジメントを考究する | 市澤 豊(星槎大学) |
| P10-19 | LBMにおける刺激変数変換の効果について： その2 | 松阪 啓子(よこはま児童文化研究所) |
| P10-20 | 「ラーニングマップ」を基盤とした学習評価システムの開発 | 立石 宣暁(静岡県立浜北特別支援学校) 山元 薫(静岡大学教育学部) |

| | | |
|--------|--|--|
| P10-21 | 成人期知的障害者の自己決定に関わる選択行為の実態—本人調査を通して— | 今枝 史雄(大阪教育大学 特別支援教育部門) 菅野 敦(東京学芸大学) |
| P10-22 | 特別支援学校教員に対する 機能的アセスメント研修に関する校内研修の効果 日常的なフォローアップを通して | 中島真由美(兵庫県立阪神特別支援学校) 岡村 章司(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) |
| P10-23 | UDLガイドラインを用いた知的障害特別支援学校の授業改善「学び方を身につける」ための指導・支援の計画と実践 | 三浦 駿介(埼玉大学教育学部附属特別支援学校) 名越 斉子(埼玉大学) |
| P10-24 | 知的障害教育における自立活動の実態と課題 特別支援学校全国調査の結果から | 明官 茂(明星大学) |
| P10-25 | 知的障害教育における対話的な学びの探求 授業づくりのPDCAサイクルの検討 | 岩松 雅文(宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校) 小出 博史(栃木県立那須特別支援学校) 岡澤 慎一(宇都宮大学大学院教育学研究科) 齋藤 大地(宇都宮大学共同教育学部) |
| P10-26 | 重度知的能力障害者1例の個別音楽療法における記憶の検討 | 山下 貴子(目白発達心理研究所 松本短期大学) 五十嵐一枝(白百合女子大学発達臨床センター) |
| P10-27 | 知的障害特別支援学校における自立活動の充実に向けて(2) ～グループ学習場面でのICTの効果的な活用とは～ | 竹中 正彦(兵庫県立姫路しらすぎ特別支援学校) |
| P10-28 | 知的障害特別支援学校高等部における作業学習と関連付けた総合的な探究の時間の授業開発 | 佐久間智大(千葉大学教育学部附属特別支援学校) 小林 寛子(千葉大学教育学部附属特別支援学校) |
| P10-29 | 特別支援学校(知的障害)用文部科学省著作教科書の採択と活用に係る調査研究 知的障害及び同部門を設置する特別支援学校を対象として | 長江 清和(埼玉大学教育学部) |
| P10-30 | 知的障害を有する児童生徒へのICTを活用した教育に対する評価の動向 GIGAスクール構想開始以降を対象にした文献的検討 | 橋本 陽介(白梅学園大学子ども学部) 熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科) |
| P10-31 | 知的障害特別支援学校の道徳教育の実態と課題 教師の道徳的価値が指導に及ぼす影響と道徳の教科化に着目して | 赤山 千暁(京都府立井手やまぶき支援学校) 小谷 裕実(京都教育大学) |
| P10-32 | 小学校知的障害特別支援学級における指導内容確認表の活用 効果的な「学びの系統性」の担保を目指した小学校版指導内容確認表の開発と試用 | 後藤 匡敬(熊本大学教育学部附属特別支援学校) 水内 明子(富山市立鵜坂小学校) 水内 豊和(帝京大学文学部) |
| P10-33 | コロナ禍における交流及び共同学習の現状と課題 全国の知的障害特別支援学校を対象とした調査研究による検討 | 小島 道生(筑波大学人間系) 尾川 周平(筑波大学大学院人間総合科学学術院 日本学術振興会特別研究員) |

| | | |
|--------|--|--|
| P11-1 | インクルーシブ教育の推進に必要な教員養成に関する研究Ⅱ 「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」の事項を含む科目に関する検討 | 磯貝 順子(大妻女子大学) |
| P11-2 | 特別支援教育の連携による書写指導の工夫 ーコロナ禍における連携指導の実践事例ー | 河野 文子(筑波大学 附属桐が丘特別支援学校) 阿部 敦子(東京都立羽村特別支援学校) 吉田 崇(東京都立志村学園) 諏訪 肇(青島特別支援学校) |
| P11-3 | 特別支援学校における「協働性」を構築するためのカリキュラム・マネジメントのプロセスと要件の検討 北海道真駒内養護学校におけるカリキュラム・マネジメント導入期に焦点を当てて | 小倉 靖範(愛知教育大学) |
| P11-4 | 授業中の教師発話における使用語彙の学校間比較 | 岡田 信吾(就実大学教育学部) 羽崎 綾乃(岡山県立瀬戸高等支援学校) |
| P11-5 | 「共に学ぶ」教育実践の充実に向けて 米国の最少制約環境(LRE)施策の展開と多層的な支援システム(MTSS)の取組からの示唆 | 齊藤由美子(帝京平成大学人文社会学部) 小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所) |
| P11-6 | 近年中国融合教育(インクルーシブ教育)の現状と課題 | 呂 曉彤(帝京科学大学) |
| P11-7 | 幼児とその母親の食嗜好と偏食行動との関連 | 勝二 博亮(茨城大学教育学部) 久保 愛恵(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 田原 敬(茨城大学教育学部) |
| P11-8 | 幼稚園における巡回相談後の実践上の課題 ーテキストマイニングによる定性分析を用いてー | 遠藤 愛(星美学園短期大学) |
| P11-9 | 読みの発達段階に応じた読み書き場面での視線機能 | 大森 幹真(早稲田大学人間科学学術院) |
| P11-10 | 日本における場面緘黙の高リスク児スクリーニングのための後方視的行動抑制アセスメント尺度(RASBI-J)の開発(第2報) | 酒井 貴庸(甲南女子大学) 松下 浩之(山梨大学) 奥村真衣子(信州大学) 園山 繁樹(島根県立大学) |
| P11-11 | 小学生における屈折異常と読み能力との関係 1公立小学校での検討 | 岡野 真弓(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) 漆原 美希(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) 内川 義和(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) 新井田孝裕(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) |
| P11-12 | 特別支援学校に勤務する教員の職能成長に関する研究 ー4名のミドルリーダーの役割と満足度に着目してー | 藤田 貴史(神奈川県立高津養護学校) 柘植 雅義(筑波大学人間系) |
| P11-13 | 場面緘黙の児童への担任による持続可能な支援の検討 進級後の発話レベルの変化を踏まえて | 吉本 悠汰(春日井市立松山小学校) 山中 智央(鳥取大学学生支援センター) 辻田 那月(京都大学大学院人間・環境学研究科) |
| P11-14 | スコーピング・レビューによる国内の場面緘黙の臨床研究の動向(1) 研究デザインおよび年次推移に着目して | 飯村 大智(川崎医療福祉大学リハビリテーション学部) 辻田 那月(京都大学大学院人間・環境学研究科) 萩原 広道(東京大学WPI-IRCIN, 日本学術振興会) |
| P11-15 | スコーピング・レビューによる国内の場面緘黙の臨床研究の動向(2) 対象者の属性と主訴および併存症に着目して | 辻田 那月(京都大学大学院人間・環境学研究科) 飯村 大智(川崎医療福祉大学リハビリテーション学部) 萩原 広道(東京大学WPI-IRCIN, 日本学術振興会) |

| | | |
|--------|---|---|
| P11-16 | オンラインゲームによる場面緘黙児とのコミュニケーション「あつまれどうぶつの森」を用いてカウンセリングを行った実践例 | 高木 潤野(長野大学社会福祉学部) 白井なずな(信州かんもく相談室) |
| P11-17 | 場面緘黙児に対する筆談や音読を活用した支援 | 小島 拓也(船橋市立市場小学校) |
| P11-18 | 図形選択課題における学習過程 学習過程の理解の枠組み | 島津 久子(よこはま児童文化研究所) |
| P11-19 | 場面緘黙の学校における段階的エクスポージャー実施のための連携上の課題 4事例の比較とフォローアップ調査からの検討 | 奥村真衣子(信州大学 学術研究院) |
| P11-20 | 場面緘黙がある者やその家族の支援ニーズの検討 階層的クラスター分析を用いた自由記述の内容分析 | 山中 智央(鳥取大学学生支援センター) 広瀬 慎一(緘黙グループ北海道) 高木 潤野(長野大学社会福祉学部) 久田 信行(群馬医療福祉大学) |
| P11-21 | 放課後等デイサービスにおける支援内容の実態と評価 一知的障害のある子どもの保護者に対する調査結果から一 | 松下 浩之(山梨大学) |
| P11-22 | 応用行動分析を用いた思春期の子どもの保護者支援 知的障害特別支援学校におけるペアレント・トレーニングの実践 | 今村 幸子(鹿児島女子短期大学) |

聴覚障害④・発達障害④

9月19日(月・祝)10:30~11:30 多目的ホール

| | | |
|-------|--|---|
| P12-1 | 聴覚障害児への日本語指導における配慮に関する研究 ICTの活用に向けた意識調査から | 澤 隆史(東京学芸大学) 村尾 愛美(東京学芸大学) 大鹿 綾(東京学芸大学) 相澤 宏充(福岡教育大学) 林田 真志(広島大学) 新海 晃(広島大学) |
| P12-2 | 音韻意識の発達に遅れを示す聴覚障害幼児への介入指導 | 大鹿 綾(東京学芸大学特別支援科学講座) 濱田 豊彦(東京学芸大学特別支援科学講座) |
| P12-3 | 聴覚障害者用教科書のデジタル化に求められる機能の評価 | 坂口 嘉菜(上越教育大学) 脇中起余子(筑波技術大学) 渡部 杏菜(筑波技術大学) 長南 浩人(筑波技術大学) 中野 泰志(慶應義塾大学) |
| P12-4 | 音声認識アプリを活用した情報保障システムの運用と課題 通常学級で学ぶ難聴児へのインタビュー調査から | 奥沢 忍(茨城県つくば市立竹園東小学校) |
| P12-5 | 日本手話・日本語バイリンガル児童生徒の言語運用力とは何か —ろう者教員に対する半構造化インタビュー調査をとおして— | 阿部 敬信(九州産業大学) |
| P12-6 | 特別支援学校(聴覚障害)高等部の教科指導における手話の活用に関する調査(2) —利点と課題の分析を中心に— | 雁丸 新一(横浜国立大学) 鄭 仁豪(筑波大学人間系) |
| P12-7 | 聴覚障害児が書いた説明文の評価に関する一研究 視線計測を伴う印象評定法による検討 | 新海 晃(広島大学) 澤 隆史(東京学芸大学) 相澤 宏充(福岡教育大学) 林田 真志(広島大学) |

| | | |
|--------|--|--|
| P12-8 | 聴覚障害生徒における漢字の読み習得の発達 習熟度別の誤答傾向からの検討 | 茂木 成友(東北福祉大学 教育学部) |
| P12-9 | 聴覚特別支援学校の授業過程に数学的なプロセスを創出す る活動デザインへのICT活用の状況とその課題 | 森本 明(福島大学人間発達文化学類) 加藤 慎一(秋田大学教育文化学部) 曾根 一輝(愛媛県立宇和特別支援学校) 原山 玲(静岡県立静岡聴覚特別支援学校) 東城 恵(福島県白河市立白河第二小学校) 米山 文雄(筑波技術大学産業技術学部) |
| P12-10 | ろう学生の受け入れ経験の違いから見た合理的配慮の提供 実態 | 白澤 麻弓(筑波技術大学) 磯田 恭子(筑波技術大学) 萩原 彩子(筑波技術大学) 中島亜紀子(筑波技術大学) 吉田 未来(筑波技術大学) 石野麻衣子(筑波技術大学) 岡田 雄佑(筑波技術大学) |
| P12-11 | 自閉スペクトラム症児におけるアナログ時計の読み指導の 検討 | 宇梶 優(新座市立新堀小学校) 藤本 夏美(筑波大学大学院 人間総合科学研究科) 野呂 文行(筑波大学 人間系) |
| P12-12 | 知的能力障害を伴うASDの生徒へのアニメーションセルフ モデリングを用いた行動問題低減についての指導研究 | 西田 裕明(兵庫県立赤穂特別支援学校) 山本 真也(畿央大学 教育学部現代教育学科) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院 特別支援教育専攻) |
| P12-13 | 自閉スペクトラム症幼児の声処理と読み能力の関連 幼児期の声に対する脳反応と学齢期以降の読み能力につい ての縦断的調査 | 吉村 優子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 田中 早苗(金沢大学子どものこころの発達研究センター) |
| P12-14 | 思春期の自閉スペクトラム症児の自尊感情と不適応行動と の関連 | 永井 祐也(岐阜聖徳学園大学教育学部) 永井絵莉子(所属なし) |
| P12-15 | 大学生の注意欠如・多動傾向とコロナ禍におけるストレ ス、抑うつとの関連 | 齊藤 彩(お茶の水女子大学) 松本 聡子(お茶の水女子大学) 吉武 尚美(順天堂大学) 菅原ますみ(白百合女子大学) |
| P12-16 | 知的障害を伴うASD児の社会的反応の生起促進に向けた随 伴応答の方法の検討 机上におけるおもちゃを用いた遊び場面において | 和田多香子(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 根本由香里(株式会社LOOKMUM) 石塚 祐香(作新学院大学人間文化学部) 野呂 文行(筑波大学人間系) |
| P12-17 | 感覚処理特性が書字・描線反応に及ぼす効果の探索的検討 通級指導教室と連携した運動調節スキルへの介入事例から | 竹森 亜美(立教大学現代心理学部) 大石 幸二(立教大学現代心理学部) |
| P12-18 | 高校生段階－大学生段階ともに学習上の困難を感じた場面 に関する研究 学習上の困難を著しく強く感じた大学生を対象に | 衛藤 裕司(大分大学) |
| P12-19 | 高機能自閉スペクトラム症児における運動制御の促進 動作模倣課題における疲労感・困難感の主観的評定値の確認 | 大石 幸二(立教大学 現代心理学部) 竹森 亜美(立教大学 現代心理学部) 渡邊 孝継(星美学園短期大学 幼児保育学科) 坂本 真季(立教大学 現代心理学部) 和田 恵(立教大学大学院 現代心理学研究科) 木下 愛(立教大学大学院 現代心理学研究科) 佐藤 亜美(立教大学大学院 現代心理学研究科) 萩野梨紗子(立教大学大学院 現代心理学研究科) 佐々木水穂(立教大学大学院 現代心理学研究科) 濱田 佳那(立教大学大学院 現代心理学研究科) |

| | | |
|--------|--|---|
| P12-20 | 自閉スペクトラム症児の社会的行動を促進する要因の検討 一構造化面接を用いた母親からの日常生活場面に関する聴 取を通して一 | 渡邊 孝継(星美学園短期大学 幼児保育学科) 竹森 亜美(立教大学 現代心理学部) 坂本 真季(立教大学 現代心理学部) 和田 恵(立教大学大学院 現代心理学研究科) 木下 愛(立教大学大学院現代心理学研究科) 佐藤 亜美(立教大学大学院現代心理学研究科) 荻野梨紗子(立教大学大学院現代心理学研究科) 佐々木水穂(立教大学大学院現代心理学研究科) 濱田 佳那(立教大学大学院現代心理学研究科) 大石 幸二(立教大学 現代心理学部) |
| P12-21 | 発達障害女子グループにおけるCovid19流行下での継続支援 予防的心理教育の視点から | 佐田久真貴(兵庫教育大学) |
| P12-22 | 自閉症は津軽弁を話さない 海外事情 -アイスランドにおけるASDの英語使用- | 松本 敏治(教育心理支援教室 ガジュマルつがる) |
| P12-23 | 発達障害児の認知的クリエイティビティ評価の事例的検討 言語的指標による分析の試み | 別府さおり(東京成徳大学) 石原 章子(筑波大学大学院) 奥畑 志帆(佛教大学) 井上 知洋(香港中文大学) 大柳 俊夫(札幌医科大学) 岡崎 慎治(筑波大学) |
| P12-24 | 外発性注意に及ぼすAD/HDおよびASDの障害特性:ワーキ ングメモリ課題遂行時の視線情報を用いたアナログ研究 | 五島 史子(田園調布学園大学) 新井 雅明(田園調布学園大学) |
| P12-25 | 読む力と聞く力のアセスメントアプリ「みみより」の開発 | 村瀬 忍(岐阜大学教育学部) 神山 典子(岐阜市立加納中学校) |
| P12-26 | LD・ADHD・ASDが重複する中学1年生に対する解説指導 | 大井 雄平(常葉大学) |
| P12-27 | “かわいい”が自閉スペクトラム症者の視覚探索課題パ フォーマンスに与える影響 | 大野 愛哉(九州大学人間環境学府) 田中 真理(九州大学) |
| P12-28 | 小学生における文の書き取りと関連要因について 単語読みスキルとの関連から | 古栴 潤(鹿児島県立出水養護学校) 雲井 未歆(鹿児島大学) 塚田 睦実(鹿屋市立鹿屋小学校) 小久保博幸(鹿児島大学大学院) 小池 敏英(尚絅学院大学) 四ツ永信也(鹿屋市教育委員会) |

| | | |
|--------|---|---|
| P13-1 | 知的障害のあるASD児に対する疑問詞応答スキルの指導 | 朝岡 寛史(高知大学) 岡村 章司(兵庫教育大学) |
| P13-2 | 自閉スペクトラム症児の幼稚園での子供同士の関わりにおけるコンサルテーションによる保育者の介入の効果(1) 初期アセスメントに基づく支援方針 | 長崎 勤(実践女子大学生生活科学研究科) 若井広太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校) 吉井 勘人(山梨大学大学院総合研究部教育学域) 板倉 達哉(文京学院大学心理臨床福祉センター) |
| P13-3 | 自閉スペクトラム症児の幼稚園での子供同士の関わりにおけるコンサルテーションによる保育者の介入の効果(2) -子供同士の関わりの変化と家庭・専門機関との連携- | 若井広太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校) 長崎 勤(実践女子大学生生活科学研究科) 吉井 勘人(山梨大学大学院総合研究部教育学域) 板倉 達哉(文京学院大学心理臨床福祉センター) |
| P13-4 | SLD児の学習態度の変容プロセスに関する事例的検討 漢字学習指導を題材として | 瀬戸山 悠(くらしき作陽大学子ども教育学部) 原田 愛香(島根県立益田養護学校) 橋本 正巳(くらしき作陽大学子ども教育学部) |
| P13-5 | 発達障害児に対するオンライン学習支援 熟語読みの獲得・維持・般化に及ぼす効果の検討 | 石塚 祐香(作新学院大学) 藤本 夏美(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 野呂 文行(筑波大学人間系) |
| P13-6 | 小学生を対象としたローマ字学習支援の効果に関する研究 日本語読み書きと聴覚記憶の困難の有無に基づく支援効果の違いにおける検討 | 銘苅 実土(帝京大学教育学部) 小池 敏英(尚綱学院大学) |
| P13-7 | 通常の学級担任教師と校内外及び保護者との連携に関する研究 特別支援教育連携尺度(小学校版)作成の試み | 竹村 洋子((独)国立特別支援教育総合研究所) |
| P13-8 | 高等学校の通級による指導を利用する生徒の参加に関する制約のつまずきについての研究 通級担当教員から見たつまずきについて | 土谷 充章(大分県立別府支援学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部) |
| P13-9 | 発達特性のある生徒の自己制御手続きの有効性の検討 中学校通級指導教室と在籍校の連携事例を通して | 矢田 勝(星槎大学大学院) 石黒 康夫(桜美林大学リベラルアーツ学群) 三田地真実(星槎大学大学院教育学研究科) |
| P13-10 | ADHD学生の休学が原因帰属・自己効力感の変化に及ぼす影響 修業困難に対する原因帰属スタイル・自己効力感を修正する休学中の過ごし方の検討 | 吉田 ゆり(長崎大学) 田中 真理(九州大学) |
| P13-11 | コロナ禍における障害のある学生への修学支援 利用者アンケートからの検討 | 蒔苗 詩歌(宮城学院女子大学) 金 彦志(宮城学院女子大学) 梅田 真理(宮城学院女子大学) |
| P13-12 | コロナ禍における発達障害学生支援に関する調査 支援業務及び学生の受講状況への影響 | 野崎 義和(宮城教育大学教育学部) |
| P13-13 | 大学における障害学生支援室の取組み 一次予防に視点を当てた実践 | 立田 祐子(中部大学現代教育学部) 川島 るい(北海道大学学生相談総合センター) 藤井 直美(北星学園大学就職支援課) |
| P13-14 | SNSによる遠隔フィードバックを活用した自閉スペクトラム症児の保護者への模倣手順指導 SNSによるフィードバックを用いた効果の検討 | 根本由香里(株式会社LOOKMUM) 和田多香子(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 石塚 祐香(作新学院大学人間文化学部) 野呂 文行(筑波大学人間系) |

| | | |
|--------|--|---|
| P13-15 | マルチメディアDAISY教科書の現状と課題 日本障害者リハビリテーション協会の利用者アンケート結果を通して | 楠 敬太(大阪大学) |
| P13-16 | ASD傾向のある児童に対するWeb会議システムを用いたSSTの効果について 聞き手に伝わりやすい話し方の形成 | 半田 瞳(作新学院大学臨床心理センター) 高浜 浩二(作新学院大学大学院心理学研究科) |
| P13-17 | 自閉スペクトラム症児の保護者に対する標的行動の記録に基づくオンラインペアレント・トレーニングの予備検証 | 神山 努(横浜国立大学教育学部) |
| P13-18 | 学校における外国人子どもの困難さに関する文献的検討 | 裴 虹(筑波大学) 李 彩環(株式会社スタートライン教育) 胡 孜奇(筑波大学人間総合科学学術院) 任 龍在(千葉大学教育学部) |
| P13-19 | 中国における特別支援学校教員のバーンアウトに関する研究 浙江省と甘粛省という経済発展の格差がある地域の比較を通して | LI WENTING(スタートライン教育) 裴 虹(筑波大学人間系) 柘植 雅義(筑波大学人間系) |

知的障害⑥・肢体不自由③

9月19日(月・祝) 12:00~13:00 多目的ホール

| | | |
|--------|--|---|
| P14-1 | 特別支援学校の授業におけるASD児の仲間との対話の特徴 —「朝の会」活動の相互作用の分析を通して— | 吉井 勘人(山梨大学) 長澤 真史(関東学院大学教育学部こども発達学科) 青木 雄一(長野県長野養護学校) |
| P14-2 | 福祉型障害児入所施設に入所する特別支援学校児童生徒への指導上のニーズと有効な支援に関する検討 | 五位塚和也(大阪大谷大学) |
| P14-3 | 公立特別支援学校小学部に在籍するダウン症児童への行動 コンサルテーション実践 —攻撃行動等の改善と適切な言語行動等の促進をめざして— | 松岡 勝彦(山口大学教育学部) |
| P14-4 | Mixed Realityを用いた知的障害児への手順支援：予備的検討 | 山本 健太(神戸大学大学院人間発達環境学研究科) 黒川 陽司(神戸大学附属特別支援学校) |
| P14-5 | 知的障害特別支援学校に通うASD児をもつ保護者のストレス緩和につながるメディアによる情動的サポートのあり方の検討 | 國光 陵介(北海道網走養護学校) 柘植 雅義(筑波大学人間系) |
| P14-6 | 成人知的障害者に理解しやすいピクトグラムのグラフィックIQとの連関から | 工藤 真生(九州大学) |
| P14-7 | 小学校特別支援学級児童の物語作文における心的状態語の表出 | 川井 拓郎(新潟県 加茂市立下条小学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系) |
| P14-8 | 支援困難な児童生徒の指導にあたる教員のメンタルヘルスについて 特別支援学校における社会的トラブルに関する指導のストレス要因 | 赤塚めぐみ(常葉大学) 堀江まゆみ(白梅学園大学) 小倉 正義(鳴門教育大学) |
| P14-9 | Rubinstein-Taybi症候群 心理社会的支援のための文献検討 | 加藤 美朗(関西福祉科学大学) |
| P14-10 | スムーズに移動ができないノンバーバル児童への小児はりを を用いた支援 鍼灸の体表観察方法を活用した症例報告 | 寺井 壽香(大阪府立生野支援学校) |

| | | |
|--------|--|---|
| P14-11 | 放課後等デイサービスの自由遊び場面におけるコミュニケーション行動の促進に関する支援実践の検討 買い物遊びへの好みの導入 | 伊藤 貴大(社会福祉法人どろんこ会 DoronkoLabo) 森岡 裕子(社会福祉法人どろんこ会 DoronkoLabo) 矢ヶ崎紗千恵(社会福祉法人どろんこ会 DoronkoLabo) 大久保優介(社会福祉法人どろんこ会 DoronkoLabo) |
| P14-12 | 就労継続支援B型事業所における農作業向上について(Ⅲ) -収穫増と利用者ニーズの両立を目指す取り組み- | 畠山富士雄(特定非営利活動法人らいふステージ) 船津 静哉(特定非営利活動法人らいふステージ) 久野 建夫(周継会教育学・発達医学研究所) |
| P14-13 | コロナ禍での保護者に対する情報提供の工夫 保護者と実習先、学校がつながる現場実習懇談会 | 松本 晃(東京学芸大学附属特別支援学校) 小島 啓治(東京学芸大学附属特別支援学校) 川井 優子(東京学芸大学附属特別支援学校) 岩井 祐一(東京学芸大学附属特別支援学校) |
| P14-14 | 知的障害特別支援学校卒業生の報告されづらい離職要因に関する研究 数事例における具体的状況と先行研究の比較を通して | 三原 彰夫(大分県立新生支援学校) 後藤 海斗(大分県立日田支援学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部) |
| P14-15 | 日本における知的障害者の雇用とその継続の要因に関する系統的文献研究 | 折 明宏(北海道網走養護学校) 柘植 雅義(筑波大学) |
| P14-16 | 知的障害教科「職業・家庭(中学部)」の独自性と通常学習指導要領との連続性の検討(1) 職業分野の検討 | 米田 宏樹(筑波大学人間系障害科学域) 森澤 亮介(筑波大学附属大塚特別支援学校) 杉田 葉子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 今畠 陽平(茨城県立伊奈特別支援学校) 本間 貴子(国土館大学) |
| P14-17 | 知的障害教科「職業・家庭(中学部)」の独自性と通常学習指導要領の連続性の検討(2) 家庭分野の検討 | 本間 貴子(国土館大学) 森澤 亮介(筑波大学附属大塚特別支援学校) 杉田 葉子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 今畠 陽平(茨城県立伊奈特別支援学校) 米田 宏樹(筑波大学人間系障害科学域) |
| P14-18 | 知的障害者のライフプラン構築に関する縦断的研究 就労1年目から就労8年目(8年間)の変容を中心に | 清水 浩(帝京大学宇都宮キャンパスリベラルアーツセンター) |
| P14-19 | 自閉的な成人男性への動作訓練を通じた発達支援 | 田中 紀行(こんごうの会) |
| P14-20 | 知的障害特別支援学校におけるGIGAスクール構想の展開と教師の意識の変容 | 山崎 智仁(富山大学教育学部附属特別支援学校) 水内 豊和(帝京大学文学部心理学科) |
| P14-21 | 通達学習指導要領時代の肢体不自由養護学校における各教科等における機能訓練の実態に関する一考察 | 丹野 傑史(長野大学社会福祉学部) |

索引

五十音順。

万一誤読の際はご容赦ください。

| | | | | | |
|-------|--|--------|-------------------------|--------|--|
| 大杉 成喜 | 自シII-21 | 越智 美雨 | P6-1 | 河野 文子 | P11-2 |
| 大杉 豊 | P6-22 | 小野 由姫 | P4-27 | 河原 麻子 | P1-16,P8-20,P8-21 |
| 大関 彰久 | P5-5 | 小畑 文也 | P4-29 | 河原 周作 | 自シII-26 |
| 太田 研 | P8-17 | 尾原 健太 | P6-4 | 川間健之介 | 研委企シIII,自シII-20, P5-2 |
| 大谷 博俊 | 自シII-24 | 小淵 千絵 | P3-4,P3-6 | 河村 優詞 | P2-24 |
| 大谷 萌 | P5-30 | 面高 有作 | 自シI-8,O6-3 | 河村 理怜 | P6-15 |
| 太田 容次 | 自シI-27,O6-1 | 小柳津和博 | 自シI-6,P9-22 | 菅 拓哉 | 自シI-12 |
| 大塚 玲 | 自シI-41 | 折 明宏 | P14-15 | 神田 基史 | 自シII-30 |
| 大槻 真信 | O5-2 | 織田 晃嘉 | 自シI-27 | 菅野 敦 | 自シI-23,自シI-36, 自シI-45,P10-21 |
| 大伴 潔 | 教育講演8,自シII-29, P1-23 | 温 楠錫 | P4-14 | 菅野 和恵 | 自シI-16 |
| 大西 孝志 | 自シI-38 | 【カ】 | | 菅野 和彦 | 自シI-10,自シI-25 |
| 大野 愛哉 | O6-3,P12-27 | 香川 紘輝 | P7-10 | 雁丸 新一 | P12-6 |
| 大橋 智 | 自シI-31 | 香川奈緒美 | 自シI-17 | | |
| 大畑 友香 | P5-2 | 柿澤 敏文 | P8-4 | 【キ】 | |
| 大櫃 玲子 | 自シI-10 | 角田 航平 | P1-22 | 菊地 一文 | 自シI-49,自シII-17,P7-2 |
| 大森 直也 | P10-4 | 角原 佳介 | 自シII-12,P4-25 | 菊池 哲平 | P4-3 |
| 大森 幹真 | P11-9 | 梶井 正紀 | P6-16,P9-4 | 菊池 紀彦 | 自シII-22 |
| 大柳 俊夫 | P12-23 | 梶木 暢子 | 自シI-21,P4-28 | 菊池 萌子 | 自シI-16 |
| 大脇 知子 | 自シI-4 | 梶 正義 | 自シI-35 | 岸川加奈子 | 自シI-14 |
| 岡崎 慎治 | 自シI-20,自シI-29, P5-26,P7-21,P7-28, P12-23 | 鹿嶋 浩 | 自シII-1 | 岸良 隼人 | P6-8 |
| 岡澤 慎一 | 自シI-11,P10-25 | 加嶋みずほ | 自シI-32 | 北川 貴章 | 自シII-8,P8-15,P8-20, P8-21 |
| 小笠原志乃 | P7-3 | 梶山 紘平 | 自シII-21 | 北 洋輔 | 自シI-34 |
| 小笠原 拓 | 自シI-36 | 柏倉 秀克 | 自シI-6 | 木下 愛 | P12-19,P12-20 |
| 緒方 敦子 | P1-18,P1-21 | 片岡 美華 | 自シII-3 | 木下 豪 | P5-19 |
| 緒方 亜文 | O1-4 | 勝浦 眞仁 | 自シI-6 | 金 彦志 | P13-11 |
| 岡田 信吾 | P11-4 | 勝谷 紀子 | O3-2,P3-9 | 金 仙玉 | 自シII-39 |
| 岡田 直幸 | P2-16 | 加藤 貴愛 | 自シI-41 | 木村美佳子 | P10-6 |
| 岡田 雄佑 | P12-10 | 加藤 健一 | P10-14 | 木村 光男 | O2-5 |
| 岡田 類 | P5-23 | 加藤 慎一 | P12-9 | 木村 素子 | 自シII-4,P3-3,P7-13 |
| 岡野 真弓 | P11-11 | 加藤 慎吾 | P10-12 | 木山 清貴 | 自シI-47 |
| 岡村 章司 | 自シI-4,P10-22,P13-1 | 加藤 誠太郎 | P3-5 | 喜屋武 睦 | P2-7,P2-8 |
| 岡本 洋 | 自シII-17 | 加藤 隆芳 | P1-15 | | |
| 岡元 雅 | 自シII-21 | 加藤 達也 | P7-13 | 【ク】 | |
| 岡安 玲 | 自シI-21 | 加藤 宏昭 | 自シI-33,自シII-15 | 櫛本 圭佑 | 自シII-12 |
| 尾川 周平 | 自シII-3,P6-15,P10-33 | 加藤美千子 | P6-36 | 楠 敬太 | P13-15 |
| 小川 聡太 | 自シII-24 | 加藤 美朗 | P14-9 | 楠瀬 樹宜 | 自シI-14 |
| 小川 洗菜 | 自シI-31 | 門脇 弘樹 | P8-1,P8-6 | 楠見 友輔 | 自シI-17,自シI-43, 自シII-31 |
| 荻野 昌秀 | P10-9,P10-10 | 金丸 彰寿 | 自シII-39 | | |
| 荻野梨紗子 | P12-19,P12-20 | 金森 克浩 | 自シI-22,自シII-21, O6-1 | 久道佳代子 | P8-13,P8-14,P8-15 |
| 奥沢 忍 | P12-4 | 金子 栄生 | 自シII-18 | 工藤 久美 | 自シII-5,自シII-8 |
| 奥住 秀之 | P5-4,P5-12,P5-14, P5-29,P6-17,P6-36, P6-37,P6-40,P6-44 | 金子 健 | P8-20,P8-21 | 工藤 洗一邦 | 自シII-16 |
| 奥田 健次 | 自シI-7 | 金原 洋治 | 自シI-28 | 工藤 智史 | O6-4 |
| 奥田 裕幸 | P10-7 | 金丸 隆太 | O5-2 | 工藤 滋 | O2-1 |
| 奥畑 志帆 | 自シI-29,P12-23 | 加福千佳子 | P1-12 | 工藤 傑史 | 自シII-5 |
| 奥村 香澄 | 自シI-20,P1-17 | 加部 清子 | P4-17,P9-16 | 工藤 真生 | P14-6 |
| 奥村 太一 | 受賞者講演 | 鎌田ルリ子 | 自シII-1 | 國光 陵介 | P14-5 |
| 奥村真衣子 | P11-10,P11-19 | 神山 努 | P13-17 | 國本 真吾 | 自シII-34,自シII-39 |
| 小倉 正義 | 自シII-40,P14-8 | 亀田 良一 | 自シII-25 | 久野 建夫 | P14-12 |
| 小倉 靖範 | P10-7,P11-3 | 加茂 聡 | 自シII-12 | 久保沢 寛 | P3-7 |
| 尾崎 充希 | P5-3 | 烏田 慈生 | P5-1 | 久保 愛恵 | P5-22,P5-30,P11-7 |
| 尾崎友里花 | P10-12 | 菊田 知則 | 自シI-21 | 久保山茂樹 | 自シI-48,P1-27,P1-28, P8-13,P8-14,P8-15 |
| 小澤 温 | 教育講演9 | 川井 敬二 | P4-3 | | P6-16,P6-24,P6-27, P9-4,P10-30 |
| 小澤 詩織 | P5-29 | 川井 拓郎 | P14-7 | 熊井 正之 | 自シII-33,P5-7,P7-28 |
| 小澤 至賢 | P1-13,P9-21,P11-5 | 川合 紀宗 | 国際シンポジウム | 熊谷 恵子 | 自シII-15,P4-9,P6-40 |
| 小島 啓治 | P7-5,P14-13 | 川井 優子 | P14-13 | 熊谷 裕央 | P5-11 |
| 尾関 美和 | 自シII-40 | 川内紀世美 | 自シII-39 | 熊谷 亮 | P5-24,P12-28 |
| 小田 達夫 | P4-6 | 河崎 佳子 | P3-7 | 雲井 未歆 | P14-4 |
| 小田 亨 | P10-3 | 川島 聡 | P8-19 | 黒川 陽司 | 自シI-33 |
| 小田 浩伸 | P1-18 | 川島 民子 | 自シI-35 | 黒川 利香 | |
| | | 川島 るい | P13-13 | | |
| | | 川田 和子 | P9-23 | | |
| | | 川西 邦子 | 自シI-23 | | |

| | | | | | | |
|--------|--|-------|--------|---|-------|-----------------------------|
| 【ケ】 | | | | | | |
| 慶野 直美 | | P4-20 | 斎藤遼太郎 | P5-29,P10-17 | 嶋田 孝次 | 研委企シII |
| 【コ】 | | | 酒井 貴庸 | P11-10 | 嶋田 博祐 | 自シII-16 |
| 小池 敏英 | P5-24,P12-28,P13-6 | | 坂井 直樹 | 自シI-32,P2-22 | 嶋田 愛美 | 自シI-41 |
| 小泉 清華 | P2-29 | | 酒井 康年 | P9-5 | 嶋田 恭仁 | P4-15 |
| 五位塚和也 | P14-2 | | 坂入 仁和 | 自シI-4 | 嶋津 久子 | P11-18 |
| 小出 博史 | P10-25 | | 坂口 嘉菜 | P2-2,P12-3 | 嶋野 隆文 | 自シI-3,自シII-10 |
| 香野 毅 | 自シI-35,P7-11 | | 坂西 秀昭 | 自シII-4 | 志磨村早紀 | P9-18 |
| 神山 典子 | P12-25 | | 相根 良平 | P2-13 | 清水 謙二 | P7-16 |
| 後上 鐵夫 | 自シI-40 | | 坂本 真季 | P12-19,P12-20 | 清水 浩 | P14-18 |
| 國仙 久雄 | P7-5 | | 佐久間智大 | P10-28 | 志村まゆら | O2-1 |
| 小久保博幸 | P5-24,P12-28 | | 櫻井 康博 | 自シI-12 | 志村 芳紀 | 自シI-3 |
| 胡 孜奇 | P13-18 | | 佐々木香緒里 | P3-4 | 下田 祝子 | P4-13 |
| 越野 和之 | 自シI-18 | | 佐々木和義 | P2-17 | 霜田 浩信 | 自シII-4,P9-10 |
| 五島 脩 | 自シI-3 | | 佐々木銀河 | 研委企シI,P6-8 | 下中村 武 | 自シI-14,P2-3 |
| 小島 拓也 | P11-17 | | 佐々木祥日 | P6-12,P6-42 | 下森めぐみ | P6-22 |
| 小島 道生 | 自シI-22,自シII-3, 自シII-33,P6-15,P6-41, P7-28,P10-33 | | 佐々木順子 | 自シII-33 | 下山 直人 | 研委企シIII |
| 小谷 裕実 | P10-31 | | 佐々木順二 | P3-2 | 下山 真衣 | 自シII-13,P5-8 |
| 児玉真樹子 | P9-12 | | 佐々木敏幸 | 自シII-16 | 東海林 豪 | O1-5 |
| 五反田明日見 | 自シII-8 | | 佐々木浩江 | P4-11 | 勝二 博亮 | 受賞者講演,P5-22, P5-30,P11-7 |
| 後藤 海斗 | P14-14 | | 笹田夕美子 | P12-19,P12-20 | 庄司 和史 | 自シII-1,P3-11 |
| 五島 史子 | P12-24 | | 笹原 未来 | 自シI-7 | 白澤 麻弓 | 自シI-14,P6-23,P12-10 |
| 後藤 匡敬 | 自シI-2,P10-32 | | 笹原 雄介 | 自シI-11 | 城田 和晃 | 自シI-23,自シI-45 |
| 後藤 悠里 | P8-19 | | 笹目 友香 | 自シI-19,自シI-41 | 城間 園子 | P2-27 |
| 小中 雅文 | P1-6 | | 笹森 洋樹 | P3-4 | 新海 晃 | P1-16,P12-1,P12-7 |
| 小西 孝政 | 自シII-10,P1-13 | | 佐治信一郎 | P6-13 | 新城 理奈 | P2-29 |
| 小林 愛 | P5-8 | | 佐島 毅 | P7-19 | 神保幸次郎 | 自シII-37 |
| 小林 巖 | 自シII-29,P5-1 | | | 実践WS,研委企シIII, 自シII-32,P1-3,P4-22, P6-2,P6-5 | 【ス】 | |
| 小林 汰門 | P6-29 | | 佐田久真貴 | P12-21 | 末永多香光 | P1-5 |
| 小林 秀之 | 研委企シII | | 左藤 敦子 | P2-6,P3-11,P6-28 | 末永真惟子 | P5-9 |
| 小林 宏明 | P1-22 | | 佐藤 亜美 | P12-19,P12-20 | 末吉 彩香 | P7-27 |
| 小林 敬和 | 自シII-12,P7-9 | | 佐藤 彩名 | 自シI-7 | 菅井 裕行 | 研委企シI,自シI-11, P6-9,P6-24 |
| 小林 寛子 | P10-28 | | 佐藤 貴宣 | 自シI-32 | 菅原 宏樹 | 自シII-7 |
| 小林 美保 | 教育講演6 | | 佐藤 哲央 | 自シI-40 | 菅原ますみ | P12-15 |
| 小林 保子 | P9-7 | | 佐藤 利正 | P8-13,P8-14,P8-15 | 杉浦 徹 | 自シII-27 |
| 小林 優子 | P3-8 | | 佐藤 智彦 | 自シII-41 | 杉岡 千宏 | P4-9 |
| 小林ゆきの | P4-12 | | 佐藤 知洋 | P4-17,P6-33,P6-34 | 杉田 明浩 | 自シI-12 |
| 小林 洋子 | P6-22 | | 佐藤 七瀬 | 自シII-33,P5-7 | 杉田 明浩 | P14-16,P14-17 |
| 小林 和佳 | P6-32 | | 佐藤 穂高 | 自シI-12 | 杉田 葉子 | 自シII-17,P2-1 |
| 小室 惟 | 自シII-27,P9-18 | | 佐藤 将朗 | 受賞者講演 | 杉中 拓央 | 自シII-20 |
| 小山 信博 | 自シII-20,P3-15 | | 佐藤亮太郎 | P5-7 | 鈴木 泉 | 自シI-49 |
| 是枝喜代治 | 自シI-16,P4-18 | | 佐藤 麗奈 | 自シI-23 | 鈴木 修 | 自シI-34,自シII-31 |
| 是永かな子 | 国際シンポジウム | | 佐野 琴乃 | 自シI-1 | 鈴木 浩太 | P9-13 |
| 近藤 武夫 | 自シI-15,自シI-30 | | 佐野 智子 | O3-2,P3-9 | 鈴木 暢子 | P9-13 |
| 近藤みゆき | P6-42 | | 澤 隆史 | 自シI-18,P1-16,P12-1, P12-7 | 鈴木 大輔 | O6-3 |
| 近藤 裕彦 | P10-13 | | 澤田キヨ子 | 自シI-13,P1-25 | 鈴木 徹 | P5-17 |
| 今野 邦彦 | 自シII-19 | | 澤田 隆規 | 自シI-13,P1-25 | 鈴木 雅義 | P7-26 |
| 紺野 莉沙 | P6-24,P9-4 | | 澤田 真弓 | 自シII-30 | 鈴木美枝子 | P6-20 |
| 【サ】 | | | 澤田 祐輝 | 自シI-15,P8-13,P8-14, P8-15 | 鈴木 悠介 | P1-14 |
| 三枝 里江 | P6-26 | | 三益 亜美 | P5-26 | 鈴木 祥隆 | P8-5,P8-11 |
| 齋藤 愛子 | P2-28 | | | P6-18,P7-28 | 須藤 邦彦 | P8-17 |
| 齋藤 朝子 | 自シII-31 | | 【シ】 | | 諏方 智広 | P9-6 |
| 齋藤 彩 | P12-15 | | 塩津 裕康 | P5-3 | 諏訪 肇 | P11-2 |
| 齋藤 健 | 自シI-50 | | 嶋原 初穂 | P5-3 | 【セ】 | |
| 齋藤 佐和 | 教育講演14,自シII-1 | | 宍戸 和枝 | P4-17,P6-33,P6-34 | 清 圭介 | 自シI-19 |
| 齋藤 大地 | 自シI-2,自シI-44, 自シI-50,P7-5,P10-25 | | 司城紀代美 | 自シI-3 | 清和 嘉子 | P1-4 |
| 齋藤 博之 | 自シI-46 | | 篠崎 友誉 | 自シI-17,自シI-24 | 関口あさか | 自シI-22 |
| 齋藤 豊 | 自シII-8 | | 柴垣 登 | 自シII-28 | 関戸 英紀 | 自シII-25 |
| 齋藤由美子 | P9-21,P11-5 | | 柴田 真緒 | P3-12 | 関根かおり | 自シI-50 |
| | | | 島 尚平 | O3-3,O3-4,O4-3,O4-4, O4-5,O6-2,O6-5 | 瀬戸希津奈 | P6-40 |
| | | | | P7-3 | 瀬戸山 悠 | P13-4 |
| | | | | | 瀬戸由紀子 | 自シI-21 |

| | | | | | |
|-------|---|-------|--|-------|--|
| 千賀 雄 | 自シI-13 | 田中 智樹 | 自シI-42 | 東城 恵 | P12-9 |
| 【ソ】 | | 田中 紀行 | P14-19 | 堂前 晃子 | O3-5 |
| 添田 和久 | 自シI-36 | 田中 秀樹 | O2-1 | 東俣 淳子 | 自シI-47 |
| 曾根 直樹 | 教育講演10 | 田中 真理 | 自シI-8,自シI-30,O6-3, P1-20,P12-27,P13-10 | 藤間友里亜 | 自シII-23,P5-10 |
| 曾根 一輝 | P12-9 | 田中 美生 | P10-16 | 堂山 亜希 | 自シII-33 |
| 園田 力斗 | 自シI-12 | 田中 美紀 | 自シII-17 | 徳田 克己 | 自シII-38,P8-8,P8-9, P10-8 |
| 園山 繁樹 | 自シI-28,自シII-7, P11-10 | 田中佑里恵 | 自シII-23 | 徳永亜希雄 | 自シI-46 |
| 【タ】 | | 田中 亮 | P5-4 | 戸嶋 純那 | 自シII-32 |
| 高木 潤野 | 自シI-28,自シII-23, P11-16,P11-20 | 谷口 明子 | 研委企シI | 刀襦 豊 | P8-2 |
| 高木 菜美 | P5-15 | 田原 敬 | 受賞者講演,P5-22, P5-30,P11-7 | 富永 光昭 | 自シII-31 |
| 高田 直子 | P2-11 | 田渕 麻子 | 自シI-10 | 富山 仁子 | 自シI-16 |
| 高津 梓 | P4-17,P6-33,P6-34 | 田部 絢子 | 教育講演11,O2-4,O3-3, O3-4,O4-3,O4-4,O4-5, O6-2,O6-5 | 友部 道夫 | 自シI-25 |
| 高野 聡子 | P9-1 | 玉木 愛 | P4-4,P4-5 | 豊永 麻美 | P7-25 |
| 高野美由紀 | P2-26 | 田丸 秋穂 | 自シII-20,P10-6 | 鳥山 由子 | 教育講演13 |
| 高橋佳菜子 | P8-18 | 田村 隆宏 | 自シII-40 | 【ナ】 | |
| 高橋 桐子 | 自シI-6 | 丹治 敬之 | 自シI-26,P5-18,P5-19 | 内藤 千尋 | 教育講演4,O2-4,O3-3, O3-4,O4-3,O4-4,O6-2, O6-5 |
| 高橋 智 | O2-4,O3-3,O3-4,O4-3, O4-4,O4-5,O6-2,O6-5 | 丹所 忍 | P8-1,P8-6,P8-11 | 内藤由里子 | 自シI-44 |
| 高橋 知音 | 自シI-26,自シI-30 | 丹野 傑史 | 自シI-13,P8-5,P14-21 | 内藤 理絵 | 自シI-12 |
| 高橋 眞琴 | P2-9,P7-10 | 丹野 哲也 | 自シI-33,自シII-4,P4-6 | 永井絵莉子 | P12-14 |
| 高橋 昌樹 | 自シII-16 | 丹野 祐介 | 自シII-7 | 中泉 貢一 | 自シII-1 |
| 高橋 美月 | P4-7 | 【チ】 | | 永井 友幸 | 自シI-8,P1-20 |
| 高浜 浩二 | P13-16 | 近田 義裕 | 自シI-35 | 永井 伸幸 | P5-11 |
| 田上 幸太 | P4-17,P6-33,P6-34 | 竹林地 毅 | 自シI-27,P9-12 | 永井 祐也 | P12-14 |
| 滝澤 健 | P2-23 | 千田 弘美 | 自シII-41 | 長江 清和 | P10-29 |
| 滝島 真優 | P9-6 | 長南 浩人 | 自シII-2,P12-3 | 中尾恵弥子 | P3-7 |
| 瀧田美紀子 | 自シII-37 | 鄭 仁豪 | O3-1,P6-26,P6-30, P12-6 | 中川 知香 | 自シII-5 |
| 田熊 立 | 自シII-41,P7-22,P7-23, P7-24 | 【ツ】 | | 長崎 勤 | 自シI-24,自シII-25, P13-2,P13-3 |
| 武居 渡 | P3-10 | 塚田 陸実 | P5-24,P12-28 | 長澤 洋信 | 自シII-31 |
| 竹内 聡子 | P2-17 | 津川 周一 | 自シII-19 | 長澤 真史 | 自シI-24,P5-28,P14-1 |
| 竹内 博紀 | P8-18 | 柘植 雅義 | P5-20,P7-27,P7-28, P11-12,P13-19,P14-5, P14-15 | 中島亜紀子 | P12-10 |
| 武澤 友広 | 自シI-42 | 辻 和美 | 自シII-34 | 中島真由美 | P10-22 |
| 武田 鉄郎 | 研委企シI | 辻田 那月 | 自シII-23,P11-13, P11-14,P11-15 | 中嶋 理香 | O4-2 |
| 武富 博文 | 自シI-33,自シI-38, P7-17 | 遠 直美 | 自シI-27,自シI-40, 自シI-46 | 永瀬 大紀 | P5-5 |
| 竹中 正彦 | P10-27 | 辻村 洋平 | 自シI-23,自シII-30 | 中津 真美 | 研委企シI |
| 武長 龍樹 | P9-18 | 土田 悠祐 | P6-23 | 永富 茉未 | P10-7 |
| 竹林 慧 | P4-9 | 土屋 忠之 | P8-20,P8-21 | 中西 史 | P7-5 |
| 武部 綾子 | P3-14,P10-7 | 土谷 充章 | P13-8 | 中西 裕子 | P2-9 |
| 武村 知保 | P7-21 | 土谷 良巳 | 自シI-11 | 中西 雄飛 | P6-6 |
| 竹村 雅裕 | 自シII-41 | 續 裕介 | 自シI-7 | 長沼 俊夫 | 自シI-12,自シII-19 |
| 竹村 洋子 | P8-15,P8-20,P8-21, P13-7 | 霍間 郁実 | 教育講演12 | 中根 征也 | 自シI-35 |
| 竹森 亜美 | P12-17,P12-19,P12-20 | 【テ】 | | 中野 泰志 | 自シI-15,自シI-30, P1-10,P12-3 |
| 立和名信行 | 自シII-40 | 鉄井 史人 | O5-4 | 中野 泰伺 | 自シI-20 |
| 立田 祐子 | P13-13 | 手塚 清 | 自シII-1 | 中野 佑香 | P5-24 |
| 辰巳 大雅 | 自シI-32 | 手塚公志朗 | P2-19 | 仲眞 詩依 | 自シI-1 |
| 立石 宣暁 | P10-20 | 寺井 壽香 | P14-10 | 仲村佳奈子 | P10-1 |
| 館下 智子 | P1-3,P6-2,P6-5 | 寺島ひかり | 受賞者講演 | 中邑 賢龍 | P9-18 |
| 立脇 洋介 | 自シI-30,O6-3 | 寺谷 直輝 | 自シII-34 | 中村 晋 | P4-23 |
| 田中 敦士 | P4-11 | 寺本 淳志 | 自シII-22 | 中村 貴志 | 自シII-29,P8-6 |
| 田中 栄一 | 自シII-21 | 照井 純子 | P8-20 | 中村 美奈 | P2-20 |
| 田中 和也 | 自シII-40 | 【ト】 | | 中村 保和 | 研委企シI,自シI-11, P6-32 |
| 田中 浩二 | 自シI-46 | 土肥 靖人 | P9-8 | 仲矢 明孝 | P2-18,P4-25,P4-26, P7-8,P7-9 |
| 田中 悟郎 | P5-3 | | | 長山慎太郎 | P5-20 |
| 田中 里実 | 自シII-15 | | | 中山 健 | 自シI-29 |
| 田中 早苗 | P12-13 | | | 中山 忠政 | P9-11 |
| 田中 翔大 | P4-17 | | | 名越 斉子 | P10-23 |
| 田中真一朗 | P2-18 | | | 名取 幸恵 | 自シII-7 |

| | | | | | |
|------------|--|------------|------------------------------------|------------|--------------------------------|
| 滑川 典宏 | P1-27,P1-28,P8-13, P8-14,P8-15 | 浜辺 清 | 自シII-36 | 藤川 雅人 | 自シII-17,P1-17 |
| 成田 裕子 | 自シI-21 | 林 和治 | 教育講演4 | 藤澤 憲 | 自シI-40 |
| 縄田登紀子 | P9-14 | 林田 真志 | P1-16,P6-31,P12-1, P12-7 | 藤田 晃子 | 自シII-38 |
| 【ニ】 | | 原島 恒夫 | 自シII-2,P5-22 | 藤田 貴史 | P11-12 |
| 新井田孝裕 | P11-11 | 原田 愛香 | P13-4 | 藤田 磨弥 | P7-15 |
| 新津 雪乃 | P5-6 | 原田 薫 | 自シI-16 | 藤野 正和 | P9-3 |
| 錦織 晃子 | 自シI-44 | 原田 新 | P8-19 | 藤原菜々香 | P7-11 |
| 西澤 典子 | 自シI-13 | 原 伸生 | 自シII-27 | 藤村 励子 | 受賞者講演,P10-5 |
| 西島沙和子 | 自シI-44 | 原 広治 | P4-4,P4-5 | 藤本 夏美 | P5-21,P12-11,P13-5 |
| 西田恵理子 | 自シI-45 | 原 ふみ | O5-1 | 藤本 洋美 | 自シII-40 |
| 西館 有沙 | 自シII-38,P10-8 | 原 康行 | P6-19 | 藤原 あや | 自シII-7 |
| 西田 裕明 | P12-12 | 原山 玲 | P12-9 | 船津 静哉 | P14-12 |
| 西原 裕哉 | 自シI-39 | 原 洋平 | 自シII-13 | 船橋 篤彦 | 教育講演2 |
| 西村 実穂 | P10-8 | 半澤 彰子 | P6-9 | 古江 陽子 | 自シII-9 |
| 西本 月那 | P1-2 | 韓 星民 | P8-1 | 古梶 潤 | P12-28 |
| 西山 剛司 | 自シI-1 | 半田 健 | 自シI-31 | 古川 章子 | 自シII-19 |
| 二宮 一水 | 自シII-32,P1-3,P6-2, P6-5 | 半田こづえ | 教育講演3,O2-1 | 古田 弘子 | P2-3 |
| 丹羽 登 | 自シI-38,O6-1 | 半田 瞳 | P13-16 | 分藤 賢之 | 自シII-19,自シII-20 |
| | | 伴 真里奈 | 自シII-12 | 【ヘ】 | |
| 【ネ】 | | 【ヒ】 | | 裴 虹 | P6-18,P13-18,P13-19 |
| 根岸 由香 | P3-16 | 日置健児朗 | 自シI-44 | 別府さおり | P12-23 |
| 根本 文雄 | 自シI-16 | 引地 晶久 | 自シII-21 | 別府 哲 | 自シII-3 |
| 根本由香里 | P12-16,P13-14 | 疋田 弥紅 | 自シI-14 | 【ホ】 | |
| 【ノ】 | | 引場 陽子 | P8-18 | 星 夢月 | P4-16 |
| 能田 昂 | 教育講演7,O3-3,O3-4, O4-3,O4-4,O6-2,O6-5 | 樋口 和彦 | 自シI-47,自シII-26, P9-19,P9-20 | 星 祐子 | P9-21 |
| 野口 晃菜 | 国際シンポジウム | 久田 信行 | 自シI-5,自シI-28,O4-1, P11-20 | 細川かおり | 自シII-7 |
| 野口 和人 | P5-6,P10-5 | 菱 真衣 | 自シI-43 | 細谷 一博 | P2-12,P2-14,P6-1 |
| 野口 武悟 | 自シI-15 | 日詰 正文 | 教育講演5 | 細谷 忠司 | 自シI-12 |
| 野崎 義和 | 自シII-29,P13-12 | 樋井 一宏 | 自シI-2 | 堀江 俊丞 | P6-33,P6-34 |
| 野澤 純子 | 自シI-40 | 平川 聡 | 自シI-50 | 堀江まゆみ | P14-8 |
| 野々部夫磯子 | P2-17 | 平澤 紀子 | 自シI-9 | 堀部 慧 | 自シII-4 |
| 野々山 貴 | P9-22 | 平島ユイ子 | P1-24 | 堀部 要子 | 自シI-47 |
| 野元明日香 | 自シII-6 | 平田香奈子 | 自シII-26 | 堀 由里 | 自シI-6 |
| 乗金 大輔 | 自シII-12,P4-26 | 平田 正吾 | 自シI-34,P5-23,P5-27, P6-12,P6-42 | 本田いずみ | 自シI-14 |
| 野呂 文行 | P5-21,P7-28,P12-11, P12-16,P13-5,P13-14 | 平塚 達也 | P5-17,P9-13 | 本間 貴子 | P14-16,P14-17 |
| 【ハ】 | | 昼間 友彦 | 自シII-30 | 本間 嗣崇 | P9-5 |
| 葉石 光一 | 研委企シII | 広兼千代子 | 自シI-27 | 【マ】 | |
| 萩原 広道 | P11-14,P11-15 | 廣澤 満之 | P7-25 | 前川圭一郎 | 自シI-9,P10-9,P10-10 |
| 萩原 彩子 | P12-10 | 廣島 慎一 | P8-13,P8-14,P8-15 | 前川 久男 | 自シI-29 |
| 萩原真由美 | P9-8 | 広瀬浩二郎 | 自シI-37 | 前田真理子 | 自シII-3 |
| 羽崎 綾乃 | P11-4 | 広瀬 慎一 | P11-20 | 前林 宏典 | 自シII-24 |
| 橋口 尚宝 | 自シII-3 | 広瀬 由紀 | 自シI-48 | 前原 和明 | 自シII-24,自シII-35, O1-1,P9-8 |
| 橋口 瑤子 | P5-26 | 【フ】 | | 蒔苗 詩歌 | P13-11 |
| 橋本 和也 | 自シII-12 | 深澤 美香 | 自シII-27 | 牧野 泰美 | P1-27,P1-28 |
| 橋本 創一 | 自シII-6,自シII-15, 自シII-29 | 深澤 雄紀 | 自シI-1 | 馬籠 哲平 | P5-27 |
| 橋本 正巳 | P13-4 | 深谷 純一 | 自シII-37,P9-9 | 正井 隆晶 | 自シI-37,P1-7,P1-8, P1-9,P6-6 |
| 橋本 陽介 | P9-4,P10-30 | 福井 愛実 | 自シII-24 | 政倉 祐子 | P8-10 |
| 橋本 陸 | P1-11 | 福島 正也 | O2-1 | 益子 徹 | P3-1 |
| 長谷川 哲 | P10-7 | 福田 奏子 | 自シII-32,P6-2 | 鹿島田真由美 | 自シII-36 |
| 畠山富士雄 | P14-12 | 福田久美子 | P4-19 | 増井 祈 | 自シII-23 |
| 八柳 千穂 | P10-1 | 福本 徹 | 自シII-9 | 増田謙太郎 | 自シI-33 |
| 幅野 真衣 | 自シII-23 | 福本 稜佑 | P10-11 | 増田 貴人 | P6-12 |
| 濱崎 奈緒 | 自シII-37 | 藤井 和子 | 自シI-13,自シI-39, P1-25 | 真玉橋マリア | P4-10 |
| 濱田 佳那 | P12-19,P12-20 | 藤井 直美 | P13-13 | 松為 信雄 | 自シI-49 |
| 濱田 豊彦 | 研委企シII,P12-2 | 藤井 慶博 | P5-17,P7-14,P9-13 | 松井由紀夫 | P3-17 |
| 濱田 曜 | 自シII-12,P7-8 | 藤川 一輝 | P5-16 | 松浦 孝明 | P3-13 |
| | | 藤川志つ子 | 自シII-26,P9-19,P9-20 | 松岡 勝彦 | P14-3 |
| | | | | 松阪 啓子 | P10-19 |
| | | | | 松崎 保弘 | P2-27 |

| | | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|--|--------|--|
| 松下 浩之 | P11-10,P11-21 | 村上 精一 | P7-20 | 山之内 幹 | P2-27 |
| 松島 宏樹 | 自シI-16 | 村上 由則 | 自シII-22 | 山本 晃 | P1-27,P1-28 |
| 松田えりか | P6-7 | 村瀬 忍 | P12-25 | 山元 薫 | 自シI-1,自シI-19, 自シI-41,自シI-46, P10-20 |
| 松田光一郎 | P10-15 | 村中 智彦 | 自シII-29,P2-15,P2-19, P4-7,P4-10,P4-12,P4-13, P4-14,P4-16,P7-15, P14-7 | 山本 響平 | P6-41 |
| 松田壮一郎 | P5-10 | | | 山本久美子 | 自シII-5,自シII-18 |
| 松田孝可子 | P7-12 | 村松 浩幸 | 自シII-13 | 山本 健太 | P14-4 |
| 松田奈々恵 | 自シI-26 | 村本 浄司 | 自シI-7 | 山本 真也 | P12-12 |
| 松田 信夫 | 自シII-25 | | | 山本 利和 | 自シI-18,自シI-37,P1-7, P1-8,P1-9 |
| 松原 未知 | 自シII-37 | | | 山本 弥生 | P3-4 |
| 松見 和樹 | 自シI-33,自シII-9, 自シII-10 | 【メ】 | | 山本 ゆう | 自シII-33 |
| 松本 晃 | P14-13 | 明官 茂 | P10-24 | 山本 義男 | P7-4 |
| 松本 和久 | P8-11 | 銘苺 実土 | P13-6 | | |
| 松本健太郎 | 自シI-21,自シI-43, 自シII-32 | 【モ】 | | 【ユ】 | |
| 松本 沙知 | P2-16 | 茂木 成友 | P12-8 | 湯浅 哲也 | P3-5,P6-6 |
| 松本 聡子 | P12-15 | 本吉 大介 | 自シI-44,P7-20,P10-2 | 湯沢 由美 | 自シI-49 |
| 松本 末男 | 自シII-1,自シII-2 | 物井 明子 | P3-7 | 湯本 憲三 | 自シII-36 |
| 松本 敏治 | P12-22 | 森岡 裕子 | P14-11 | | |
| 松山 沙樹 | 自シI-37,P1-7,P1-8,P1-9 | 森澤 亮介 | 自シII-12,P14-16,P14-17 | 【ヨ】 | |
| 真鍋 健 | 自シII-7,P8-22 | 守 巧 | 自シI-48 | 楊 鈺倩 | P6-18 |
| 丸山 真幸 | 自シI-5,自シII-8,P8-18 | 森田 浩司 | 自シI-39 | 横田 晋務 | 自シI-8,自シI-30,O6-3, P1-20 |
| 【ミ】 | | 森 つくり | P9-4 | 吉井 鮎美 | 自シI-20 |
| 三浦 駿介 | P10-23 | 森 麻友子 | 自シI-8 | 吉井 勘人 | 自シI-24,自シII-25, P6-33,P6-34,P13-2, P13-3,P14-1 |
| 三木由美子 | 自シII-26 | 森本 明 | P12-9 | 吉岡 恒生 | 自シI-18 |
| 三崎 惠美 | 自シII-28 | 森脇 愛子 | P1-19 | 吉川 和幸 | P8-13,P8-14,P8-15 |
| 三科 聡子 | 自シI-21,P8-1,P8-3, P8-10 | 諸星 奏希 | O2-3 | 吉川 知夫 | P8-20,P8-21 |
| 三嶋 和也 | 自シI-13,自シI-39 | 【ヤ】 | | 吉武 尚美 | P12-15 |
| 水内 明子 | P10-32 | 八重田 淳 | 自シII-35,P9-8 | 吉田 五月 | 自シII-41,P7-22,P7-24 |
| 水内 豊和 | 自シI-2,自シI-22, 自シII-3,P10-32,P14-20 | 矢ヶ崎紗千恵 | P14-11 | 吉田 崇 | P11-2 |
| 水野 和代 | P7-6 | 八島 猛 | 受賞者講演,自シII-22 | 吉田 奈々子 | P6-35 |
| 水野 智美 | 自シII-38,P8-8,P8-9, P10-8 | 安岡 知美 | P7-7 | 吉田 未来 | P12-10 |
| 三田地真実 | 自シII-41,P13-9 | 安田 和夫 | P8-11 | 吉田 光伸 | P8-18,P9-17 |
| 道本 裕大 | P3-8 | 安永 啓司 | P1-17 | 吉田 ゆり | 自シI-8,P13-10 |
| 三橋 翔太 | 自シI-34 | 保村 崇有 | P1-12 | 吉村 優子 | P2-21,P12-13 |
| 三橋 也守寛 | 自シI-40 | 矢田 勝 | P13-9 | 吉本 萌 | P1-3,P6-2,P6-5 |
| 箕浦 伸子 | 自シI-14 | 柳岡 開地 | 自シI-34 | 吉本 悠汰 | P11-13 |
| 三原 彰夫 | P14-14 | 柳田 和美 | 自シII-18,P3-16 | 四ツ永信也 | P12-28 |
| 宮内 久絵 | P6-7 | 柳本 雄次 | 自シI-40 | 米田 宏樹 | 研委企シⅢ,P6-18, P6-33,P6-34,P7-28, P14-16,P14-17 |
| 宮尾 尚樹 | 自シI-10 | 矢野川祥典 | O5-3 | | P8-20,P8-21 |
| 宮木 秀雄 | P6-35 | 矢野口 仁 | P1-1 | 米山 妙子 | P12-9 |
| 宮崎 亜紀 | 実践WS,自シI-10 | 矢野 善教 | 自シI-31 | 米山 文雄 | |
| 宮崎 英憲 | 自シI-38 | 山内 俊久 | 自シII-36 | | |
| 宮崎 眞 | 自シII-25 | 山垣 雄大 | P4-8 | 【リ】 | |
| 宮地弘一郎 | P9-25 | 山川 直孝 | P6-11,P6-14 | 李 彩環 | P13-18 |
| 宮田 賢吾 | P2-15 | 八卷 素子 | 自シI-45 | 劉 錡洋 | P6-31 |
| 宮野 希 | P2-12,P2-14 | 山口明日香 | 自シII-35,P9-8 | 【ル】 | |
| 宮野 雄太 | P6-39 | 山口真佐子 | 自シII-28 | 類瀬 健二 | P2-29 |
| 宮本 和輝 | P2-21 | 山口 美樹 | 自シI-41 | 【ロ】 | |
| 宮本 昌子 | 国際シンポジウム, P1-22,P7-28 | 山口 遼 | 自シII-6 | 呂 暁彤 | P11-6 |
| 三好 敏之 | 自シI-35,O1-2 | 山崎 樹 | P6-44 | 【ワ】 | |
| 【ム】 | | 山崎 敏秀 | P7-7 | 若井広太郎 | 自シII-25,P2-29,P13-2, P13-3 |
| 向 晃佑 | P1-18,P1-21 | 山崎 智仁 | 自シI-2,自シI-22, P14-20 | 若狭谷知子 | P4-21 |
| 六車 浩 | 自シII-35 | 山下 祥代 | P5-13 | 若月 芳浩 | 自シI-48 |
| 武藏 博文 | P2-23 | 山下 さつき | 自シI-16 | 若林 上総 | 自シI-42 |
| 棟方 哲弥 | 自シI-23 | 山下 貴子 | P10-26 | | |
| 村浦新之助 | P6-37 | 山下 望 | 研委企シⅢ | | |
| 村尾 愛美 | P1-26,P12-1 | 山田 康朝 | P8-18 | | |
| | | 山中 健二 | 自シII-2 | | |
| | | 山中 智央 | P11-13,P11-20 | | |
| | | 山ノ上 奏 | P5-2 | | |
| | | 山内 豊也 | 自シII-36 | | |

| | |
|-------|--------------------------|
| 脇中起余子 | 自シII-2,P6-21,P12-3 |
| 脇浜 幸則 | O6-3 |
| 和久田高之 | 自シI-22 |
| 和田多香子 | P12-16,P13-14 |
| 渡部 昭男 | 自シII-39 |
| 渡邊 杏 | P8-3 |
| 渡部 杏菜 | P2-8,P12-3 |
| 渡邊 咲季 | P7-27 |
| 渡邊 孝継 | P12-19,P12-20 |
| 渡邊 貴裕 | 自シII-6 |
| 渡邊 則子 | 自シII-33 |
| 渡邊 文俊 | 自シI-12 |
| 渡部 匡隆 | 自シI-4,自シII-24, P10-11 |
| 渡邊 正人 | 自シII-26,P9-19,P9-20 |
| 渡辺 政治 | P8-18,P10-7 |
| 渡邊 真純 | P2-6 |
| 渡邊流理也 | P9-25 |
| 綿引 清勝 | 自シII-16 |
| 和田 恵 | P12-19,P12-20 |

| | |
|----------------------|----------|
| KathrynJohnson | 国際シンポジウム |
| StephaniePeña | 国際シンポジウム |
| TRIGO-CLAPÉSAnaLaura | 自シI-17 |
| LIWENTING | P13-19 |

日本特殊教育学会第 60 回大会 賛助団体御芳名

主 催

日本特殊教育学会第 60 回大会 準備委員会

共 催

一般社団法人 日本特殊教育学会

後 援

文部科学省

茨城県

茨城県教育委員会

つくば市

つくば市教育委員会

一般社団法人 つくば観光コンベンション協会

広告・寄附

株式会社明石書店

株式会社学苑社

株式会社風間書房

株式会社金子書房

株式会社北大路書房

株式会社建帛社

サクセス・ベル株式会社

株式会社ジアース教育新社

中央法規出版株式会社

株式会社図書文化社

株式会社日本文化科学社

公益財団法人 博報堂教育財団

本大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援をいただきました。
ここにご芳名を記し、感謝の意を表します。

2022 年 8 月

日本特殊教育学会第 60 回大会 準備委員会
委員長 野呂 文行（筑波大学・日本特殊教育学会理事長）

一般社団法人日本特殊教育学会

第60回大会 大会準備委員会（理事会開催）

| | |
|----------|--|
| 委員長 | 野呂 文行（理事長・筑波大学） |
| 事務局長 | 左藤 敦子（事務局長・筑波大学） |
| 事務局 | 石塚 祐香（総務幹事・作新大学） |
| 委員（50音順） | 井澤 信三（理事・兵庫教育大学） 一木 薫（理事・福岡教育大学） 岡崎 慎治（理事・筑波大学） 加藤 重樹（理事・東京都教育庁） 川合 紀宗（理事・広島大学） 小林 秀之（監事・筑波大学） 佐島 毅（理事・筑波大学） 澤 隆史（理事・東京学芸大学） 勝二 博亮（理事・茨城大学） 菅井 裕行（理事・宮城教育大学） 武田 鉄郎（理事・和歌山大学） 田部 絢子（理事・金沢大学） 松下 浩之（監事・山梨大学） 米田 宏樹（理事・筑波大学） |

運営協力 （一社）日本特殊教育学会アクセシビリティ委員会
（一社）日本特殊教育学会 代議員および編集委員
筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 障害科学学位プログラム 学生
筑波大学人間学群 学生 他

日本特殊教育学会第 60 回大会プログラム

発 行 日 2022 年 9 月
発 行 者 日本特殊教育学会第 60 回大会準備委員会
委 員 長 野呂 文行

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

<https://www.kitaohji.com>(価格税込)

知的障害児の心理・生理・病理

勝二博亮編著 A5・240頁・定価2970円 知的障害の定義やアセスメント、発生要因、感覚・認知・学習・運動・言語の特性、健康上の問題とその対応、さらに、関連のある発達障害について豊富な図表と共に解説。特別支援に向き合う学生や教員に子どもの行動背景への多角的な視点と配慮を提供する。

多職種連携を支える「発達障害」理解

—ASD・ADHDの今を知る旅— 土居裕和、金井智恵子編著 A5・248頁・定価2640円 ASD・ADHDを中心に、臨床・支援・研究分野で活躍する執筆陣が、基礎から最新情報までをイラスト付で平易に解説する。各章に練習問題やグループワークを配し、コラムでは執筆者の体験談や当事者の声も紹介。初学者や分野間連携を志す人に。

アフアンタジア

—イメージのない世界で生きる— A. ケンドル著 高橋純一、行場次朗共訳 四六・256頁・定価3520円 「赤いリンゴ」を思い浮かべようとしても暗闇が広がる——当事者の声を多数収録し、心の中で視覚的にイメージを想起できない困難さやその特性を明示。認知や心像の多様性を知るきっかけに。

グローバル化とインクルーシブ教育

—通常学級に在籍する発達障害児にも対応した学校・学級経営— 安藤正紀編著 A5・164頁・定価2200円 児童生徒の知覚レベルの実態把握とICT利用、21世紀型スキルを意識した職業教育、効果的な教育課程づくり等の視点から、豊富な実践事例とともに特別支援教育と通常の教育の一体化を推進するヒントを提供。

臨床的作業記憶論 覚え書き

—発達障害の諸相とワーキングメモリー— 室橋春光著 A5上製・300頁・定価7150円 ワーキングメモリー(WM)をキーワードに心のしくみと働きを論じ、発達障害を捉え直す試みの書。第1部で認知科学・神経科学的視点から二重過程理論を精査、WM、グローバルワークスペース等について検討。第2部ではADHD等の諸相を詳述し、新たな見解を提案。

特別の支援を必要とする多様な子どもの理解

—「医教連携」で読み解く発達支援— 長崎大学子どもの心の医療・教育センター監修 吉田ゆり編著 A5・260頁・定価2420円 教職課程コアカリキュラム対応の特別支援教育テキスト。「医教連携」の視点を中心に、子どもを理解・支援するアプローチを探る。教育や子どもの支援に携わる人に最適の1冊。

ギフティッド その誤診と重複診断

—心理・医療・教育の現場から— J. T. ウェブ他著 角谷詩織、榊原洋一監訳 A5・392頁・定価5720円 1つ以上の分野で並外れた才能を示すギフティッド。本書では、豊富な事例からギフティッドに類似する障害の特性と比較し、特有の問題や支援の実践を示す。正確な理解に向けた手引きとなる。

ICT活用の理論と実践

—DX時代の教師をめざして— 稲垣 忠、佐藤和紀編著 A5・184頁・定価2200円 令和4年度新設の教職課程コアカリキュラム「情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法」に対応。教育メディアに関する諸理論、個別最適な学びや協働的な学びを実現するICTの活用法、情報活用能力を育む指導の要点など幅広く解説。

重症心身障害児の認知発達とその援助

片桐和雄、小池敏英、北島善夫著 定価3190円

「9歳の壁」を越えるために

脇中起余子著 定価1980円

LD児の漢字学習とその支援

小池敏英、雲井未歌、渡邊健治、上野一彦編著 定価4400円

脳性まひ児の発達支援

木松憲幸著 定価2420円

視覚障害児・者の理解と支援[新版]

芝田裕一著 定価2200円

ワーキングメモリと発達障害

T. P. アロウェイ著/湯澤美紀、湯澤正通訳 定価2090円

知的障害の心理学

小池敏英、北島善夫著 定価3080円

聴覚障害教育 これまでとこれから

脇中起余子著 定価2530円

【三訂】臨床心理アセスメントハンドブック

村上宣寛、村上千恵子著 定価2970円



SP感覚プロフィール

3歳～82歳を対象に、聴覚、視覚、前庭覚、触覚、複合感覚、口腔感覚における感覚の過敏さや過鈍さ等を把握する検査です。質問は、感覚処理、調整、行動や情動反応の大きく3つに分けられます。対象者について、保護者や観察者(支援者)が質問票に回答し、検査者が採点と解釈を行います。

| | | | | | |
|-------------|--------------|-------|------------------------|------|--------------|
| ユーザーマニュアル | 11,000円 (税込) | 原著者 | Winnie Dunn | 適用範囲 | 3歳～82歳 |
| 質問票セット | 11,000円 (税込) | 原版出版社 | Pearson | 実施時間 | 30分(短縮版：10分) |
| 短縮版(SSP)質問票 | 11,000円 (税込) | 日本版監修 | 辻井 正次 | | |
| | | 日本版作成 | 萩原 拓、岩永 竜一郎、伊藤 大幸、谷 伊織 | | |

関連製品

ITSP乳幼児感覚プロフィール

ユーザーマニュアル 11,000円 (税込)
質問票セット 11,000円 (税込)

AASP青年・成人感覚プロフィール

ユーザーマニュアル 11,000円 (税込)
質問票 8,800円 (税込)



言語・思考・感性の発達からみた 聴覚障害児の指導方法

豊かな言葉で確かに考え、温かい心で感じる力を育てる

長南浩人【著】 ● A5判/定価 2420円(税込)

聴覚障害児の育ちの姿を心理学的に検討し、教育の方針を提示しながら、実践的な指導方法を紹介する。



新刊

もう迷わない！ ことばの教室の吃音指導

今すぐ使えるワークシート付き

菊池良和【編著】 高橋三郎・仲野里香【著】

● B5判/定価 2530円(税込)



新刊

医師、教師、言語聴覚士が、吃音症状へのアプローチから困る場面での対応までを幅広く紹介。ワークシート付き。



富田分類から学ぶ 障害の重い子どもへの コミュニケーション支援

いつでも・どこでも・誰でも・すぐにできる

富田朝太郎【著】 ● B5判/定価 2200円(税込)

言語聴覚士が考えた、障害の重い子どもへのコミュニケーション支援入門書。今できることを。明日もいっしょに。



学校でできる 言語・コミュニケーション 発達支援入門

事例から学ぶことばを引き出すコツ

池田泰子【編著】 松田輝美・菊池明子【著】

● B5判/定価 1980円(税込)

28の事例をもとに、言語・コミュニケーションの基礎知識から支援までを理解する入門書。

シリーズ きこえとことばの発達と支援

特別支援教育・療育における

聴覚障害のある 子どもの理解と支援

廣田栄子【編著】 ● B5判/定価 4180円(税込)

言語獲得の基礎となる「幼児期から児童期への発達の移行」に焦点を当て、知見を元に言語習得の支援について解説する。



新刊

マインドフルネス動作法

自他に寄り添う「無心のとけあい」

今野義孝【著】 ● A5判/定価 2420円(税込)

障害のある人、高齢者や生きづらさを抱える人などへ、無心の態度で寄り添うことの重要性を説く。



いじめ防止の3R

すべての子どもへのいじめの予防と対処

ロリ・アーンスパージャー【著】

奥田健次【監訳】 冬崎友理【訳】

● A5判/定価 3300円(税込)



特別支援学校 教育実習ガイドブック

インクルーシブ教育時代の教員養成を目指して

新刊

遠藤愛・宇田川和久・高橋幸子【編著】

● B5判/定価 2420円(税込)

実習に臨む学生、受け入れ校の教員、養成校の実習担当者、特別支援学級や通級の初任者にも必携の1冊。



14歳からの発達障害サバイバルブック Part2

自分自身に贈る ギフト(強み)のを見つけ方

難波寿和【著】 たかはしちかえ【イラスト】

● A5判/定価 1980円(税込)

新刊

人生を切り抜けるために必要なギフト(強み)のを見つけ方について、障害当事者であり支援者でもある著者が、生きづらさを抱えた当事者へ指南する。



幼稚園や学校で話せない子どものための 場面緘黙支援入門

園山繁樹【著】 ● 四六判/定価 1760円(税込)

場面緘黙の子どもたちが経験する「困った場面」の解消方法や、「話せる」に向けた具体的な支援を紹介。

子どもの心の世界がみえる 太田ステージを通じた 発達支援の展開

立松英子【編著】 齋藤厚子【著】

● B5判/定価 2530円(税込)

「太田ステージ評価」を心の世界を知る道具として捉え、トータルな人間的成長を支えるアプローチとして役立つ視点を提供する。



VB 指導法

発達障がいのある子のための
言語・コミュニケーション指導

メアリー・リンチ・バーベラ【著】 杉山尚子【監訳】 上村裕章【訳】

● A5判/定価 3740円(税込)

臨床家のための 場面緘黙改善プログラム

高木潤野【著】 ● B5判/定価 2530円(税込)



「子どもの気持ち」と「先生のギモン」から考える

学校で困っている 子どもへの支援と指導

日戸由川【監修】 安居院みどり・萬木はるか【編】

● B5判/定価 2200円(税込)



聴覚情報処理検査 (APT) マニュアル

加我君孝【監修】 小淵千絵・原島恒夫・田中慶太【編著】
坂本圭・小林優子【著】 ● B5判/定価 2420円(税込)



特別支援教育図書
学苑社

Tel 03-3263-3817

Fax 03-3263-2410

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2

E-mail: info@gakuensha.co.jp <https://www.gakuensha.co.jp/>

気になる子どもが変わる 16の鉄則

三重県立かがやき特別支援学校あすなろ分校の教育プログラム



- 松浦直己=監修
三重県立かがやき特別支援学校あすなろ分校=編著
- 定価2,200円(税込) ●B5判・168頁
- 2022年7月発行 ISBN978-4-8058-8725-7

医療と教育がタッグを組んで、地域の気になる子ども達の支援を長年行ってきたあすなろ分校。その蓄積から生まれた16の支援の鉄則を紹介。対応に悩む教員へ解決の糸口やヒントを与える。

実践！ 特別支援教育の アクティブ・ラーニング

子どもの内面を捉え、学びの過程に寄り添う教員研修



- 竹村 哲=監修/柳川公三子=編集
富山大学人間発達科学部附属学校園「専門家として学びあい高め合うための校内研修の在り方」共同研究プロジェクト=著
- 定価2,640円(税込) ●B5判・160頁
- 2019年9月発行 ISBN978-4-8058-5911-7

特別支援教育における、主体的・対話的で深い学びにつながるアクティブ・ラーニングの具体的な方法を、実践事例とともに解説。

教室でできる タブレットを活用した 合理的配慮・自立課題



- 鴨下賢一=編著
糸賀 孝、小玉武志、善明史恵、高橋知義=著
- 定価2,420円(税込) ●B5判・196頁
- 2022年3月発行 ISBN978-4-8058-8450-8

子どもの障害特性に合わせたタブレットの使い方、アプリ等を使った合理的配慮のアイデア、自立課題づくりに活用できるアプリを具体的に解説。教材づくりのWEB動画付き。

教師が活用できる 親も知っておきたい 発達が気になる子の 学校生活における合理的配慮



- 鴨下賢一=編著/池田千紗、荻野圭司、小玉武志、高橋知義、戸塚香代子=著
- 定価2,420円(税込) ●B5判・198頁
- 2020年7月発行 ISBN978-4-8058-8159-0

様々なハンディをもつ子どもたちの学習機会を奪わないため、学校側ができる配慮の方法を提案した一冊。具体的な81項目について、ポイントとなる視点や配慮の具体例を示した。

自閉症・知的障害者支援に役立つ 冰山モデル・ABC分析 シートの書き方・活かし方



- 林 大輔=著
- 定価2,640円(税込) ●B5判・176頁
- 2022年4月発行 ISBN978-4-8058-8456-0

障害支援のスタンダードである冰山モデルシート・ABC分析シートの書き方・活かし方がわかる1冊。事例をマンガで示し、シートを使ったミーティングの流れを紹介しながら、話し合いのコツや支援方針の導き方など具体的に解説した。

TEACCHプログラムに基づく 自閉症児・者のための 自立課題アイデア集

身近な
材料を活かす
95例



- 諏訪利明=監修/林 大輔=著
- 定価2,420円(税込) ●B5判・152頁
- 2019年3月発行 ISBN978-4-8058-5837-0

TEACCHプログラムに基づいて、身近で手軽な素材を使った「自立課題」の作り方を写真で紹介。さらに、日常生活での活用方法も提案する。数多くのアイデアを紹介することで、個別性に応じたかかわりを支援する。

教室でできる 気になる子への認知行動療法

「認知の歪み」から起こる行動を変える13の技法



- 松浦直己=著
- 定価2,200円(税込) ●B5判・160頁
- 2018年10月発行 ISBN978-4-8058-5754-0

「僕ばかり叱られる」「私はみんなに嫌われている」など、認知の偏りから問題行動を起こす子どもたちに対し、認知行動療法を応用して適切な方法へと導く13の技法を紹介。学校だからこそできる支援の具体的な方法を解説する。

教室でできる 気になる子への認知行動療法

実践ワーク編



- 松浦直己=著
- 定価2,200円(税込) ●B5判・176頁
- 2020年9月発行 ISBN978-4-8058-8192-7

教員が認知行動療法を進めるために必要な対人援助スキルを解説し、実践に使える多数のワークシートを紹介。「『認知の歪み』を理解するワークシート」「感情に働きかけるワークシート」などを使った具体的な展開方法を指南する。

特別支援教育免許シリーズ

全12巻

【シリーズ監修】 花熊 暁（関西国際大学大学院教授） 荻田 知則（愛媛大学教授）
 笠井 新一郎（宇高耳鼻咽喉科医院言語聴覚士） 川住 隆一（元 東北福祉大学教授）
 宇高 二良（宇高耳鼻咽喉科医院院長）

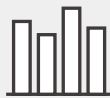
特別支援学校教諭免許取得を目指す人のための初の体系的テキストシリーズ

● 2017年告示の教育要領・学習指導要領準拠。

採用者特典



図表データ
サービス



教科書として20部以上ご採用いただいた場合、
採用者特典として図表のデジタルデータをダウンロードいただけます。

第1欄

特別支援教育概論

【主な項目】 特別支援教育について 特別支援教育の仕組み 障害のある子どもとのかかわり方 特別支援教育における現代的諸問題

花熊 暁・川住隆一
荻田知則 編著
B5判・240頁
定価3,190円（本体2,900円+税10%）

第2欄

● 聴覚障害教育領域

聞こえの困難への対応

【主な項目】 聴覚障害教育の概要 生理・病理・心理 聴覚障害児の教育課程・指導法 聴覚障害児者の生涯発達支援

宇高二良・長嶋比奈美
加藤哲則 編著
B5判・160頁
定価2,530円（本体2,300円+税10%）

● 視覚障害教育領域

見えの困難への対応

【主な項目】 視覚障害教育の概要 心理・生理・病理 教育課程・指導法 生涯発達支援

氏間和仁・永井伸幸
荻田知則 編著
B5判・272頁
定価3,520円（本体3,200円+税10%）

● 知的障害教育領域

認知機能・知的機能の困難への対応

【主な項目】 認知機能・知的機能の困難の概要 心理・生理・病理 教育課程・指導法 生涯発達支援

笠井新一郎・坂井 聡
荻田知則 編著
B5判・208頁
定価2,860円（本体2,600円+税10%）

● 肢体不自由教育領域

運動機能の困難への対応

【主な項目】 肢体不自由教育の概要 生理・病理・心理 肢体不自由児の教育課程・指導法 肢体不自由児者の生涯発達支援

櫻木暢子・笠井新一郎
花井丈夫 編著
B5判・208頁
定価2,860円（本体2,600円+税10%）

● 病弱教育領域

健康面の困難への対応

【主な項目】 病弱教育の概要 心理・生理・病理：子どもの病気 病気の子どもの教育 病弱教育の現代的諸問題

中野広輔・櫻木暢子
滝川国芳 編著
B5判・192頁
定価2,750円（本体2,500円+税10%）

第3欄

● 合理的配慮

支援機器を用いた合理的配慮概論

【主な項目】 障害のある子どもの教育制度と基本的な考え方 困難さに対応した支援機器の活用 教育課程・指導法 支援機器を活用するための制度とリソース

金森克浩・大杉成喜
荻田知則 編著
B5判・208頁
定価2,860円（本体2,600円+税10%）

～以下続刊～

第1欄

「気になる子」をみる・かかわる視点

第3欄

複数の困難がある子への対応
ことばの困難への対応

生涯にわたる配慮・支援

学習・行動上の問題への対応

〒112-0011 東京都文京区千石4-2-15

株式会社 **建帛社**

Tel: 03-3944-2611 / Fax: 03-3946-4377
<https://www.kenpakusha.co.jp/>



第18回

児童教育実践 についての 研究助成

応募受付期間

2022.7.1 Fri. ▶ 10.31 Mon.

ことば、まなび、おうえん



助成期間

2023年4月1日から1年間または2年間
※2ヵ年助成の場合は1年経過時に中間報告の必要があります。

対象となる研究

- 「ことばの力」を育む研究
- 児童教育実践の質を向上させる研究

応募資格

- 日本の大学・研究機関に所属する研究者
- 日本の学校・教育委員会に所属する教育実践に携わる方

※応募に際しては、所属長あるいは指導教官からの推薦が必要です。

助成金額

1ヵ年助成：1件につき200万円を限度に助成します
2ヵ年助成：1件につき300万円を限度に助成します

審査委員

米田 英嗣 青山学院大学 准教授
針生 悦子 東京大学大学院 教授
藤野 博 東京学芸大学大学院 教授
藤森 裕治 文教大学 教授(審査委員長)
横山 詔一 国立国語研究所 教授
(五十音順)



Webにて応募受付、詳しくは
博報財団ホームページをご覧ください
<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/>

博報堂教育財団

Hakuhodo Foundation

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル14階 TEL:03-6206-6266 FAX:03-6206-6582

自閉症スペクトラム障害とアルコール 依存の始まりから回復まで

マシュー・ティンズリー、サラ・ヘンドリックス 著 長尾早江子 監訳
呉みどりヶ丘病院翻訳チーム 訳 田宮聡 翻訳協力 ©2640円

英国の当事者と専門家の共著による、アルコール依存症と自閉症スペクトラム障害を合併したケースに関する基本文献。発達障害児者は緊張を和らげるためにアルコールを使用することがあり、これが依存症のきっかけとなる。当事者や支援者にとって待望の邦訳版。

学習障害のある子どもが 第2言語を学ぶとき

限局性学習困難の概念・アセスメント・学習支援

ジュディット・コーモス 著 竹田契一 監修 飯島睦美 監訳
緒方明子、原恵子、品川裕香、柴田邦臣、貝原千馨枝 訳 ©2750円

モンゴル国における知能検査の開発 子どもに寄り添った発達支援を目指して

永田雅子、野呂健二、名古屋大学心の発達支援研究実践センター 編 ©3960円

医療・保健・福祉・心理専門職のための アセスメント技術を高めるハンドブック

ケースレポートとケース記録の方法からケース検討会議の技術まで
近藤直司 著 ©2200円

日本統治下の台湾と朝鮮における 特殊教育 発展と停滞の諸相

中村満紀男 著 ©6380円

植民地・台湾および朝鮮と統治国・日本とを対照し、台湾の盲啞教育が振興する一方、朝鮮では停滞した原因が近代化に対する受容(台湾)と拒否(朝鮮)の結果であることを明らかにする。盲啞教育について戦前日本と台湾および朝鮮を比較対照して考察した日本最初の研究書。

障害児教育のアメリカ史と日米関係史 後進国から世界最先端の特殊教育への飛翔と失速

中村満紀男 著 ©18700円

盲ろう児コミュニケーション教育・支援ガイド 豊かな「会話」の力を育むために

バーバラ・マイルズ、マリアンヌ・リジオ 編著
岡本明、山下志保、亀井笑 訳 ©3520円

ヘレン・ケラーの日記

サリヴァン先生との死別から初来日まで
ヘレン・ケラー 著 山崎邦夫 訳 ©3300円

施設訪問アドボカシーの理論と実践

児童養護施設・障害児施設・障害者施設におけるアクションリサーチ
栄留里美、島海直美、堀正嗣、吉池毅志 著 ©6050円

イタリアのフルインクルーシブ教育

障害児の学校を無くした教育の歴史・主題・理念
アントネッロ・ムラ 著 大内進 監修 大内紀彦 訳 ©予価2970円

9月中旬刊行

◎予価2970円

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
<https://www.akashi.co.jp/>

TEL.03-5818-1171
FAX.03-5818-1174

*価格税込
*目録送呈



私たちは心理テストの「総合代理店」 お電話一本、メール一本で

日本のエーゲ海（瀬戸内海）から
あらゆる発行元の多様な心理テストを
国内外の大学・企業～医療団体に「一括お届け」をしています。

総合カタログ～パンフ等をお送りします。ホームページからダウンロードも出来ます。
ホームページをご参照下さい。予算組み・見積り～合見積りにも対応容易です。

<http://www.saccess55.co.jp/>

日本心理検査振興協会会員

**Scientific
ACCESS**
for
the
**BEtter
Life**

●代表的ユーザー

学生相談室カウンセラー
スクールカウンセラー
臨床心理士・言語聴覚士
クリニック・精神科医師
産業カウンセラー
能力開発トレーナー
人事採用担当者・研修担当者
福祉関係指導者
特別支援教育関係者
学校教諭養護教諭
幼児教育関係者

●代表的発行元

チーム医療
金子書房
クリエーションアカデミー
日本文化科学社
日本精神技術研究所
三京房
竹井機器
田研出版
実務教育出版
日本ボーディング協会
学芸図書
新興医学出版社

●代表的検査

交流分析ビデオ
箱庭療法用具
カウンセリングツール
ロールシャッハテスト
TEG・SCT
CMI・SDS・YG
内田クレベリン検査
WISC～WAIS
SLTA・リハブ・MMS
自律訓練ビデオ
人事採用検査 各種
学校用集団式検査 各種

SACCESS・BELL

サクセス・ベル株式会社

<http://www.saccess55.co.jp/>

E-mail(代)

jp-bell@saccess55.co.jp

Tel 0823-45-5555

IP電話 050-3539-6806

Fax 0823-45-3535

〒737-2302

広島県江田島市能美町鹿川3642-1

チーム学校を実現する 3部作

新版 石隈・田村式援助シートによる
チーム援助入門

学校心理学・実践編

シートに記入するだけで援助が進む。
1次から3次支援まで。公認心理師必携。

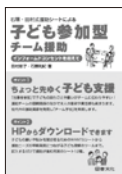


定価 2,750円(税込)

石隈・田村式援助シートによる
**子ども参加型
チーム援助**

インフォームドコンセントを超えて

これからの援助の形。
合理的配慮が求められる時代に。



定価 2,200円(税込)

石隈・田村式援助シートによる
**実践チーム援助
特別支援教育編**

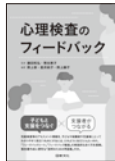
特別支援教育コーディネーター必携。
援助案の具体例が満載。

石隈利紀・田村節子 著



定価 2,640円(税込)

特別支援教育の本



心理検査のフィードバック

「長所活用型指導」に基づく、
自分の強みがわかるフィードバックとは

藤田和弘・熊谷恵子 監修
熊上 崇・星井純子・熊上藤子 編著

定価 3,080円(税込)

**「継次処理」と「同時処理」
学び方の2つのタイプ**

認知処理スタイルを生かして
得意な学び方を身につける

藤田和弘 著 定価 2,420円(税込)



ADHDのコーチング

—実行機能へのアプローチ—

「わかっていても、やる気が出ない、続かない」
への対応策

熊谷恵子 監修 安藤瑞穂 著

定価 2,420円(税込)

教室でできる
特別支援教育のアイデア

月森久江 編 小学校編 定価 2,640円(税込)
小学校編 Part2 定価 2,640円(税込)
中学校編 定価 2,860円(税込)
中学・高等学校編 定価 2,860円(税込)



〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

●ASDのある女性が持つ世界の理解のために
続・発達障害のある女の子・女性の支援

自分らしさとカムフラージュの狭間を生きる

川上ちひろ・木谷秀勝 編著 A5判・200頁 定価 2,200円(税込)

近年注目を集める「ASDのカムフラージュ」に焦点を当て、ASDをはじめとする発達障害のある女性の理解を深められる1冊。

関連書籍 **発達障害のある女の子・女性の支援** 川上ちひろ 既刊
「自分らしく生きる」ための「からだ・こころ・関係性」のサポート 木谷秀勝 編著



●困っていることや学び方などを自分で研究しよう！

特別な支援が必要な子たちの「自分研究」のススメ

子どもの「当事者研究」の実践

熊谷晋一郎 監修/森村美和子 著

A5判・116頁 定価 1,980円(税込)

発達障害など様々な領域で実践されている当事者研究を、学校で特別な支援ニーズを持つ子たちと実践した「自分研究」の事例を紹介。



●障害のある学生を適切にサポートできる支援者になるために

障害学生支援入門
合理的配慮のための理論と実践

桑原 斉・中津真美・垣内千尋・熊谷晋一郎 著

A5判・168頁 定価 2,420円(税込)

大学など高等教育機関の障害学生支援に必要な知識を、障害種別を問わず、包括的かつ多領域にわたり結集した、支援者のための教科書。



●最先端の研究が明らかにするASDの感覚の世界

**科学から理解する
自閉スペクトラム症の感覚世界**

井手正和 著

A5判・190頁 定価 2,310円(税込)

昨今注目を浴びる自閉スペクトラム症(ASD)の人が持つ感覚過敏をはじめとする感覚の問題に焦点を当てた最前線の研究を紹介する。



●DCDのある人への理解と支援の輪を広げる

**DCD・不器用な子も楽しめる
スポーツがある社会のために**

運動に悩む子・先生・コーチへのメッセージ

北 洋輔・澤江幸則・古荘純一 編

A5判・224頁 定価 2,970円(税込)

運動の苦手な子の実情とスポーツの意味を探り、「楽しめるスポーツのある社会」を目指した、専門家による支援や指導法の工夫を詳説。



●青年期から成人期の発達障害のある学生の心理教育

**特別支援教育のための
障害理解**

未来に開かれた教育へ

濱田豊彦 監修/東京学芸大学特別支援科学講座 編

A5判・284頁 定価 3,190円(税込)

教員免許状取得のための必修科目と教職課程コアカリキュラムを反映した基本的事項を中心としながら、発展的な学修ができるテキスト。

〒112-0012 東京都文京区大塚3-3-7

金子書房

☎03(3941)0111(代) FAX03(3941)0163
URL <https://www.kanekoshobo.co.jp>

戦前の東京市の初等教育と「特別な教育的配慮・対応」の研究

石井 智也著 8250円
戦前日本の初等教育にて子どもの多様な就学困難に応じた「特別な教育的配慮・対応」がいかなる経緯で誕生し、制度化されたのか、東京市を事例に実証的に解明。

特別支援学校におけるICFの活用に関する研究

清水 浩著 予価8800円
特別支援学校におけるICFの視点を活用した授業内容や生徒への支援方法について、卒業後の社会に主体的に参加する力の育成に関する視点からまとめた研究である。

発達障害等を有する非行少年と発達支援の研究

内藤 千尋著 7700円
発達障害等の発達困難を有する非行少年の支援ニーズとは何か。少年鑑別所・少年院・保護観察所等の全国調査をもとに発達支援のあり方を検討した最初の学術書。

近江学園・びわこ学園における重症児者の「発達保障」

垂髪あかり著 8250円
近江学園・びわこ学園における重症児者の「発達保障」のあゆみについて、思想史研究、施設実践史研究、個別事例研究を連関させた複合的アプローチにより検討。

公認心理師・臨床心理士のための高次脳機能障害の診かた・考え方

中野 光子著 2750円
高次脳機能障害の診断全般を扱い、心理検査および神経心理学的検査について解説。医療現場で働く心理師(士)などを対象に、アセスメントの実際を具体的に提示する。

濃尾震災(1891年)における子ども救済と特別教育史研究

能田 昂著 予価7700円
「災害・感染症パンデミック・戦争等の災禍と子ども救済の特別教育史」の開拓をめざし、濃尾震災(1891年)における子どもの被災・救済の実態を実証的に解明した。

発達障害当事者の睡眠困難と発達支援の研究

柴田真緒・高橋 智著 8800円
慢性的な睡眠不足状態にある中で、各種の調査研究を通して、発達障害当事者が有する睡眠困難の実態や支援ニーズを解明し、発達支援の課題を明確にした新著。

発達障害等の子どもの食の困難と発達支援

田部純子・高橋 智著 8800円
発達障害等の子どもはどのような食の困難を有し、いかなる支援を求めているのか。当事者、保護者、教師、学校栄養職員への調査をもとに総合的に明らかにしている。

日本語を母語とする特異的言語発達障害児の言語特徴

村尾 愛美著 4950円
日本語を母語とする特異的言語発達障害児(SLI児)の言語を縦断的・横断的に検討。実証的データに基づき、日本語のSLI児の言語特徴を明示的に提案した書。

知的障害を伴わない発達障害児・者のきょうだいの体験に関する研究

大瀧 玲子著 11000円
ASDやADHDなど知的障害を伴わない発達障害児・者のきょうだいはどうの体験をしているのか? 児童期から成人期に至るまでの体験を質的に検討し明らかにした。



障害のある子供の教育支援の手引

～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に～

文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 編著

A4判/480頁 定価1,980円(本体1,800円+税)
ISBN 978-4-86371-613-1

文部科学省が令和3年6月に発表した「障害のある子供の教育支援の手引」と「小学校等における医療的ケア実施支援資料」をまとめて書籍化。障害種ごとに「教育的ニーズ」を詳細に記し、就学相談などで必要な判断・支援を行うときの基本的な考え方を示す。さらに、医療的ケア児の受け入れにあたって理解しておくべきことも網羅。



学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン

+学校安全推進のための
教職員向け研修・訓練実践事例集

文部科学省総合教育政策局 著

A4判/カラー262頁 定価1,980円(本体1,800円+税)
ISBN 978-4-86371-611-7

自然災害や火災、突発的な事件、事故などから児童生徒の生命を守り、安全を確保するために、学校の「危機管理マニュアル」は常に見直しと改善、そして実践的な研修や訓練が求められる。そのための指針として文部科学省が令和3年に発表したガイドラインと実践事例集を一冊にまとめて書籍化。



発達に遅れがある子どものお金の学習

川間健之介・川間弘子・奥由香 著

発達に遅れがある子どもが、数の概念や数字の読み分け、硬貨の弁別を習得し、お財布の中から必要額を出せるようになることを目指した指導書。筆者が考案した教材を使用しながら、子どもの発達段階に応じた指導法を伝授する。指導の手順は、文中のQRコードから動画で確認できる。

B5判/136ページ オールカラー
定価2,530円(本体2,300円+税)
ISBN 978-4-86371-632-2



かゆいところに手が届く重度重複障害児教育

松元泰英(医学博士・言語聴覚士) 著
イラスト:さめしまことえ

重度重複障害児教育の入門書として好評の『目からウロコの重度重複障害児教育』の続編。教育現場ですぐに実践できるよう、障害に応じた具体的な支援方法を豊富なイラストで、わかりやすく解説しているのは前作と同様。今作では、特に学校で求められる「自立活動」「摂食指導」「医療的ケア」「コミュニケーション」の内容を重点的に掲載しています。また疾患別の指導を解説。子どもの実態に応じた指導の助けになる、正にかゆいところに手が届く内容。

B5判/192頁 定価2,530円(本体2,300円+税)
ISBN 978-4-86371-630-8

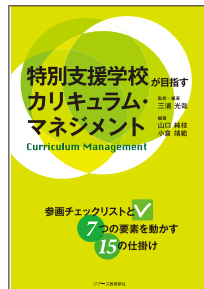


社会に参加する力を育む単元開発 障害の重い子供のための各教科の授業づくり

下山直人(元 筑波大学教授・筑波大学附属桐が丘特別支援学校校長) 監修
筑波大学附属桐が丘特別支援学校 編著

障害の重い子供の教育の現状を踏まえ、各教科の目標・内容や観別学習状況の評価などを整理し、桐が丘の考え方を提案。また、各教科(国語、算数・数学、生活・社会・理科、音楽、体育・保健体育、図画工作・美術)の授業づくりの考え方、発達段階ごとの実践例を紹介。授業づくりの悩み解消の手がかりとなる一冊!

B5判/196頁 定価2,530円(本体2,300円+税)
ISBN 978-4-86371-635-3 C3037



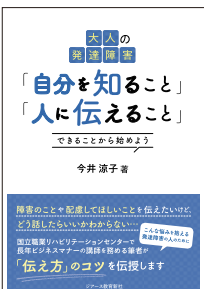
特別支援学校が目指すカリキュラム・マネジメント

～参画チェックリストと7つの要素を動かす15の仕掛け～

三浦光哉 監修・編著 山口純枝・小倉靖範 編著

「特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントとは一体何か」をあらためて検討し、管理職だけでなく、学級担任や教育委員会、外部専門家、児童生徒、保護者など、関係者全員でカリキュラム・マネジメントに参画するための仕掛けづくりを提案。「いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように」すればよいか、具体的に確認できる『特別支援学校用カリキュラム・マネジメントチェックシート』を開発。実際にカリキュラム・マネジメントの改善に取り組んだ3校の事例も紹介する。

B5判/188頁 定価2,530円(本体2,300円+税)
ISBN 978-4-86371-633-9



大人のための発達障害「自分を知ること」「人に伝えること」

～できることから始めよう～

今井 涼子(国立職業リハビリテーションセンター講師) 著

「自分の障害のことが配慮してほしいことを伝えたいけど、どう話したらいいかわからない…」—こんな悩みを抱える発達障害の人は多いのではないだろうか。元フリーアナウンサーで、長年、国立職業リハビリテーションセンターでビジネスマナーの講師を務める筆者が、多くの受講生とのかかわりの中で見出した「伝え方のコツ」や「困ったときの対処法」を提案する。

四六判/164頁 定価1,760円(本体1,600円+税)
ISBN978-4-86371-636-0 C0036



感じて理解する 視覚に障害のある生徒への教育実践 中学・高校物理の学びに役立つ実践集

石崎喜治 著

盲学校の理科の教員として35年間務めた著者が、視覚に障害のある生徒への物理教育の実践をまとめた。生徒が自然現象にじかに触れ、初めて使う装置を使いこなし、視覚以外で感じ、生き生きと実験に取り組めるよう工夫をこらしたアイデアの数々。盲学校だけでなく、通常校の物理教育の授業においても役立つもので、生徒の学びを深めることができる。

B5判/180頁 定価2,750円(本体2,500円+税)
ISBN 978-4-86371-634-6 C3037

「よく分かる! 自立活動ハンドブック」シリーズ (全3巻)

特別支援教育のスペシャリストが、自立活動の指導の計画から完成までの手順をやさしく手ほどき

下山直人/監修 筑波大学附属桐が丘特別支援学校・自立活動研究会/編著 各巻定価2,420円(本体2,200円+税)



第1巻 指導すべき課題を導く

自立活動の知っておきたい事柄を踏まえ、実態把握から課題を導き出すまでを詳説

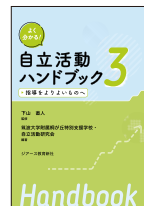
ISBN 978-4-86371-601-8
B5判/188頁



第2巻 指導を計画する

「個別の指導計画」を作成し、実践に至る授業計画に落とし込むまでを詳説

ISBN 978-4-86371-605-6
B5判/180頁



第3巻 指導をよりよいものへ

自立活動の指導を実践し、評価に基づいて授業を改善するまでを詳説

ISBN 978-4-86371-606-3
B5判/186頁





DN-CAS 認知評価システム

5歳0カ月～17歳11カ月の子どもの認知処理過程を評価する検査です。検査基盤に知能のPASS理論を用いており、4つのPASS尺度(プランニング、注意、同時処理、継次処理)と認知機能全体の指標となる全検査尺度を算出します。

| | | | |
|------------------|----------------------|--|---------------------|
| コンプリートセット | 115,500円 (税込) | 原著者 Jack A. Naglieri, J. P. Das | 原版出版社 PRO-ED |
| 検査手引きセット | 11,000円 (税込) | 日本版作成 前川 久男、中山 健、岡崎 慎治 | |
| 記録用紙セット | 14,300円 (税込) | 適用範囲 5歳0カ月～17歳11カ月 | |
| ワークブック(5～7歳) | 9,900円 (税込) | 実施時間 40分～60分 | |
| ワークブック(8～17歳) | 9,900円 (税込) | 医科診療報酬点数 450点(根拠 D285-3) | |
| 実施ガイド(DVD) | 33,000円 (税込) | | |

